

# 児童・生徒の ケガを減らす

— 変えられるものを見つけ、  
変えられるものを変える —

山中龍宏<sup>1,2,3)</sup>, 西田佳史<sup>1,3,4)</sup>, 北村光司<sup>1,3)</sup>,  
太田由紀枝<sup>3)</sup>, 大野美喜子<sup>1,3)</sup>

- 1) 産業技術総合研究所人工知能研究センター
- 2) 緑園こどもクリニック, 3) Safe Kids Japan
- 4) 東京工業大学



# 日本スポーツ振興センター災害共済給付

	発生件数 (件)	発生率 (%)					
		保育所等	こども園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
2014年	1,088,487	2.15		1.73	5.83	10.93	7.76
2015年	1,078,605	2.16	2.15	1.72	5.73	10.86	7.93
2016年	1,053,962	2.17	2.09	1.70	5.58	10.57	8.01
2017年	1,030,882	2.22	2.14	1.78	5.49	10.28	8.02
2018年	991,013	2.30	2.29	1.79	5.36	9.78	7.81
2019年	959,714	2.30	2.35	1.79	5.23	9.39	7.78
2020年	746,913	2.32	2.38	1.71	4.17	6.86	6.06

## ● 子どもの事故のとらえ方 その1

「事故」に対する考え方の推移

以前は「事故」

Accident

( 予測できない、  
避けられない事象 )

最近は「傷害」

Injury

( 予測ができ、  
予防可能な事象 )



まずはじめに、事故に対する意識を変える

## ● 子どもの傷害のとりえ方（Injury Control） その2

子どもの傷害の発生メカニズムの3つの相（Injury Phase）

傷害が  
起こる前  
Injury Prevention



傷害が  
起こる瞬間



傷害が  
起こった後



子どもを守るために最も大切なことは？



傷害は予防しなければならない

● 何故、傷害に遭遇しやすいのか？

小児 → 発達するから

高齢者 → 退行するから

生活機能が変化する者としてとらえる。  
世の中の構造は、健康成人向けにできている。  
小児・高齢者・障害者に対して、組織立った  
傷害予防の取り組みはない。

## ● 子どもの傷害のとりえ方 その3

これまでの子どもの傷害の原因は、親の責任や、本人の不注意とされてきた

本人の  
**不注意**

親の  
**責任**

したがって、指導は・・・

具体性の無い「気をつけて」「目を離さないで」  
ほんのちょっとした気配りで、子どもの事故は予防できる  
傷害が起きてからの 応急処置・治療・リハビリ



傷害の発生頻度は変わらない



# ● 子どもの傷害を確実に減らす その1

傷害を科学的にとらえ、**分析**（過去の傷害事例のデータから）

1. **重傷度が高い**傷害
2. **発生頻度が高い**傷害
3. **増加している**傷害
4. **具体的な解決策がある**もの



**予防活動の実践**

## ● 子どもの傷害を確実に減らす その2

予防を実践した結果は、**データの収集と評価**

1. **発生数・発生率の減少**

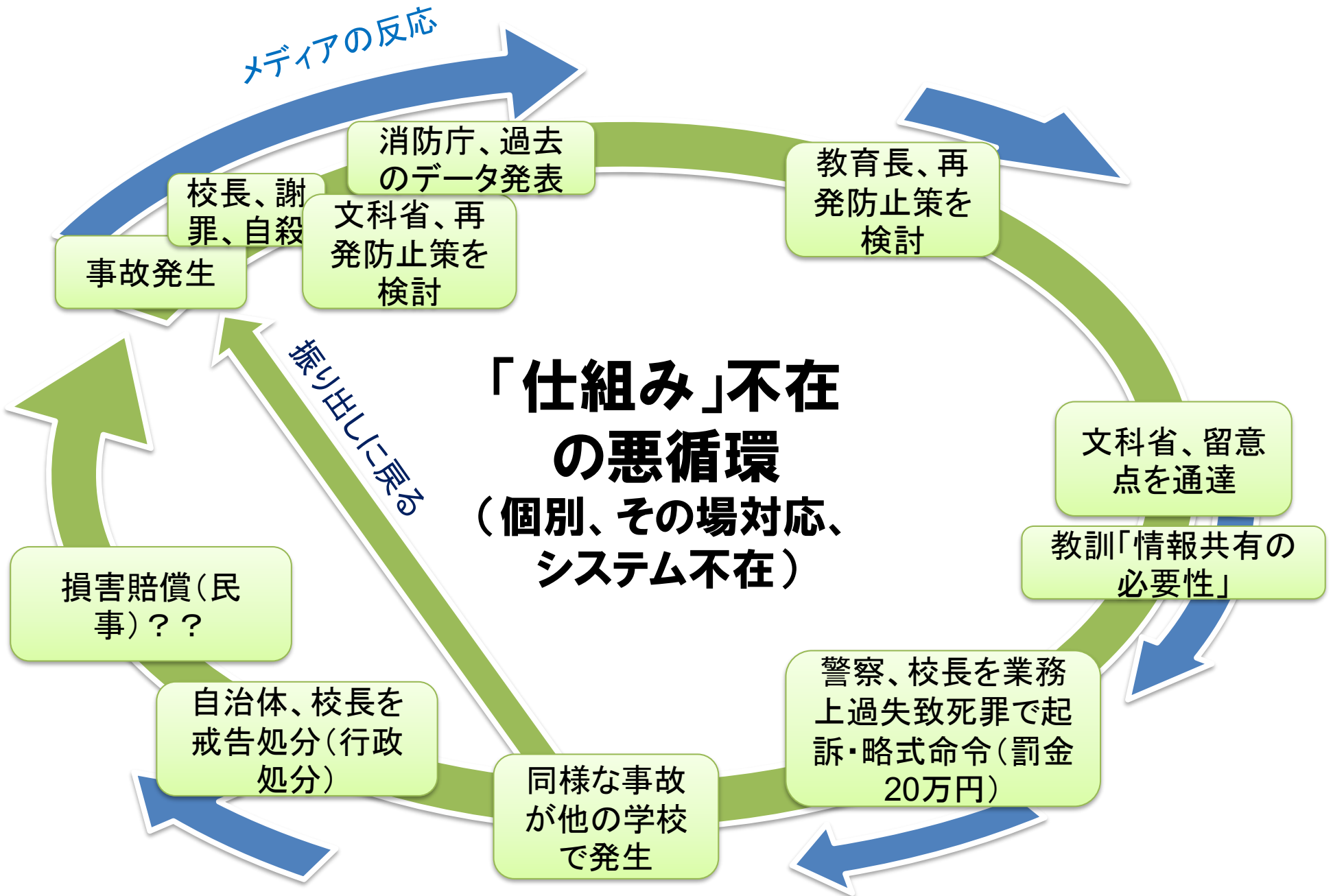
2. **重傷度の軽減**

(通院日数、入院日数、医療費など)



予防活動の評価は必ず**数字**で検証





メディアの反応

校長、謝罪、自殺

事故発生

消防庁、過去のデータ発表

文科省、再発防止策を検討

教育長、再発防止策を検討

文科省、留意点を通達

教訓「情報共有の必要性」

警察、校長を業務上過失致死罪で起訴・略式命令(罰金20万円)

同様な事故が他の学校で発生

自治体、校長を戒告処分(行政処分)

損害賠償(民事)??

「仕組み」不在の悪循環  
(個別、その場対応、システム不在)

振り出しに戻る

# 意味のある傷害予防(3 E's) と 役に立たない傷害予防(3 I's)

	3 E's: 有効な傷害予防 Effective Injury Prevention	3 I's: 無理な傷害予防 Ineffective Injury Prevention
<b>アプローチ</b> 取り得る、もしくは、 現在取られている	<b>Environment</b> (環境・製品) 湯漏れ防止機能付き電気ケトル、 CR付きライター、蒸気レス炊飯器、 衝撃吸収材、ヘルメット	<b>Individual</b> (個人責任・モラル・ 非システムの) 緊張感不足・自治体課長・校長先生処分・ 保護者の責任
	<b>Education</b> (教育) 環境改善を促す教育、定量的な情報提供、 ツールの使い方教育、右の3 I'sが 無力であることの教育	<b>Impossible</b> (実行不可能・ 非科学的) 0. 5秒問題、注意による見守り、目を離さない
	<b>Enforcement</b> (法律・基準) シートベルト装着、飲酒運転禁止、煙感 知器設置、遊具の接地面、自転車 チャイルドシート、ベビーベッド	<b>Instant</b> (即時的・ その場しのぎ) 周知徹底、指針策定、通達、「~すべきだ」と言うだけ、 follow up不在、騒いで忘れる

# 日本と欧米の安全に対する考え方の違い (1)

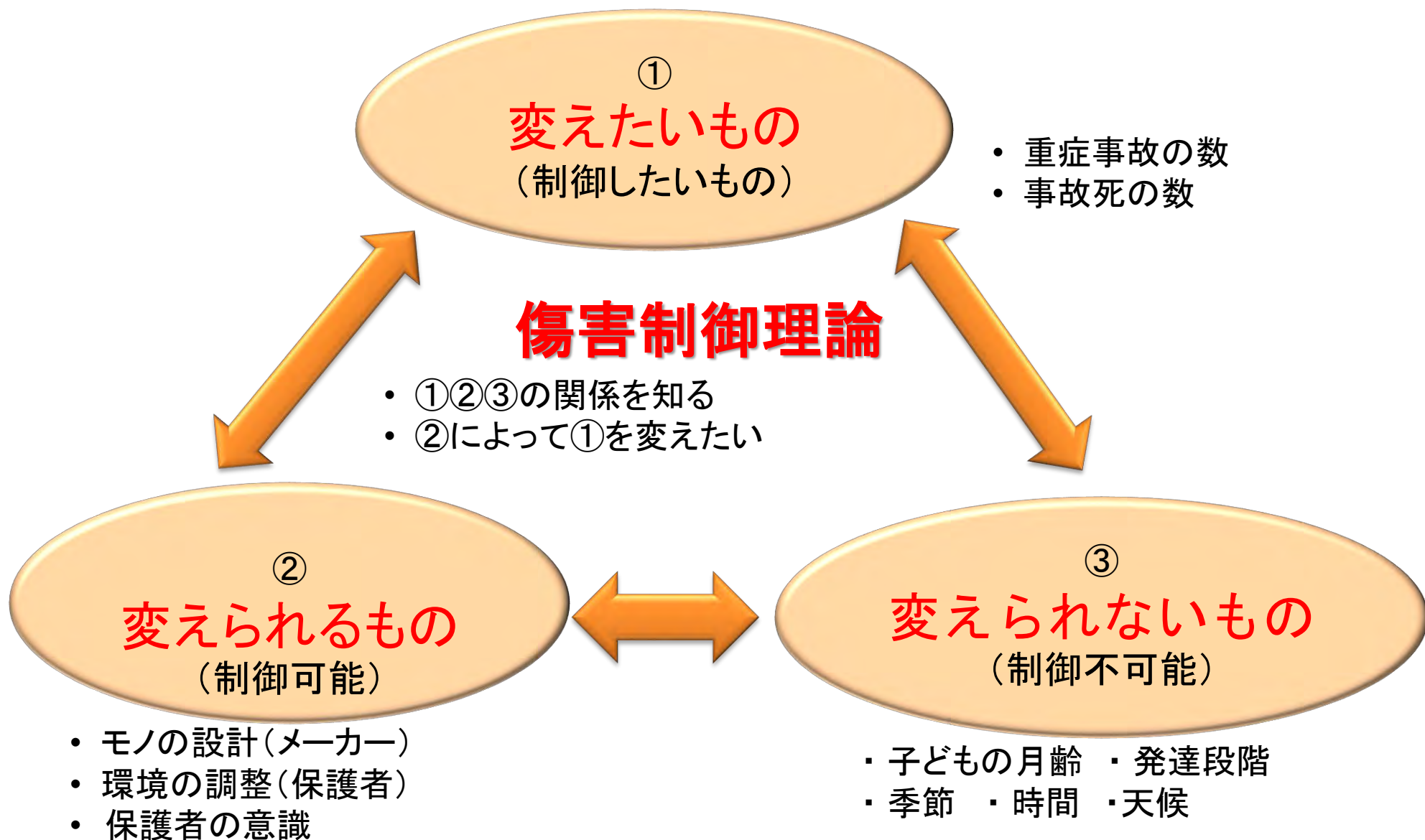
日本の考え方	欧米の考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害は努力すれば、2度と起こらないようにできる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害は、努力しても技術レベルに合わせ必ず起こる</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害の主原因は人である</li><li>○ 技術対策よりも人の対策</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害防止は技術の問題</li><li>○ 人の対策よりも技術対策</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 管理体制、教育訓練と規制の強化で安全を確保</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 人は必ず間違いを犯す</li><li>○ 技術力向上がなければだめ</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 安全衛生法で、対人および設備の安全化を目指す</li><li>○ 災害が発生するたびに規制を強化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 設備の安全化とともに、事故が起きても重大災害にならない技術を開発</li><li>○ 災害低減化に関する技術力向上の努力</li></ul>

## 日本と欧米の安全に対する考え方の違い (2)

日本の考え方	欧米の考え方
○ 安全はただである	○ 安全はコストがかかる
○ 安全にコストを掛けにくい ○ 目に見える具体的危険には最低限のコストで対応	○ 安全にコストを掛ける ○ 危険源を洗い出し、リスクを評価し、評価に応じたコストを掛ける
○ 見つけた危険をなくす技術	○ 論理的に安全を立証する技術
○ 度数率（発見件数）重視	○ 強度率（重大災害）重視

中村昌允、古川勇二：製品設計における安全安心リスク。学術の動向 14(9) : 49-55, 2009

# 傷害予防のための理論 : 傷害の制御理論



## アメリカでのパッシブ戦略(成功例)

- アメリカでは、現在、2千万人規模の野球人口
- 主要な傷害の一つが、スライディングによる傷害
  - 重症なもの: 足関節の骨折、ひざの捻挫、肩の脱臼
- 何が変えられるか?(すぐに思いつくもの)
  - スライディングを禁止する
  - ベースを地面に埋め込む
  - スライディングのスキル向上のための教育

## アメリカでのパッシブ戦略(成功例)

- アメリカでは、現在、2千万人規模の野球人口
- 主要な傷害の一つが、スライディングによる傷害
  - 重症なもの: 足関節の骨折、ひざの捻挫、肩の脱臼
- 何が変えられるか?(すぐに思いつくもの)
  - スライディングを禁止する
    - (問題) 大きな変更は受け入れられない
  - ベースを地面に埋め込む
    - (問題) 審判がセーフ・アウトの判定しにくい
  - スライディングのスキル向上のための教育
    - (問題) 教育をしている時間が確保できない

## アメリカでのパッシブ戦略(成功例)

- 効果が高いのは、「安全なベースの開発」だった



分離型ベース



# アメリカでのパッシブ戦略(成功例)

- 本当か？
- 科学的な検証(これが重要！)
  - 分離型ベースと固定型ベースの比較を1250回のソフトボール試合で行った。
    - 625回を分離型、625回を固定型
  - 結果1
    - 固定型ベース:45回のスライディング傷害
    - 分離型ベース: 2回のスライディング傷害  
(96%の削減効果、しかも、傷害が発生しても軽傷)
  - 結果2
    - その後、全部を分離型ベースに変更し、さらに1000回試合した結果、スライディング傷害は2回

## アメリカでのパッシブ戦略(成功例)

- CDC(アメリカの厚生省疾病対策センター)の試算
- 分離型ベースで毎年170万件のスライディング傷害が予防可能であり、これにより2,000億円の医療費削減が可能



変えたいもの、変えられるもの、変えられないものを見極め、予防を行うことが重要

## 2017年1月13日

# サッカー授業中、ゴールの下敷き...小4男児が死亡

- 2017年1月13日午前9時40分ごろ、福岡県大川市一木の市立川口小のグラウンドで、体育のサッカーの授業中、4年生の男子児童（10）がハンドボール用ゴールの下敷きになり首や肩を挟まれた。病院に搬送されたが約4時間後に死亡した。
- ゴールは高さ約2メートル、幅約3メートル。重さは約130キロ。男児はゴールキーパー役で、味方が相手ゴールに得点したことを喜び、自陣のゴールネットにぶら下がり、倒れたゴールの下敷きになった。
- 通常、ゴールは地面にくいひもで固定されているが、使用した4基のうち、倒れたゴールだけは固定されていなかった。学校は月1回点検することになっているが、昨年10月を最後に点検していなかった。



## ■きっかけ

2017年1月13日、福岡県大川市の小学校で、授業中にハンドボールのゴールが転倒し、当時小学校4年生だった児童が死亡した。2004年の1月13日にも、静岡県静岡市の中学校で、サッカーのゴールが転倒し、当時中学校3年生だった生徒が死亡している。この件に限らず、子どもの事故による重大な傷害は、同じような状況で同じように繰り返されている。

一方、日本スポーツ振興センターでは、日々膨大な傷害データが収集、整理されている。これは主に災害共済給付のためのデータであり、再発予防のためにはほとんど活かされていない。

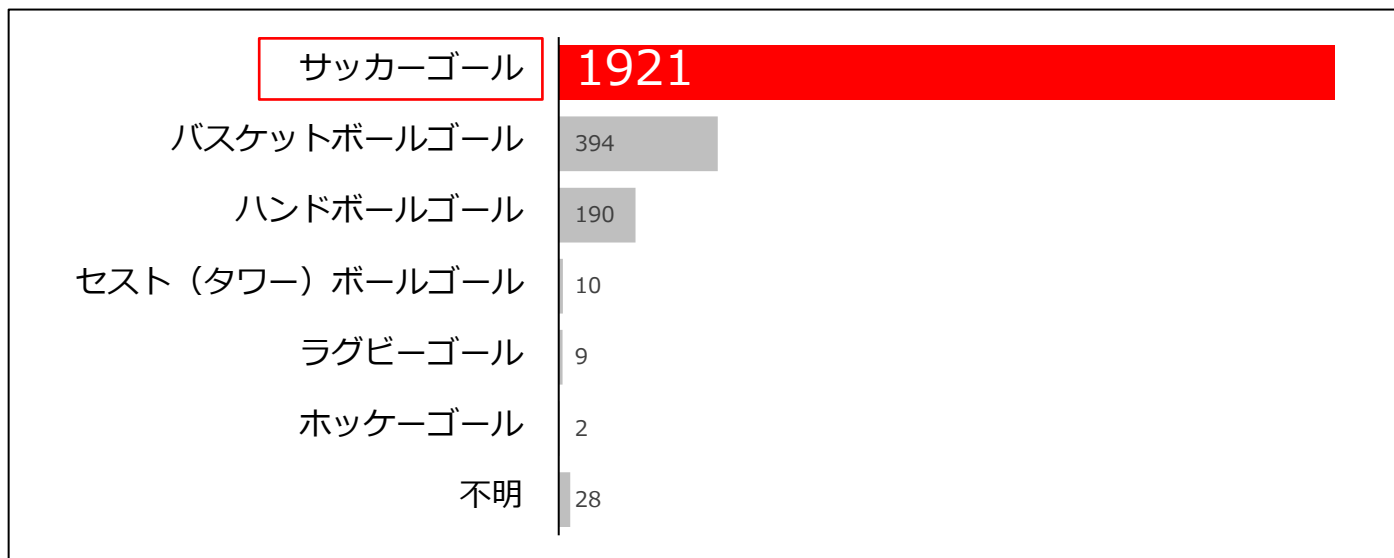
この状況を変えるため、2017年2月から、医療関係者、弁護士、工学系研究者、学校関係者などが集まり、傷害データの分析・検討を行い、再発予防に向けて動き出した。

## ■手法

- ①日本スポーツ振興センターの傷害データの分析および検討
- ②全国の中学校（約500校）を対象とした実態調査
- ③判例分析
- ④再発予防策の検討
- ⑤予防策を「3つの提言」としてまとめ、公開シンポジウムで発表

# 災害共済給付データを用いたサッカーゴール事故の特徴分析

- 日本スポーツ振興センター（Japan Sport Council, JSC）が保有する災害共済給付データを用いて、2014年度に発生した「屋外用ゴール」で抽出した2,554件の中から、「サッカーゴール」に関する負傷事例1,921件（75.3%）を対象
- ネット、固定用金具/重り、ワイヤー/ロープも含む
- 小学校、中学校、高等学校の生徒を対象とした（幼稚園、保育所は除外）



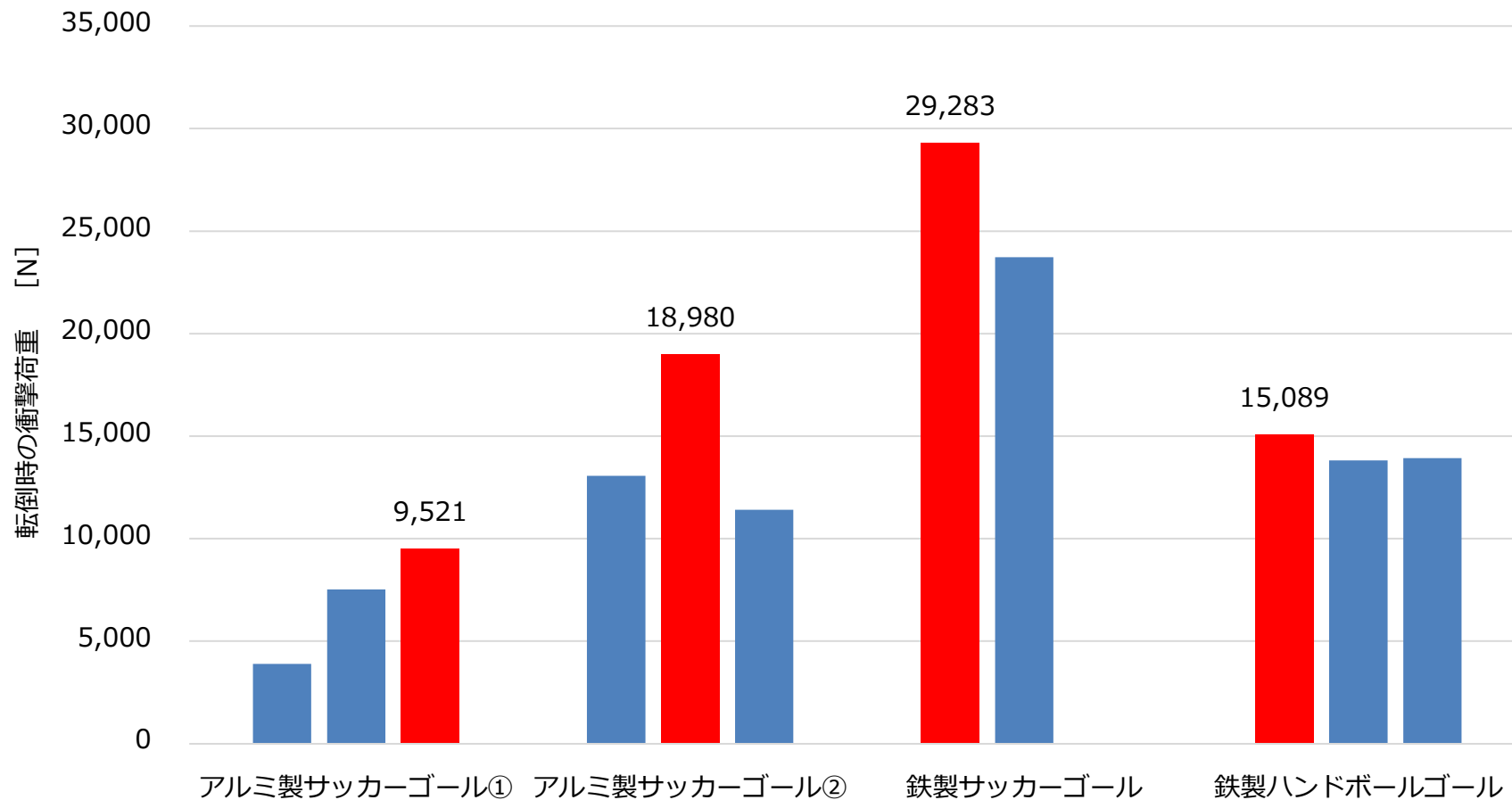
		負傷の発生場面					
		休憩時間	課外指導	各教科等	学校行事	特別活動	合計
受傷 機 転	ゴールに衝突、あるいはゴールやネットにつま ずき・引っ掛かり転倒し、負傷	703	420	204	25	33	1,385
	ゴールを運搬、設置準備、片付け時に負傷	13	194	63	7	4	281
	ぶら下がりや跳びつきにより負傷 [そのうちゴールの転倒による負傷]	88 [2]	29 [2]	39 [2]	8 [1]	6 [1]	170 [8]
	ネットやゴールの揺らしで生じた ゴールの転倒による負傷	4	1	2	0	0	7
	原因が不明なゴールの転倒による負傷	0	1	1	0	0	2
	風でゴールが転倒し、負傷	1	3	7	1	0	12
	ゴールに登る、あるいは腰かけて落下し、負傷	17	0	1	0	0	18
	ゴール固定用金具/重り/ワイヤー/ロープ、あ るいはネットを留めるフック等で負傷	19	9	3	0	1	32
	その他	10	3	1	0	0	14
	合計	855	660	321	41	44	1,921

ゴールが転倒し、負傷した件数 = **29**件

# ゴール転倒実験の様子：アルミ製ゴール



# ゴール転倒時の衝撃荷重



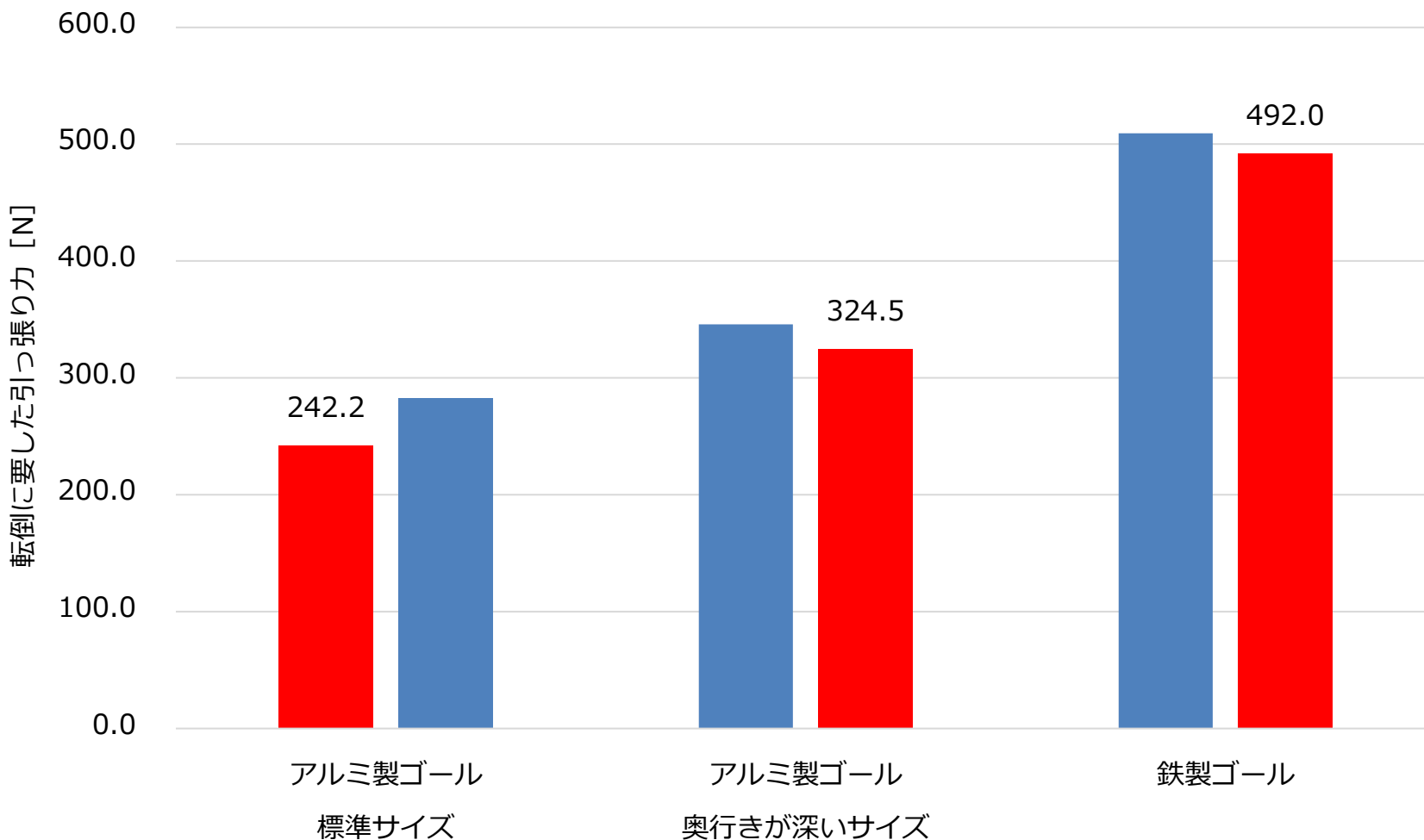
## 最大荷重

- アルミ製サッカーゴール① : 9,521N
- アルミ製サッカーゴール② : 18,980N
- 鉄製サッカーゴール : 29,283N
- 鉄製ハンドボールゴール : 15,089N

頭蓋骨は3,500N~5,000N  
で骨折するため、どのゴール  
でも頭蓋骨骨折リスクがある



# 転倒に要した引っ張り力：重り無しの場合

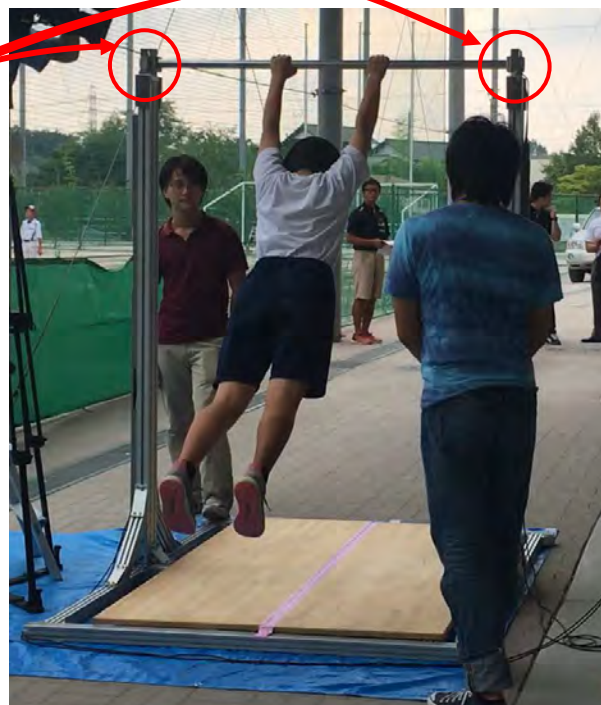


- アルミ製ゴール標準サイズは、242.2 N (24.7kgf)で転倒する
- アルミ製ゴール奥行きが深いサイズは、324.5 N(33.1kgf)で転倒する
- 鉄製ゴールは、492.0 N(50.2kgf)で転倒する

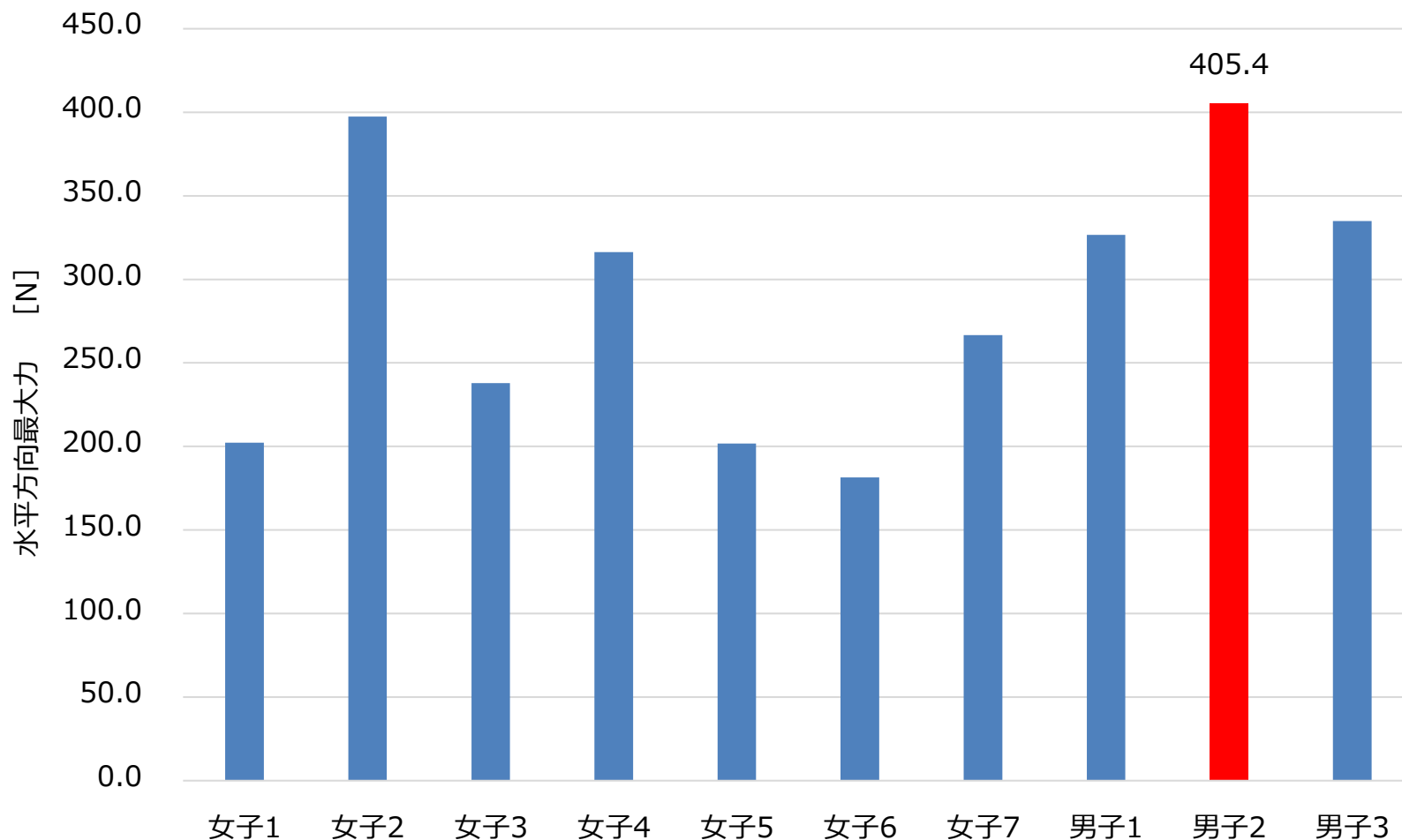
# サッカーゴールにぶら下がって揺れた場合に掛かる力の計測

- 実験内容  
鉄棒上の試験装置にぶら下がって揺れてもらい、その際に棒に掛かる荷重を計測する
- 対象：中学生10人
- 条件：一人の場合、二人の場合
- 協力校：川崎市立柿生中学校

2軸荷重センサ



# ゴール転倒に影響する水平方向の力(1人の場合)



1人でも、ゴールに最大405.4N(41.4kgf)の力を掛けられる

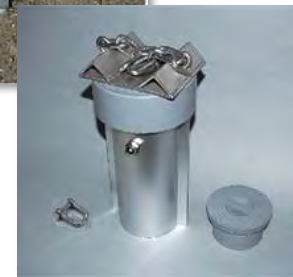
# 実効性のある予防策に向けた提言

## □ 提言1:ぶら下がらない、懸垂しない。

⇒倒すこと自体が極めて危険な作業。転倒時は、1.8トン(アルミ製)～3トン(鉄製)程度の力が発生する危険がある。これは頭蓋骨骨折するレベル(350～500kgf)を大きく上回る力で、実際、数多くの死者が出ている。運搬も労働安全の観点からは一人当たり15kg未満が目安。今日紹介した動画を活用し、児童・先生に危険性を効果的に伝えるのも一案。⇒これが無理な場合は、提言3へ

## ■ 提言2:杭に固定すること(次善策:100kg以上の重りで固定する)

⇒人は跳びつきたくなる・揺らしたくなる欲求があるので、一人が跳びついて(40kgf発生)転倒しにくいようにする。突風(瞬間最大風速 30m/sで、平均風速だと15～20m/s)では100kgfの力がかかる。ゴールの奥行が60cmなどと危険なゴールも存在。簡単に固定できる製品(重りや杭)が売られており、これを利用する。⇒これが無理な場合は、提言3へ



## ■ 提言3:安全な簡易・軽量ゴールの開発・安全基準づくり。

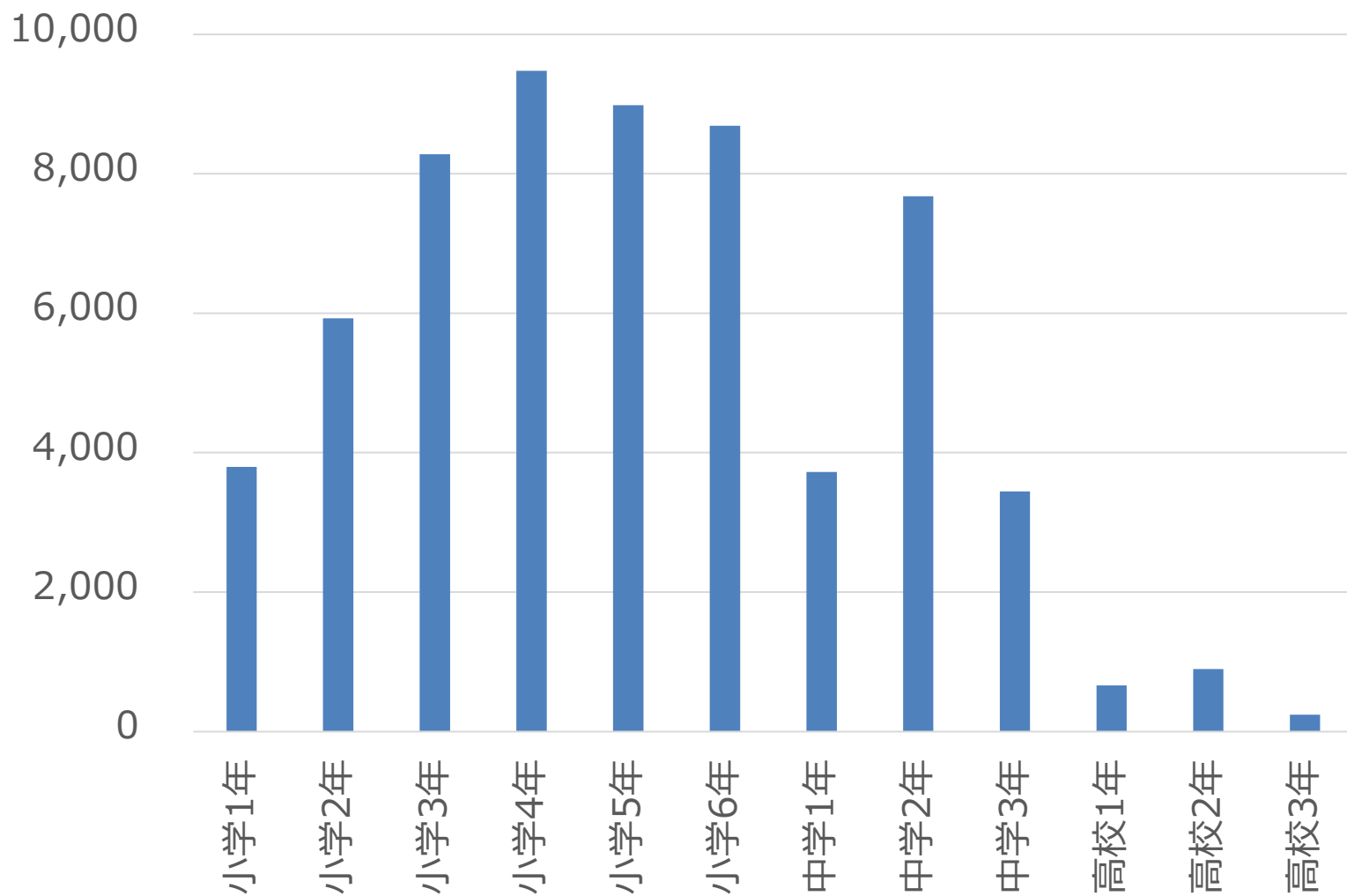
⇒強固すぎるゴールが問題で、そのままでは軽量化は困難。軽量で簡易な練習用ゴールが不可欠。練習用としては軽い素材が良い。形状の工夫(奥行をゴール高さよりも長くするなど)によっても、転倒しにくい効果が出せる。傷害リスクが低いのは、海外文献では、18kg以下。



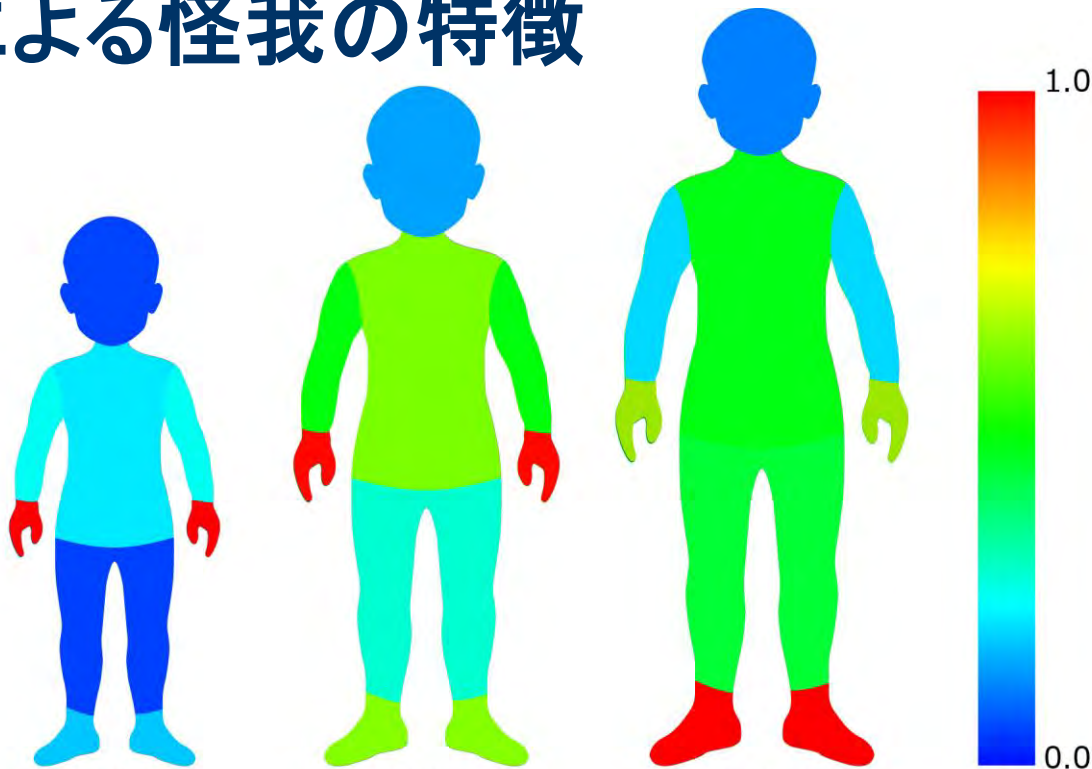
# 分析対象

- 日本スポーツ振興センター災害共済給付に  
2014～2016年度に申請された  
小学校・中学校・高等学校の体育中の事故
  - 2014年度：223,042件
  - 2015年度：225,367件
  - 2016年度：220,496件

# 学年別事故件数(3年度分)



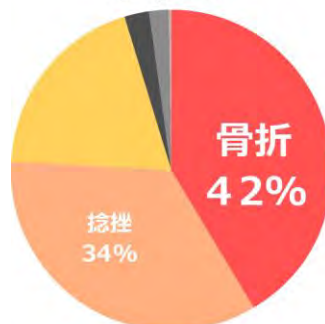
# 跳箱運動による怪我の特徴



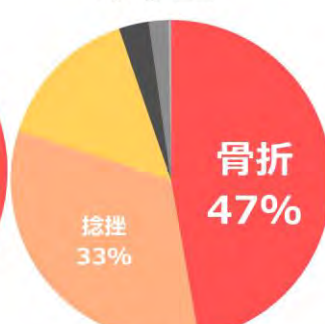
小学生

中学生

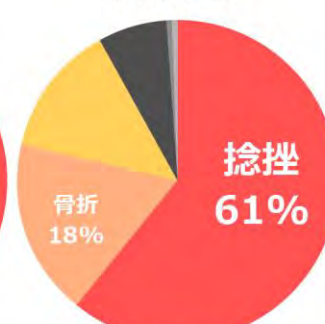
高校生



最も怪我が多い  
手首・手・指の  
傷害の割合



最も怪我が多い  
手首・手・指の  
傷害の割合



最も怪我が多い  
足首・足の  
傷害割合

# 跳び箱授業の観察によるリスク状況パターン解析



小学校、理学療法士との  
協働による

- ・跳箱授業の実態調査
- ・リスク状況のミクロ分析





## 跳び箱の跳び方の詳細な分析

- 踏切り・手での支持が弱く、手の上におしりが乗ってしまう



**跳び箱に慣れて、恐怖心をなくす練習、  
踏切りや手の支持の仕方の練習が必要**

# 跳び箱事故原因のパターン

- 身体機能と跳び箱の高さとの不適合
  - 高過ぎると、跳び越えられずに衝突したり、跳び箱の上で自分の手の上に座ってしまったり、着地の際にバランスを崩す
  - 低過ぎると、前のめりになり、着地の際にバランスを崩して頭から突っ込んでしまったりする
- 身体機能と跳び箱の技との不適合
  - 技を行うのに十分な基礎運動ができていないと、事故が起きる
  - 跳び箱を使わないマット運動などで、基礎運動の確認・練習が必要では？
- 身体機能と練習方法との不適合
  - 跳び箱を跳ぶ前に、各動作ができていないと、事故が起きる
  - 跳び箱を使わない練習、跳び箱を使った段階的な練習が必要では？

# ■3つの提言

## 第4回「跳び箱運動」

### 学校体育における跳び箱運動の在り方

桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 松本 格之祐

#### 跳び箱運動での事故を防ぐための3つの提言

**提言1: 跳び箱を使わないで「跳び箱運動に必要な動き・感覚の定着」を図る**  
 ・頭が腰よりも低い姿勢で、体を胸で支える(移動する)動き 「逆さ、犬さん走り、うさぎさん」等  
 ・両足で踏みきって ～手で体を支え～ 台(仲間)を飛び越す動き 「タイヤ跳び、馬跳び」等  
 ・転がる動き 「横にコロコロ、でんぐり返し」等

**提言2: 高さを評価の対象にしない**  
 「考えてみよう」 前世:身長も、運動経験も、跳び箱運動の技術等が違う子どもたちが対象  
 低い跳び箱は技能が簡単・楽しいのか? 高い跳び箱は高い技能が必要なのか?  
 「評価の観点」 →安定性 →種人さ →定着度 →学び方、学ぶ態度

**提言3: 跳び箱運動の指導で重篤な傷害の発生件数が多いことを認識すること**  
 現場の先生方は、自分のクラス、学校という狭い中ではうすうす気づいているが…

#### 「跳び箱運動で指導の対象となる主要な技」

切り返し系 ～ 開脚跳び(開脚伸身跳び切り)、かかと込み跳び(前伸跳び) 等  
 回転系 ～ 上上前転(大きな上上前転)、首はむ跳び、頭はむ跳び、側方倒立回転跳び 等

#### 「そもそも、学校で器械運動・跳び箱運動をなぜ学ばなければならないのか?」

##### (1) 器械運動特有の運動技能

- ①非日常の動き＝体育授業での上達の保障
- ②技能の程度が明確＝上達の保障

##### (2) 学習指導要領に示された跳び箱運動の目標・内容

小学校 ～ 運動の楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること  
 「跳び乗り・跳び下り」「またぎ乗り・またぎ下り」 「切り返し系」「回転系」「発展技」  
 中学校 ～ 技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性等を理解するとともに、  
 技をよりよく行うこと 「切り返し系」「回転系」「条件を変えた技」「発展技」

#### 「(提言に加えて)跳び箱運動の指導で留意すべきポイントは何か?」

##### (1) 安全な編づくり

「用具の活用」～跳び箱の横のマット、柔らかいマット 等 ※「仲間の協力」～補助、相互評価 等

##### (2) 無理をさせない指導

「評価方法の見直し」～何をもって「できた」とするの? ※「最小限の助走の勢い」 等

##### (3) 技の順番への配慮

同じ授業で「回転系」と「切り返し系」を取り上げる場合 ～感覚の残り

**跳び箱運動が安全で楽しくできる3つのポイント**

跳び箱が跳べない、ケガが起きる一番の原因は、運動能力よりも恐怖心ですが、それを解消しながら開脚跳びをマスターできるポイントを3つ紹介します。

「跳び箱以前の運動」

〈各段を図の様に並べ、3種類の運動を行うことで準備運動とケガの予防につながります〉

- ① 箱のより歩きでバランス感覚が付き、足首の負担が軽減の予防になります
- ② 箱のよりに手をつき箱端姿勢で歩き膝でカラダを支える力を付けます
- ③ 連続ジャンプを行うと踏み切りと着地の練習になります

「開脚跳びに技術の習得法」

〈開脚跳びには、踏み切り、腕支持、跳び越えるの3つの連続動作の習得が必要です〉

- ① 着る位置を変えず踏み切り腕を少しずつつ50cmのところまで後ろにさげます
- ② 踏み切り腕を元の位置に戻し台に当たった瞬間に腕を前にあげます
- ③ 跳び箱の上立ち、強い股から膝を充分支えて着地の練習をします

「補助」

〈安全に跳ぶには、全員に補助が必要であり、また補助者がどこに立つかも大切です〉

- ① 跳べない人の補助は踏み切り腕で手前へ落ちないようにします
- ② 跳り跳べる人の補助は前方で上腕を持って着地点まで移動して補助します
- ③ 安全に跳べる人の補助は背に立ち、きた人を受け取るようにします

# ■3つの提言

## 第1回「サッカーゴール転倒、組立体操、ムカデ競走」

### サッカーゴール転倒事故のメカニズムと予防のための提言 山中 龍宏（緑園子どもクリニック）

#### ◆ 3つの提言 ◆

##### 1) ぶらさがらない、懸垂しない

⇒倒すこと自体が極めて危険な作業。転倒時は、1.8トン（アルミ製）～3トン（鉄製）程度の力が発生する危険がある。これは頭蓋骨骨折するレベル（350～500kgf）を大きく上回る力で、実際、数多くの死者が出ている。連降も労働安全の観点からは一人当たり15kg未満が目安。今日紹介した動画を活用し、児童・先生に危険性を効果的に伝えるのも一案。⇒これが無理な場合は、提言3へ

##### 2) 杭に固定する（次善策：100kg以上の重りで固定する）

⇒人は跳びつきたくなる・揺らしたくなる欲求があるので、一人が跳びついては（40kg発生）転倒しにくいようにする。突風（瞬間最大風速 30m/sで、平均風速だと15～20m/s）では100kgfの力が加かる。ゴールの奥行が60cmなどと危険なゴールも存在。簡単に固定できる製品（重りや杭）が売られており、これを利用する。⇒これが無理な場合は、提言3へ

##### 3) 安全な簡易・軽量ゴールの開発・安全基準づくり

⇒強固すぎるゴールが問題で、そのままでは軽量化は困難。軽量で簡易な練習用ゴールが不可欠。練習用としては軽い素材で良い。形状の工夫（奥行をゴール高さよりも長くするなど）によって、転倒しにくい効果を出せる。傷害リスクが低いのは、海外文献では、18kg以下。



ぶらさがりによって発生する力の計測実験



ゴールの転倒実験

2017年1月13日に福岡県の小学校でハンドボール用のゴールが転倒し、小学4年生の児童が死亡する事故が起きた。実は、今から13年前の全く同じ日に、静岡県で、突風でサッカーゴールが転倒し、中学3年生が死亡する事故が起きている。

サッカーゴール小部会では、ゴールの転倒による死傷事故の実態と、ぶら下がりによるゴール転倒の危険性を詳しく調べる実験を行った。得られた知見は、以下のとおりである。

- ①災害共済給付データの分析によれば、サッカーゴールが転倒し、負傷した件数 29件/2014年。
- ②サッカーゴールでも、ハンドボールゴールでも、鉄製でも、アルミ製でも、ゴールが転倒すれば頭蓋骨骨折の危険がある。
- ③鉄製ゴールの使用率が意外と高い。
- ④固定されていないゴールは、ぶら下がると1人であっても容易に転倒する。
- ⑤数値計算によれば、固定されていないゴールは、突風の際に、容易に転倒する。

### 組立体操（タワー、ピラミッド）事故のメカニズムと予防のための提言 三宅 良輔（日本体育大学体育学部） 西田 佳史（国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター）

#### ◆ 3つの提言 ◆

##### 1) 指導環境に合った高さ

小学生、中学生ではピラミッドは3段、タワーは2段までを推奨。しっかりと練習できる環境のある学校ではピラミッド4段まで。5段以上のピラミッド、3段以上のタワーは原則禁止と考える。

##### 2) 新たな価値観の創造

組立体操に対する教員、保護者、地域住民らの意識（頑張り頑張りという精神論）を変えることが大切。「高さ」「難易度」に挑戦するだけでなく、「美しさ」「楽しさ」など新たな価値観創造を目指す。

##### 3) 組立体操の理論と安全な指導法の確立

スポーツ庁、日本スポーツ振興センターなど、国の機関がリードをとり、これからの学校教育における組立体操のあり方について提唱し、組立体操の理論と安全な指導法について啓発活動を図る。



運動会・体育祭の花形種目でもある組立体操は、その奥で年間8,000件を超える事故を起こしてきた。頭部や頸部の傷害といった重大事故につながる組立体操は高さに関係なく起こる可能性があるが、小学校から高等学校まで多くの事故を引き起こしているのが「タワー」と「ピラミッド」である。スポーツ庁は組立体操を行う条件として「確実に安全な状態」を挙げている。日本各地の教育委員会や学校では、体育的行事における組立体操を取りやめたり、段数などの高さ制限を設けた上で実施に踏み切ったり、という報告が上っているが、これまで根本的な安全策や予防策が明らかにされていない状態であり、体育的行事における組立体操のガイドラインの策定が求められている。

#### 1. 組立体操の危険性について

- ・児童生徒らの体力的な問題、体の使い方の問題
- ・日頃の体育授業で扱われないにもかかわらず短時間の練習期間で実施されている
- ・地域住民、保護者、同僚教員など、周囲からの期待により伝統的な発表を継続
- ・組立体操の目的が「入づくり」となっており、精神論を唱える指導者の安全面への意識改革ができていない
- ・組立体操の理論や正しい指導法を学ぶ機会が少なく
- ・組立時の「姿勢」「乗る位置」「服装」など正しい知識が知られていない
- ・児童・生徒たちが、高い枝、多人数での枝、難易度の高い枝に達成感を感じると思われている

#### 2. タワー、ピラミッドの安全基準

- ・補助者の手が届く高さまでとする（労働安全衛生規則では高さ2mを超える場所は高所作業であり、手すりや安全帯の使用が義務付けられている。チアリーディング競技の安全規則を見ると、小学校高学年の大会では2.0層、2.5段というのがルールで決まっている。）
- ・ピラミッドなら4段まで（小学生には3段までを推奨）、タワーは2段までが安全基準

#### 3. これからの組立体操のあり方

組立体操は、難しい技に挑戦し、仲間同士で励まし合い耐えながら実施することにより、児童・生徒たちの個々の成長やクラスづくりへの効果が期待できる教材である。しかし、組立体操を取り巻く指導者の指導力不足、短期間での練習などの指導環境を考えると、これまで実施してきた巨大ピラミッドなどの実施は避けべきだと考える。そこで新しいスタイルの組立体操演技の提案が求められており、安全に配慮しながらも笑顔でできる「楽しい組立体操」を映像で紹介する。

### ムカデ競走事故のメカニズムと予防のための提言 東山 礼治（北里大学整形外科）

#### ◆ 3つの提言 ◆

##### 1) 列の人数を減らす

安全のため、21人以上の「大ムカデ」は避ける。20人以下を推奨する。

##### 2) 伸縮性の素材で足を結ぶ

いわゆる「手ぬくい」のような素材ではなく、伸縮性のある紐で足を結ぶ。

##### 3) 段階的な練習をする

安全のため、最初から「大ムカデ」での練習はしない。最初は足を結ばずに練習するなど、段階的な練習を推奨する。



富士市教育委員会提供

富士市での「ムカデ競走」は40年以上の歴史がある。昭和50年代後半から人数が増え、現在の中学3年生では5-8人の列が校庭のトラックを半周走ることにつながり、最後はクラスの全員または半分がつながって走る「大ムカデ」を実施している。

2009年から学校と医療機関に任意で協力を頂きアンケート調査を行ってきたところ、2015年までの7年間で「大ムカデ」に参加した生徒の約1.8%が怪我をして医療機関を受診している。また95%以上が転倒による受傷であるため、怪我を予防するには転倒しないことが重要である。2010年から足を結ぶ紐の素材を伸縮性のものにする予防策が徐々に広まり、2016年は足を結ぶ人数を20人以下にしたところ、約1.4%に減少し、過去最少となった。日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度を利用した人数も、2009年は42人だったが2016年は25人と最少を記録した。

「大ムカデ」は怪我の発生率が高いため、少ない人数から練習する、片足だけ縛った状態で歩くことから練習する、などの段階的な練習が必要である。これらの予防策を徹底することで怪我（事故）をさらに減少することが可能と考えられる。

## ■3つの提言

### 第2回「野球」 変えられるものを見つけ、変えられるものを変えるには

#### 1) Enforcement ルール・基準づくり

- ・ 打撃練習時の投手用ヘッドギア使用（高校）
- ・ SGマーク（製品安全協会）付き金属バットの使用（高校）
- ・ 試合時における胸部保護パットの使用（リトルリーグ）
- ・ 生徒自身によるグラウンドの使用ルール制定



#### 2) Environment 環境・製品の改良

- ・ イレギュラー・バウンド予防のために30分に1回グラウンド整備
- ・ 防球用ダブルネット（フレームの外側にもネットあり）の使用
- ・ ファウルカップの使用
- ・ マウスピースの使用
- ・ フェイスガードの使用

#### 3) Education 教育

- ・ 後方から投げるティーバッティング
- ・ 指導者不在時にはボールなしの練習のみ



# ■ 3つの提言

## 第3回 「プール事故」 スタート時の事故、プール監視の課題

### ◆ スタート事故予防のための具体的提言 ◆

井口 成明 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 准教授

#### ◆ 3つの提言 ◆

##### 1) 浅いプールでの飛び込みスタートの禁止

⇒飛び込んだ後の深度は、個人の体格（体重）、脚力、入水角度、スタート場所から水面までの高さ、入水後の姿勢制御等で大幅に変わる。入水直後から浮上までの映像実験を行った結果、**深く入水する生徒と深く入水する生徒の深度差は、64 cm**。最深度が 1.2mに達する生徒もいた。泳者各自の入水深度は測定して見ないとわからない。

⇒今回の実験で生徒 1人ひとり、入水深度の平均、最深と最低の差を測定してみたところ、**1人の生徒で、53 cmの差が見られた。泳者の体調、精神状態で入水深度は大幅に変わる。**「いつもはこのくらいの深度で飛び込んでいる」と思いこんでいても、その日のコンディション等で最深度は変化する。

##### 2) 日本水泳連盟のガイドライン（1.35m）を過信しない

⇒日本水泳連盟が、競泳スタートの練習、大会開催に必要な最低の深さは、1.35mと記載されている。今回の実験で一番深く入水した生徒の頭部の最深度が 1.19m。プール底まで 15 cm程しかなく、下肢はプール底に衝突していると思われる。**即時的な指導を実施し、競泳スタートの方法を十分習得していると思われる泳者であっても、これだけ深さに到達する泳者がいるのであれば、全体的にみたととき 1.35mは安全値とは言えない。**

##### 3) 浅いプールで許される段階的指導の具体例

⇒水中からの飛び込みで、かつ、最大でも上半身出るくらいまでが限度である。【イルカジャンプからの応用練習】



2016年7月までの毎年、水泳における飛び込みスタートの重大事故は発生している。2020年告示の高等学校保健体育新学習指導要領では、高等学校の体育授業であっても水泳のスタートは水中からのスタートが義務付けられる。これによってスタートによる重大事故は、軽減されるであろうか。

2016年9月に東京都高体連水泳専門部の協力を得て、2000人の水泳選手を対象にした飛び込みスタートにおける、選手自身の失敗体験についてのアンケート調査を実施した。その結果、

- ① 深く飛び込み、水底で身体の一部を打ったことのあると答えた生徒は、2000人中700人、35%もいることがわかった。
- ② 更に全体の10%、およそ200人が水底で頭部、顔面を打つてることがわかった。

この結果を基に、2018年2月に順天堂大学武田剛先生（測定指導）と名古屋大学大学院内田良先生（データ処理指導）のご協力をいただき、東京大学教育学部附属中等教育学校水泳部員 22名を対象のスタート時の入水直後から浮上直前までの高速撮影を行い、全生徒の最深度の差、生徒個人の入水深度差を測定分析した。その結果、

- ① 飛び込みスタート事故の危険性は、どの水泳部にもありえる。
- ② 生徒の体調、精神状態等で深度は変化する。
- ③ 日本水泳連盟のガイドライン（1.35m）は、絶対安全値とは言えない、ということが分かった。今回、このシンポジウムを通じて、以上の3つ（青枠内）を提言したい。

### ◆ 溺水事故予防のための具体的提言：プール監視実験及び溺水事故裁判例分析 ◆

西田 佳史 NPO法人 Safe Kids Japan 理事  
阿部 新治郎 弁護士/沢藤・井澤・阿部法律事務所

#### ◆ 3つの提言 ◆

溺れる者は静かに溺れる！ 監視の限界を知ることが第一歩！！

##### 1) 監視の死角を把握する

監視できる範囲には限界があり、水面の反射による死角が必ず生じる。

水面の反射は外光、照明、天候などで変わるので、自分のプールで反射をチェック。監視台の利用や監視者の移動によって死角をコントロールする。

##### 2) 指針方法・運用方法で補う監視の限界

自由に泳ぎ回る児童生徒は、何人いても十分に見守ることは難しい。児童生徒への指導方法やプールの運用方法で、監視の限界を補う。

- ・生徒同士のバディシステムの徹底
- ・見学生徒による監視補助や報告
- ・コース利用ルールの設定（一方通行等）
- ・水泳帽子の色分けやナンバリング
- ・幼児でのプールを使わない水遊びの活用

##### 3) 監視する者を少なくとも一人加える

現在の担当者の他に、少なくとももう1人、監視に専念する者を加えて配置する。

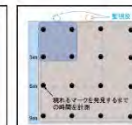
児童生徒の人数や動き方で、監視の実効性は変化する。25M プールなら、担当する教職員が3人では足りない。幼児なら、目を離すことなく同時に何人も安全に見守れるのは、自分の手が届く範囲くらい。教職員志望者等のボランティアの積極的活用も検討すべきである。



<水面の反射による死角>



<実施した監視実験>



監視だけでは限界がある。監視の質を高める方法や監視の限界を補う手段を検討すべきである。

##### 1 プールの実態把握と監視の科学的検証

- ・カメラでの録画による監視状況や課題の検証
- ・監視者のアイカメラ装着による監視の検証
- ・科学的な検証にもとづく監視技術の研修・資格制度

##### 2 テクノロジーの導入と効果評価

- ・溺れ予防デバイス（例：Kingii, PLOOTA など）
- ・溺れ監視システム（例：ボセイトン, iSwimband, SEAL など）

# ■ 3つの提言

## 第5回 「サッカーのヘディング」

### ◆ヘディング指導に関する3つの提言◆

#### 1. 最新の知見に基づく“危険”を学ぶ

過去の事故事例や裁判例、諸外国の動向などから、ヘディングに関して「何が危険か」を学ぶことで、安全なプレーを意識する。

#### 2. 未発達なジュニア期には必要に応じて制限をする

子どもの身体及び判断能力の発達・発育度、ヘディングの習熟度（練習の有無）に応じて、「ヘディングをさせない」という指導も必要である。

#### 3. 子どもの発達・発育に応じた体力をつくる

ヘディングを行う以上は、ヘディングのための練習を行うべきであると同時に、ヘディングに耐えうるだけの頸部と体幹を作るトレーニングも必要である。

#### 1. 最新の知見に基づく“危険”を学ぶ

##### ● 安全な動作と危険な動作を知る

危険なプレーを回避するためには、「安全な動作とは何か・危険な動作とは何か」を知った上で、ルールを守ることを徹底する必要がある。ヘディングに関するプレーに限らず、指導者は子どもに十分に“安全と危険”を伝えるべきである。

##### ● 諸外国の動向

英国、米国で出されているガイドラインも、一定の科学的知見を踏まえた上で若年層のヘディングを禁止しており参考になる。

##### ● JSC災害共済給付のデータによる

ボールをヘディングすることによるリスクが注目されているが、実際には相手選手との接触や転倒等による地面との衝突でも、頸部の重症傷害や頸部の捻挫が発生している。

#### 2. 未発達なジュニア期には必要に応じて制限をする

##### ● 体育授業においては、各指導現場で具体的な制限を設ける

【体育授業におけるヘディングの制限例（参考）】

①ヘディングによる頸椎・脳へのダメージを理解し、小学4年生までは実動作は行わない。

②小学5年生から中学2年生までは、上体・上肢の動きと額に当てる基本動作を学習する。

③中学3年生からは生徒の発達状況によっては、ゲーム形式での導入考える。

##### ● 無理なプレー・危険なプレーを回避する措置を

身体的だけでなく、危険の認知能力・回避能力が不足しているという判断能力の未発達の点から生まれる無理なプレーは、事故の危険性を高めるものであり、この点からも制約を考える必要がある。

##### ● 単なる規制でなくヘディング以外に目を向けさせる工夫をする

単にヘディングを禁止するのではなく、パスをつなぐことの楽しさを伝えたり、ゲームの仕方を工夫する（少人数にする、コートを小さくする等）など、ヘディングの機会を自然に減少させる工夫をすることが有益である

#### 3. 生徒の発達・発育に応じた体力をつくる

##### ● ヘディングを子どもにさせるのであれば、前提として、ヘディングをするための個人練習・反復練習が必要である。適切にヘディングを行える技術を習得できるほど十分に練習の時間を確保できない場合は、ヘディングを行わないように指導する。

● 簡単な基礎練習から順を追って練習をしていくべきであり、マスターしてから次の練習にステップアップしていくような、いわゆる“段階的指導”が必要である。基礎を飛ばして高度な技術の練習のみを行ったり、基礎練習をせずにゲーム形式の練習の中で学ぶ、身に付けるなどの練習方法は避けるべきである。

● ヘディングの技術を身に付ける練習はもちろんだが、ヘディングに耐えうる基礎体力・頸部・体幹を身に付けるためのトレーニングも重要である。

# ■3つの提言

## 第6回 「体育館の施設・設備」

### 提言1◆「危険が潜む場面・場所を見つけよう」 ～先生と児童・生徒の皆さんへのメッセージ

- (1) 事故の発生件数が多いものをチェックしよう
- (2) 重大事故に繋がしやすいものをチェックしよう

JSCデータ・中体連アンケートによると、

【発生件数が多いもの】 支柱、床・仕切りネット、扉、器具の取扱いミス

【重大事故に繋がしやすいもの】 ギャラリー、床、バスケットゴール

- (3) ヒヤリハットを見える化して情報共有を図ろう

実際に事故になるかは結果論。ヒヤリハット事例も一覧化して現場・行政等で共有して事故予防につなげよう。

### 3つの提言(概要版)

担当：弁護士 中嶋 翼 (東京弁護士会)

理学療法士 齋藤 弘樹 (東京都理学療法士協会 学校保健部副部長 / 大橋病院)

#### 提言1◆「危険が潜む場面・場所を見つけよう」

～先生と児童・生徒の皆さんへのメッセージ

#### 提言2◆「体育館設備や用具・器具の扱い方を考えよう」

～皆さんへのメッセージ

#### 提言3◆「メンテナンス情報を共有・活用しよう」

～国・自治体へのメッセージ

### 提言2◆「体育館設備や用具・器具の扱い方を考えよう」 ～皆さんへのメッセージ

- (1) 体育館設備だけでなく、体育用具・器具の点検もしよう

・標準耐用年数 ・取扱説明書

- (2) 安全な使用方法を指導・共有しよう

・準備、設置方法 ・使用方法

- (3) 安全な運搬方法について考えよう

・運搬器具の活用  
・ボディメカニクスの活用  
・移動方法の検討 (人数・誘導・横移動)

- ① 膝を曲げる (腰を落とす)
- ② 背中を伸ばす
- ③ 物に近づく



### 提言3◆「メンテナンス情報を共有・活用しよう」 ～国・自治体へのメッセージ

- (1) メンテナンス台帳を整備しよう

今後の課題であるが、学校ICTを有効活用して、どういものがあるか(一備品台帳)だけでなく、点検結果、補修・改修の履歴、耐用年数一覧、傷害事例、ヒヤリハット事例等も含めた電子台帳が作成できると望ましい。

情報を有効活用できるようにして、点検や事故予防活動につなげよう。

- (2) 設備・用具の更新作業に予算をつけよう

点検だけでは老朽化した設備・用具は元には戻らない。

予算の制約があるとはいえ、人の生命に関わる更新作業はきちんと行うことが必須である。

万一更新作業が間に合わない場合も、最低限応急処置だけはすべきである。



ABCで<sup>かんが</sup>考えよう！



# 小学校の設備の改善

## 課題と教育



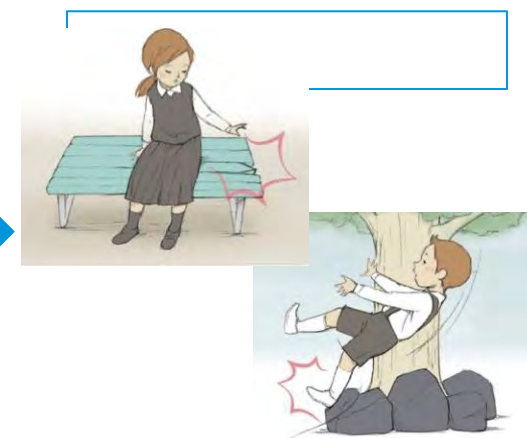
安全授業を受けた児童がタブレットを持って学校内の「あぶない！」を探し、どうすればその「あぶない！」を安全な環境に変えられるかを考える。

## 成果物



安全な環境に変えるためのアイデアを考案、それをみんなに発表し、その結果を「学校の安全地図」にまとめる。

## 補修・交換



「安全地図」を見た教育委員会の担当者が学校を視察、児童が指摘した危険箇所のうち、急ぎ補修や交換が必要と判断した箇所を実際に補修・交換。結果、児童のケガが減る。

## ■「子どもの事故予防地方議員連盟」との協働

### 超党派の議員連盟による取り組み



2019年10月  
子どもの事故予防地方議員連盟設立

2021年10月  
日本最大の政策コンテスト「マニフェスト大賞」にて「優秀政策提言賞」受賞

2022年7月現在、  
全国の地方議員約80名が議員連盟に参加。



## ■ 学校現場の施設点検についても課題が

### 子どもの事故予防に取り組む地方議員として 感じる基礎自治体の課題

通知、ガイドライン、さまざま発出されていてもそれらが遵守されない。

→自治体行政の現場に、これらを熟知する人材がない。忙しくて現場の実情をチェックする余裕がない。対策をするための予算がでない。（優先順位が上がらない）園や学校への強制力がない。

例) 保育園の指導監査の際には、事故予防の知識がない自治体職員が法的根拠に基づくチェック項目を基に指導監査、助言を行っており、その項目にはないガイドライン違反はじめさまざまな危険箇所には気がつかない。

例) 学校現場に施設の点検について詳しい人がいない。学校ごとに月次の点検表の質も内容もバラバラ。点検表の内容も学校教育部では把握できていない。

例) 園児に節分豆を食べさせないようにと言っても、「伝統を大切にしたい」と言ってやめないが無理矢理やめさせる強制力もない。

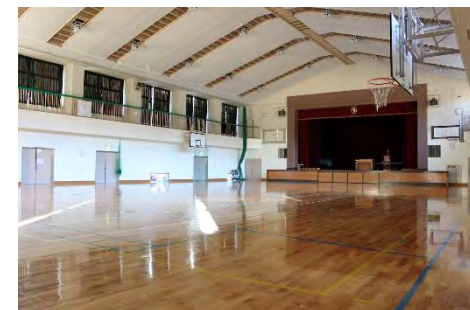
## ■ かかりつけエンジニア（構想）

2022年3月に開催したシンポジウム「体育館に関わる事故から子どもを守る」において、技術士から「メンテナンス台帳」の設置および「かかりつけエンジニア」に関する提言が出された。

「メンテナンス台帳」とは、現在各学校で整備されている施設・設備に関する「備品台帳」に加え、そのメンテナンス状況を記録するもの。タブレット等を活用し、簡単に入力・集計・報告ができるようなアプリ開発が望まれる。

そもそも、施設・設備の点検や検査は、学校の先生方の仕事ではない。学校医のような「かかりつけエンジニア」を配置し、施設・設備点検に同行したり、施設・設備の技術的な課題に対するアドバイスを行うことはできないだろうか。

また、「メンテナンス情報を共有・活用しよう」というメッセージも重要である。このメッセージは、国や地方自治体に向けたもので、体育館の施設や設備に起因する傷害を予防するためには児童・生徒への指導や教職員による点検だけでは不十分であり、技術士等の専門家による点検や検査を定期的実施し、その結果によって、補修や改修、交換、新設等の必要があると判断された場合には速やかに対応できるよう、あらかじめ予算を確保しておく必要がある。



## ■「かかりつけエンジニア」について知りたい方は

公益社団法人 日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ  
研究員・会長 瀬戸 馨（せとかおる）さんへ

<https://kodomonoanzen.jp/>

Facebookページ : <https://www.facebook.com/kodomonoanzen>

[e-mail:seto\\_engineer@office.nifty.jp](mailto:seto_engineer@office.nifty.jp)

## ■「安全研修・安全授業」について知りたい方は

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター  
主任研究員 大野 美喜子（おおのみきこ）さんへ

【住所】〒135-0064 東京都江東区青海2-4-7 別館8F

【Tel】 03-3599-8318 【Email】 mikiko-oono@aist.go.jp

# 負傷のビッグデータを用いたR-Map分析



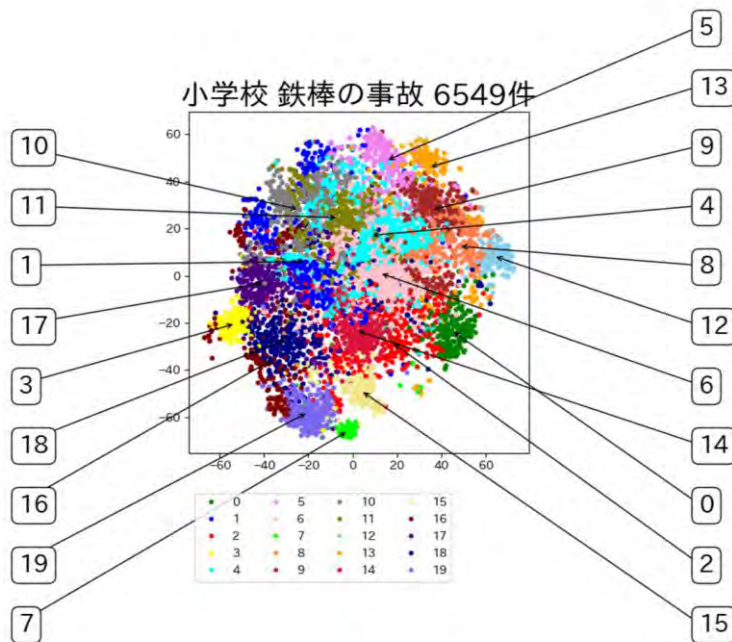
**製品ではなく、状況のR-Map分析**  
対策優先度の高い事故状況を発見する

従来の分析方法は製品ごとが多く、  
状況レベルの分析が欲しい

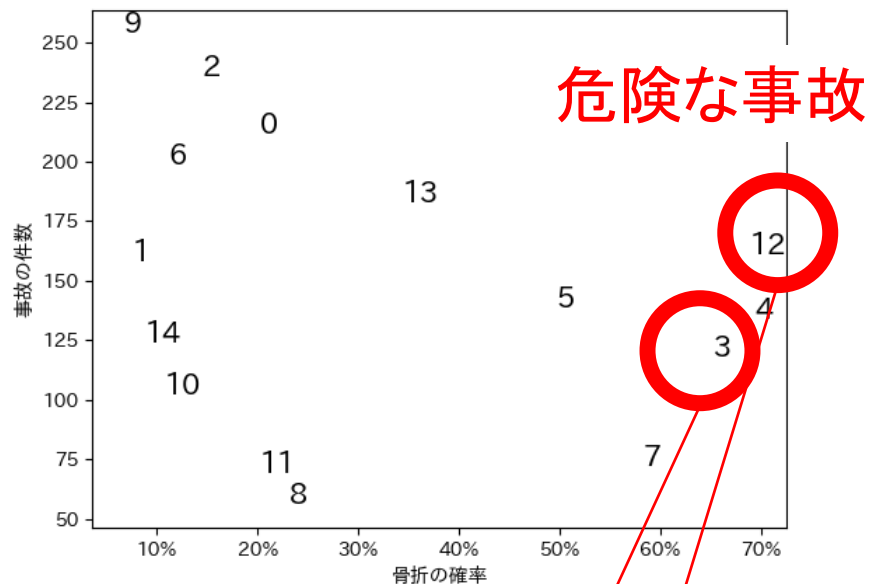
研究の目的

テキストマイニングとR-Mapを統合し、対策優先度の高い事故状況を発見する状況R-Map分析を開発

# 鉄棒の典型的な事故



状況R-Map(図中の数字はクラスター番号)



クラスター番号	クラスターで多い事故状況
5,8,9,13	落下して手をつく
1,10	落下して背中や顔を打つ
3	技に失敗して鉄棒に歯をぶつける
7	転がったボールを追いかけたところ、鉄棒に気づかず頭をぶつける
12	着地に失敗して、足首を捻る
15	友達の足や蹴った砂が目に入る
19	鬼ごっこをしていて鉄棒に気づかず顔をぶつける

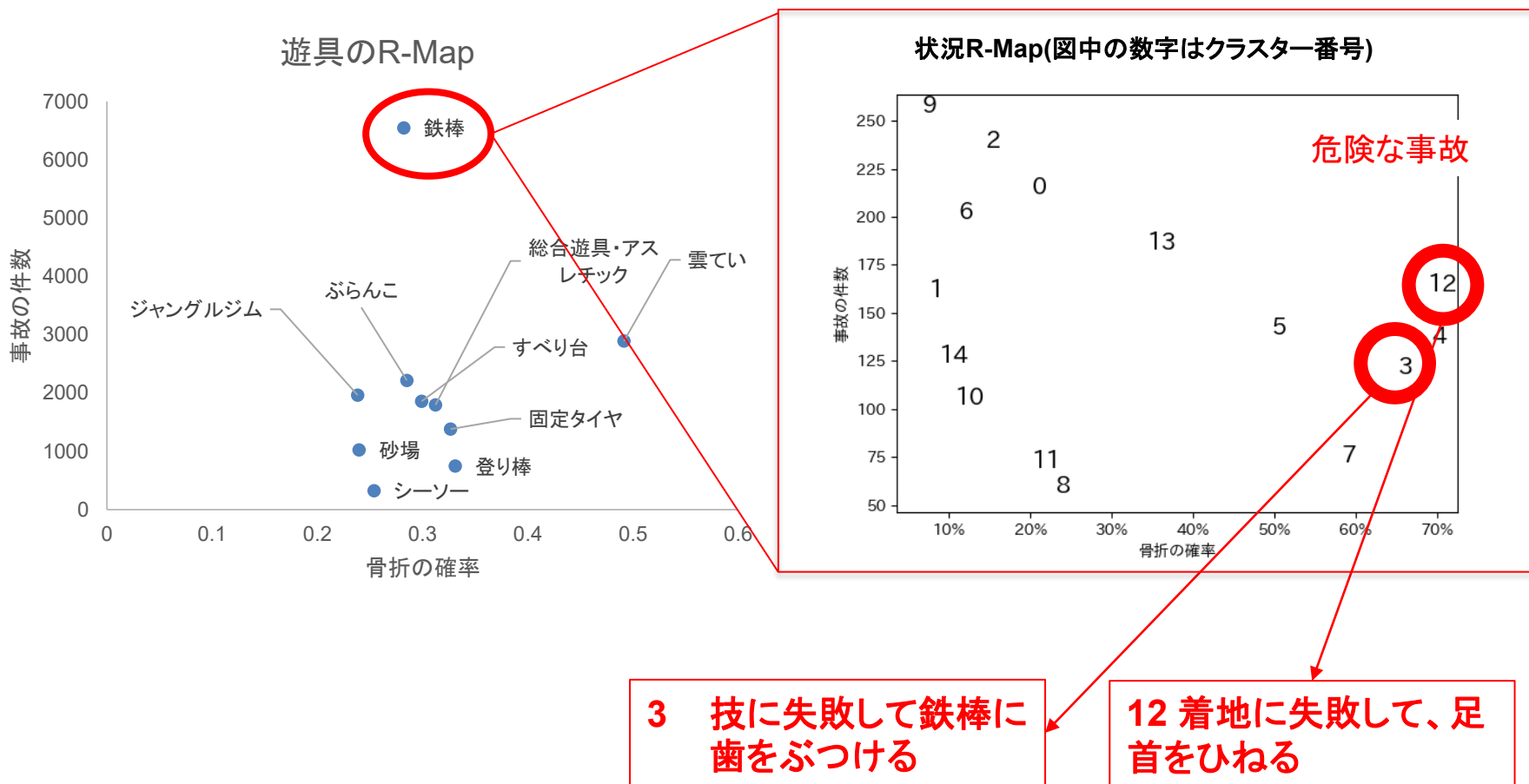
**3 技に失敗して鉄棒に歯をぶつける**

**12 着地に失敗して、足首をひねる**



# 製品種別のR-Mapと状況のR-Map

## 製品のR-mapと状況R-map



# 各遊具の対策優先度が高い負傷状況

名前(件数, クラスタ数)	鉄棒(6549件, 20)	雲てい(2894件, 20)	すべり台(1859件, 20)	砂場(1022件, 15)
骨折	・落下したときに手を着く	・落下したときに手を着く	・鬼ごっこをしていて飛び降りたときにバランスを崩して手をつく	・幅跳びで着地に失敗して手をつく ・幅跳びで着地に失敗して尻餅をつく
捻挫	・着地に失敗して足首を捻る	・着地に失敗して足首を捻る	・鬼ごっこをしていて飛び降りたときに着地に失敗して足首を捻る ・滑り終わるときに着地に失敗して足首を捻る	・幅跳びで着地に失敗して足首を捻る ・鬼ごっこをしていて砂場で転倒する
歯牙破折	・技に失敗して鉄棒に歯をぶつける	・落下して顔を地面にうつ	・滑っていて, 手すりなどに歯をぶつける	
その他の負傷	・鬼ごっこをしていて鉄棒に気づかず歯をぶつける(挫傷・打撲)	・雲ていが熱く, 手の皮がむける(火傷)	・階段で足が滑って頭をぶつける(挫創)	

# 各遊具の対策優先度が高い負傷状況

名前(件数, クラスター数)	鉄棒(6549件, 20)	雲てい(2894件, 20)	すべり台(1859件, 20)	砂場(1022件, 15)
骨折	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落下したときに手を着く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落下したときに手を着く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこをしていて飛び降りたときにバネを蹴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅跳びで着地に失敗して手をつく</li> <li>・幅跳びで着地に失敗して尻餅をつく</li> </ul>
捻挫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着地に失敗して足首を捻る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着地に失敗して足首を捻る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこをしていて飛び降りたときに着地に失敗して足首を捻る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅跳びで着地に失敗して足首を捻る</li> <li>・鬼ごっこをしていて砂</li> </ul>
歯牙破折	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技に失敗して鉄棒に歯をぶつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技に失敗して顔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技に失敗して顔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技に失敗して顔</li> </ul>
その他の負傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこをしていて鉄棒に気づかず歯をぶつける(挫傷・打撲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲ていが熱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲ていが熱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲ていが熱</li> </ul>

衝撃吸収の接地面

技の練習中のマウスピースの着用

視認性に優れた色、鬼ごっこを防ぐ動線の工夫

# 学校関係者の これからのキーワード

**現場で、多職種で取り組む**

**活動は、数値で評価する**

## ■ 6年間のおゆみを一冊の本に（準備中）

出版社 中央法規出版株式会社



発行部数 3,000部（予定）

価格 2,000円～3,000円



### ◆ 出版にいたる経緯 ◆

「これで防げる 学校体育・スポーツ事故」シンポジウムは、医療従事者、弁護士、研究者、学校関係者などが中心となって自発的に開催しているもので、2017年から毎年開催しており、2021年度で6回目を迎えた。

「事故による子どもの傷害」は多発しており、同じ年齢層の子どもに同じ事故が起こり続けている。学校現場も例外ではない。学校事故のデータは収集されているが、それらのデータを予防に活かすための取り組みが十分には行われていないため、結果的に同じような事故が繰り返されている。

このような現状を目の当たりにしている医療関係者や弁護士、学校関係者らが「子ども達を学校での事故から守りたい」という共通の思いを持って立ち上がったのが2017年1月のことである。これまでに、「組立体操」「ムカデ競走」「サッカーゴールの転倒」「野球」「ボール（主に飛び込み）」「跳び箱」「サッカー（ヘディング）」等に関する傷害とその予防策について検討し、その結果をシンポジウムという形で公表してきた。2022年3月のシンポジウムでは、「体育館の施設や設備」に着目して調査・分析・検討を行った結果を公表した。

6回目のシンポジウムを終えた2022年早春、ここで一度立ち止まり、今までの活動を振り返ってその効果について検証し、今後の活動の方向性についても見つめ直そう、という声が当事者からあがった。せっかくなのでその「ふりかえり」を書籍としてまとめ、広く一般の方々にも学校事故について知っていただくことにはどうか、という声もあり、この度「書籍化」を検討する運びとなった。

## ■ 参考資料

[サッカーゴール等の転倒事故を防ぐ ～その1～](#) (Yahoo!ニュース 2018年1月5日)

[「中高生の野球の事故を防ぐ」シンポジウム報告](#) (Yahoo!ニュース 2018年4月2日)

[【報告】監視の限界を科学的に明らかにしたシンポジウム「繰り返されるプール事故から子どもを守る」](#)  
(Yahoo!ニュース 2018年8月14日)

[シンポジウム「サッカー・ヘディングの指導で、関連事故から子どもを守る」開催報告](#)  
(Yahoo!ニュース 2021年5月14日)

[シンポジウム開催報告「これで防げる 学校体育・スポーツ事故～体育館に関わる事故から子どもを守る～」](#)  
(Yahoo!ニュース 2022年4月19日)

[1月13日は「サッカーゴール等固定チェックの日」](#) (Yahoo!ニュース 2023年1月13日)

[Safe Kids ニュース「1月13日はサッカーゴール等固定チェックの日」](#) (Yahoo!ニュース 2022年1月13日)

[「ゴール等の転倒を予防するために」](#) (日本スポーツ振興センター 学校安全Web)

[子どもの事故予防地方議員連盟](#)

# 「デバイスと地域力を活用した通学路の安全確保」

## 学校安全総合推進事業重点モデル地域の取組



山口県 光市立光井中学校 伊藤 洋志  
山口県 光市立光井小学校 高森 彬稔

# 1. 学校紹介

- ① 小中学校・地域との連携
- ② 災害を経験して
- ③ みつい協育ネット

## 2. デバイスの活用 (MetaMoji classroom)

## 3. 安全マップの作成

## 4. まとめ・今後の展望



# 1. 学校紹介

① 小中学校・地域との連携

② 災害を経験して

③ みついい協育ネット

## 2. デバイスの活用

(MetaMoji classroom)

## 3. 安全マップの作成

## 4. まとめ・今後の展望



光井中学校

169名



光井小学校

285名

# 光井中学校と光井小学校



①小・中学校や地域と連携した活動

②過去に土砂災害を経験

③コミュニティ・スクールを核とした地域協育ネット

# 外国語交流授業



# 小中合同引き渡し訓練



# 小中合同集団登校



# 小中職員合同研修



# 1. 学校紹介

- ① 小中学校・地域との連携
- ② **災害を経験して**
- ③ みついい協育ネット

## 2. デバイスの活用 (MetaMoji classroom)

## 3. 安全マップの作成

## 4. まとめ・今後の展望

# 平成30年7月豪雨災害





国道8号

国道23号

加の森

光市

国道22号

188

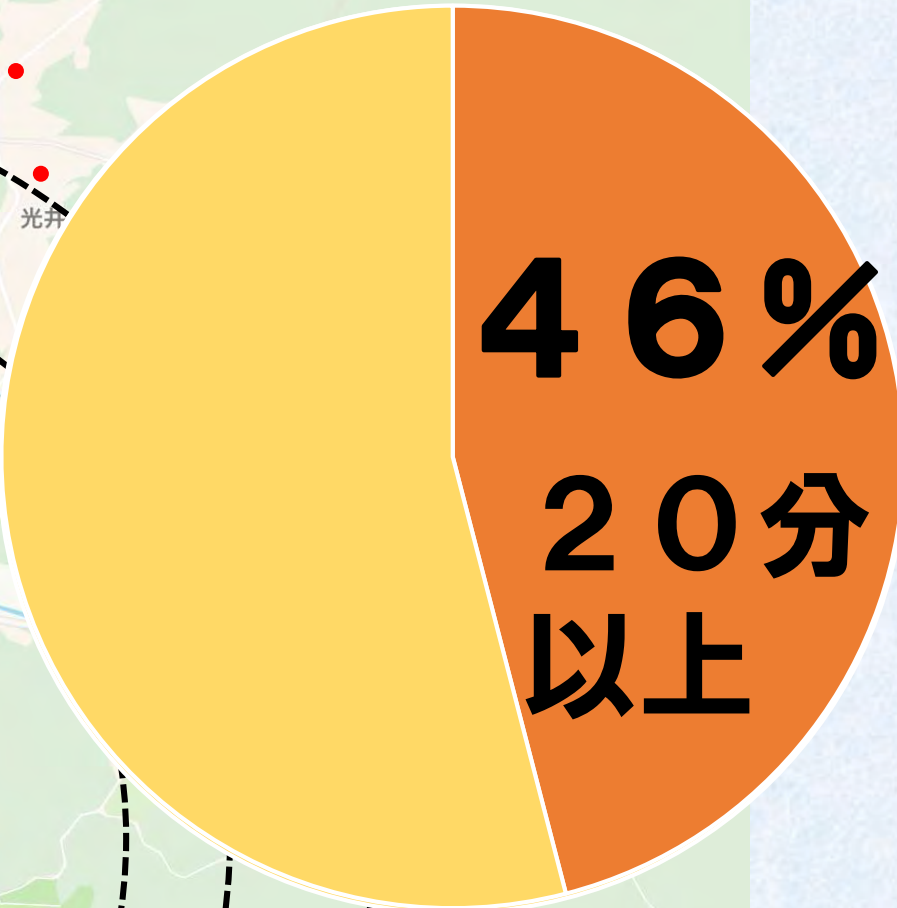
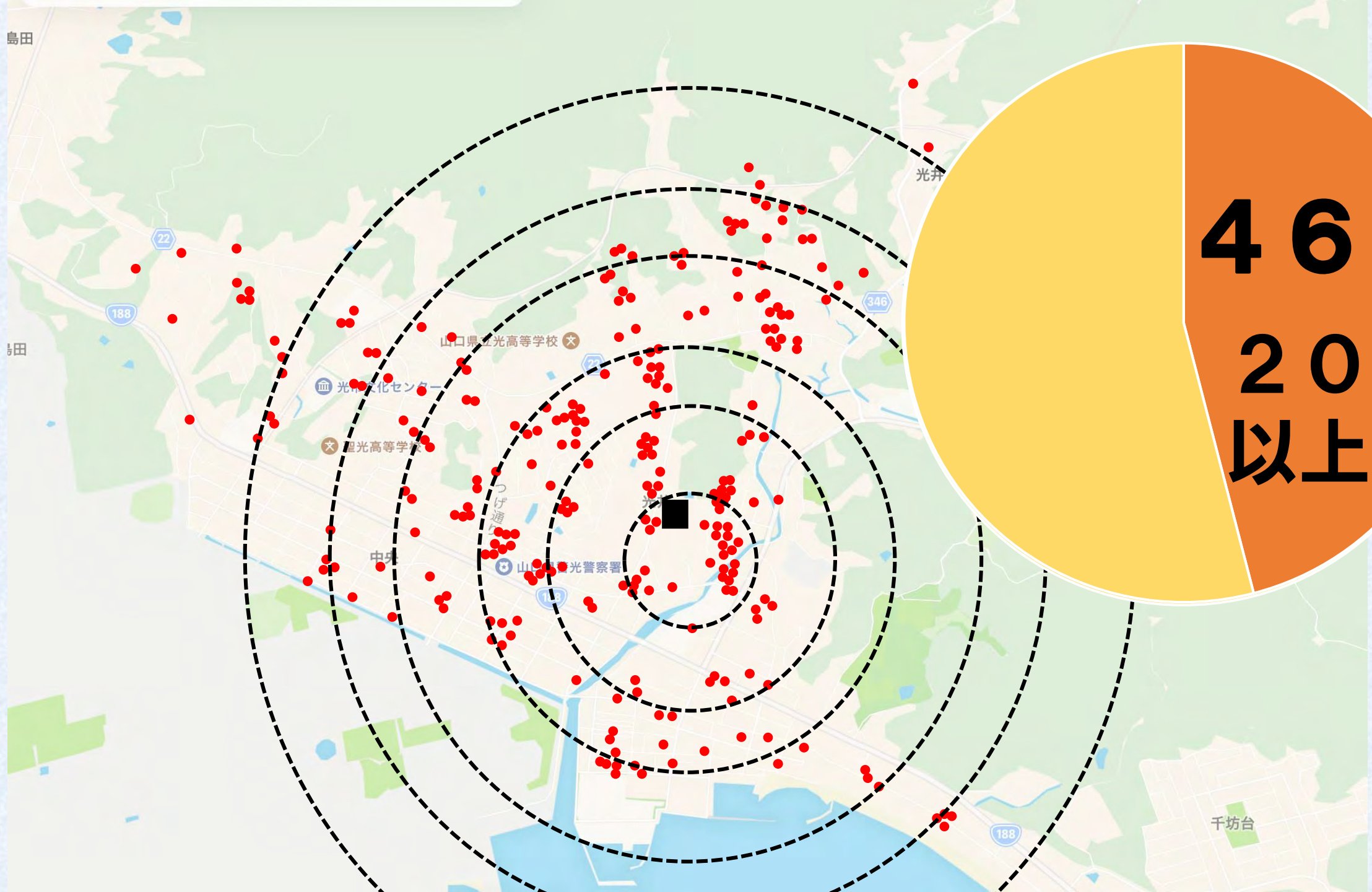
国道





島田

島田



46%

20分  
以上

千坊台

# 1. 学校紹介

- ① 小中学校・地域との連携
- ② 災害を経験して
- ③ **みついい協育ネット**

## 2. デバイスの活用 (MetaMoji classroom)

## 3. 安全マップの作成

## 4. まとめ・今後の展望

# コミュニティ・スクールとは

保護者や地域住民等が**一定の権限と責任**を持って  
**学校運営に参画**する仕組みである「**学校運営協議会**」  
を設置した**学校**のこと

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5)

・めざす学校像  
・児童生徒の姿

・学校運営に  
必要な支援



・特色ある学校づくり

・学校が抱える課題

学校運営協議会のイメージ

# 令和4年度

## 光市がめざすコミュニティ・スクール



# 令和4年度

## 光市がめざすコミュニティ・スクール

中学校区で**15歳の子ども像**を共有し、学校も家庭も地域も、それぞれが子どもと真剣に向き合い、子どものことを真剣に考える『共に育てる＋共に育つ』の視点のもと、お互いに自らできることについて、知恵を出し合う活動をとおして、学び合う組織と学びでつながるコミュニティ・スクールをめざす。

# 令和4年度 重点取組事項

必要に応じて、**子どもたちの熟議への参加**を積極的に進める。



子どもたちの意見が**直接**反映される機会

# みつい協育ネット

## みつい協育ネット

学校支援ボランティア

各種団体

光井中学校学校運営協議会

運営委員会

学習支援  
部会

地域交流  
部会

広報部会

地域コーディネーター

光井小学校学校運営協議会

運営委員会

学習支援  
部会

地域交流  
部会

広報部会

地域コーディネーター

小中合同  
学校運営協議会

光井コミュニティセンター

光井コミュニティ協議会

光井小学校PTA  
光井中学校PTA



高等学校

幼稚園  
保育所



# 令和4年度 小中合同学校運営協議会の様子





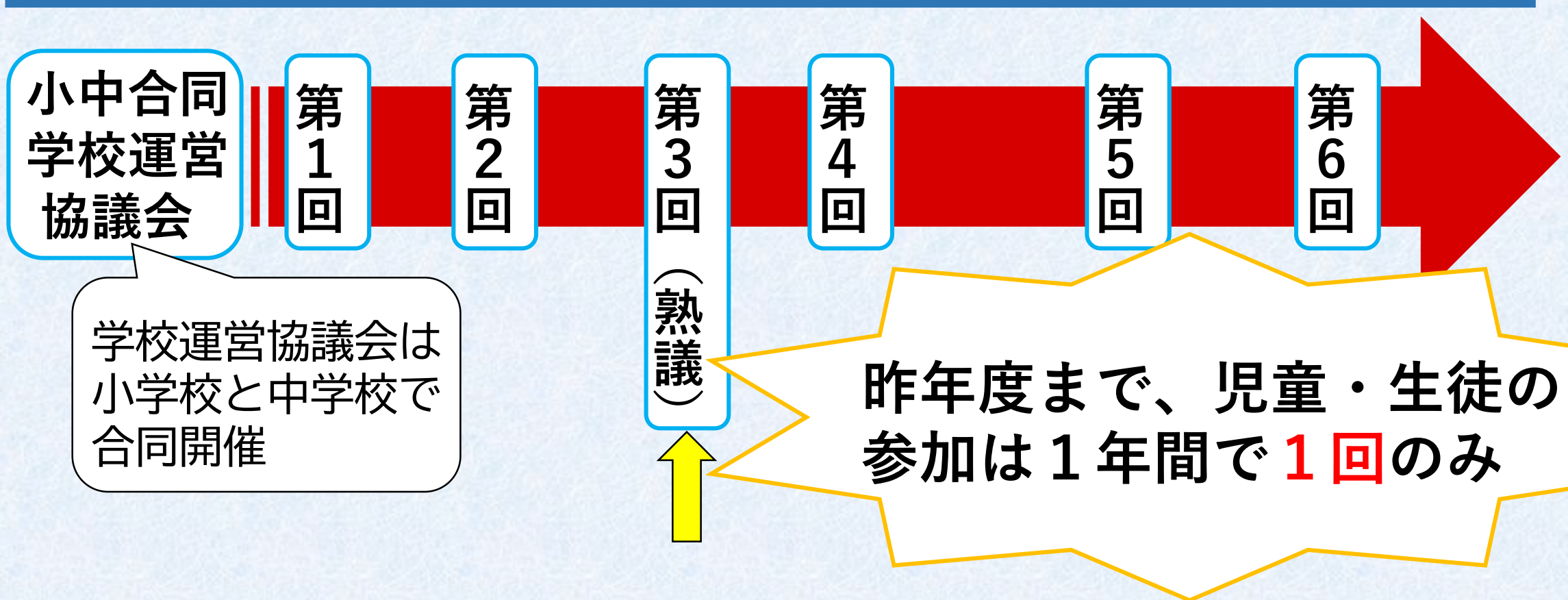
# 令和4年度 小中合同学校運営協議会の様子



中学生による発表

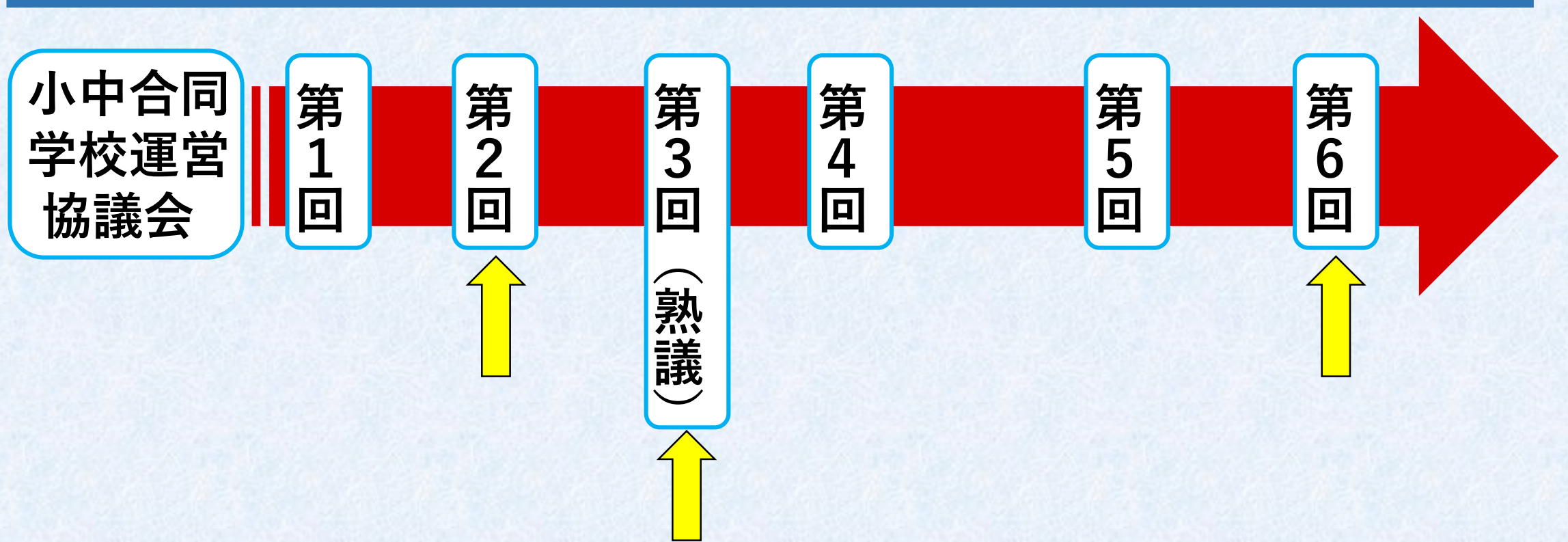
# 光井地区・学校運営協議会 一年間の流れ

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

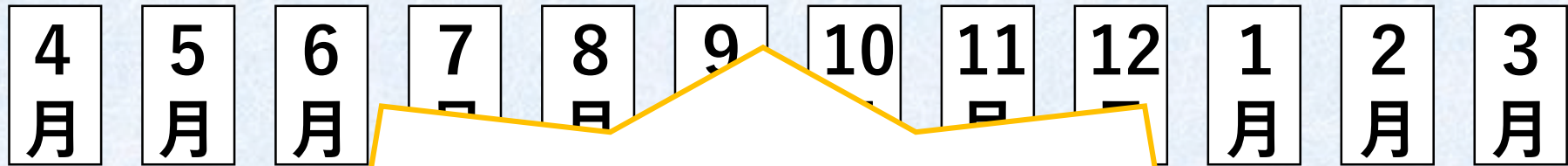


# 光井地区・学校運営協議会 一年間の流れ

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



# 光井地区・学校運営協議会 一年間の流れ



小中合同  
学校運営  
協議会

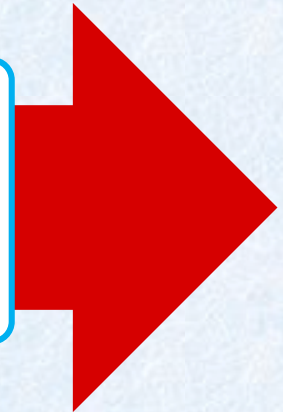
第1回

回

今年度は**3回**  
児童・生徒が参加

(**熟議**)

第6回



# 熟議テーマ

『通学路の安全について』

# 『通学路の安全について』

- 光井地区に住む全ての人に関わる
- 「児童生徒」「教職員」「保護者」「地域住民」  
それぞれの立場から意見が出しやすい
- 出てきた意見が地域全体の安全につながる

**交通**

**防犯**

**防災**

の3観点で協議

# 光井小学校 主な通学路（R4年度）



# 中学校に掲示



○ 見られる人が限られる

○ 一度印刷したら次の更新が遅い

○ 詳細に見られる箇所が限られる



# 1. 学校紹介

- ① 小中学校・地域との連携
- ② 災害を経験して
- ③ みつい協育ネット

## 2. デバイスの活用 (MetaMoji classroom)

### 3. 安全マップの作成

### 4. まとめ・今後の展望

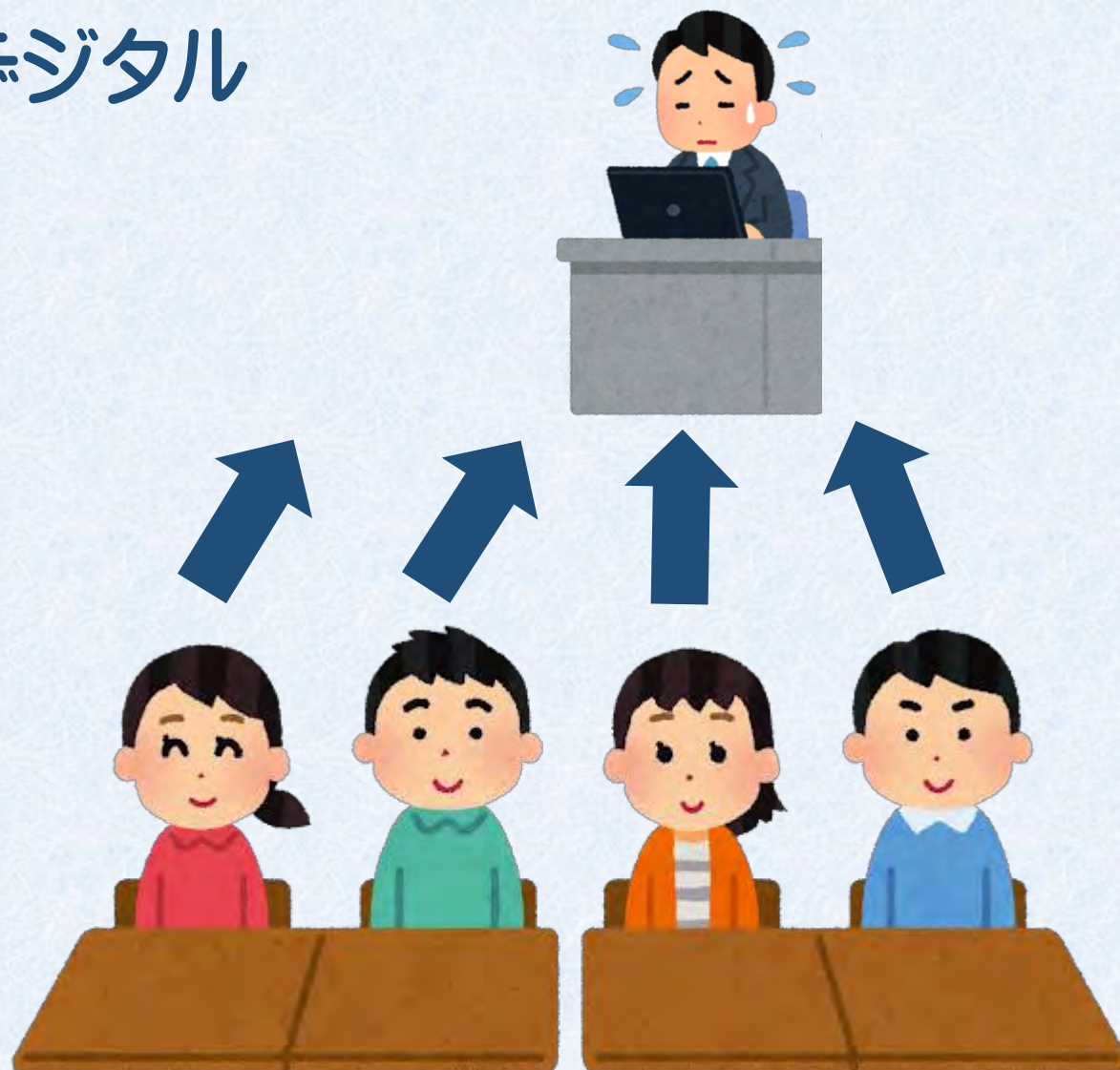
- 作業効率の悪さ
- 制作物が1点のみ → 共有のしにくさ
- 具体性に欠ける

## 紙媒体



- 新しいスキルの必要性
- 持続可能ではない
- 情報伝達の遅さ

## デジタル



- 作業効率の悪さ
- 制作物が1点のみ → 共有のしにくさ
- 具体性に欠ける

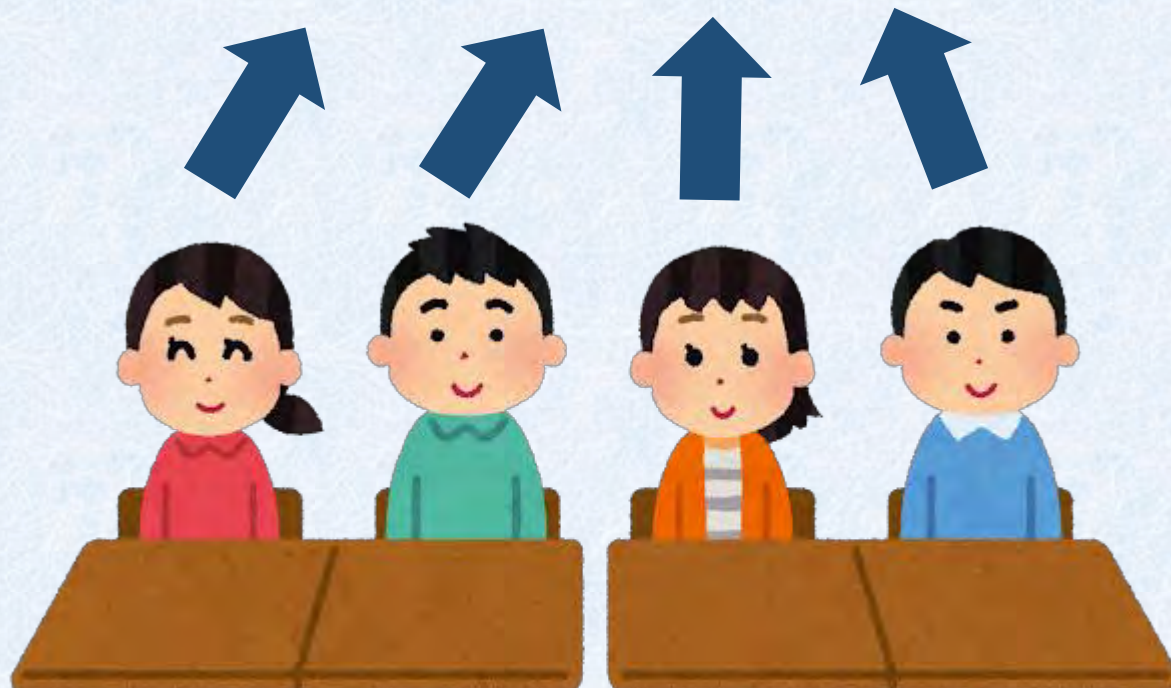
## 紙媒体

- 新しいスキルの必要性
- 持続可能ではない
- 情報伝達の遅さ

## デジタル



特定の場所に行かなくても1人1人が確認  
気付いた人がマップに書き込み、共有



光市内



小1 Wi-Fiモデル  
小2～中3 LTEモデル



MetaMoji Classroom

リアルタイム授業支援アプリ



# Meta Moji Classroom

## リアルタイム授業支援アプリ

モニタリング

オフラインも明るく表示 名前を隠す

かり	森日向	中島大翔	伊
翔太	杉森大和	竹内陸斗	久永
杏奈	吉川翔	戸田優菜	戸田

[ダブルタップ] 見る

12:13 3月19日(火)

日本の世界遺産について調べよう

見る 指す 書く 消す 選ぶ 文字 動かす 取り消し やり直し

2班

### 日本の世界遺産について調べよう

名称	古都京都の文化財	姫路城	屋久島
写真			
所在地	京都など	兵庫県	鹿児島県
どんなところ?	1994年に文化遺産に登録。京都市、宇治市、大津市の(京都市) (温泉地) 17か所の寺社で構成されている文化遺産。京都⇒世界の人気都市 ランキングで第1位	1993年に文化遺産として登録。第二次世界大戦で唯一「不戦の城」に指定された。均等にたたき壊された。別名 白鷺城 日本700名城	1993年に、日本で4つしかない自然遺産として登録。他の場所では見られない生き物が数多く生息し、自然環境保護活動も活発に行われている。

16:38 2月27日(水)

植物観察

見る 指す 書く 消す 選ぶ 文字 動かす 取り消し やり直し

### 植物の季節感を観察しよう

つぼみ

00:00:08 / 00:00:16

2/4



算数科



外国語

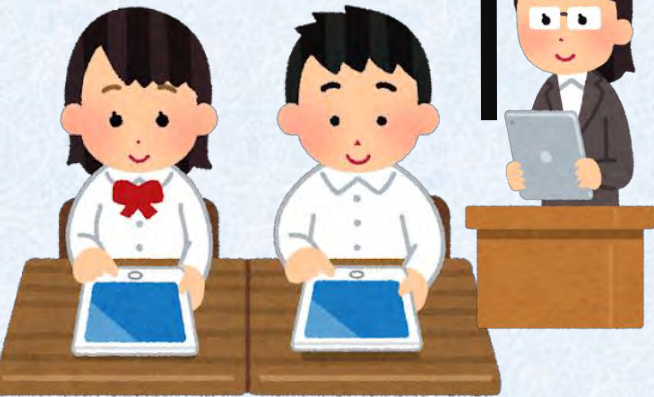
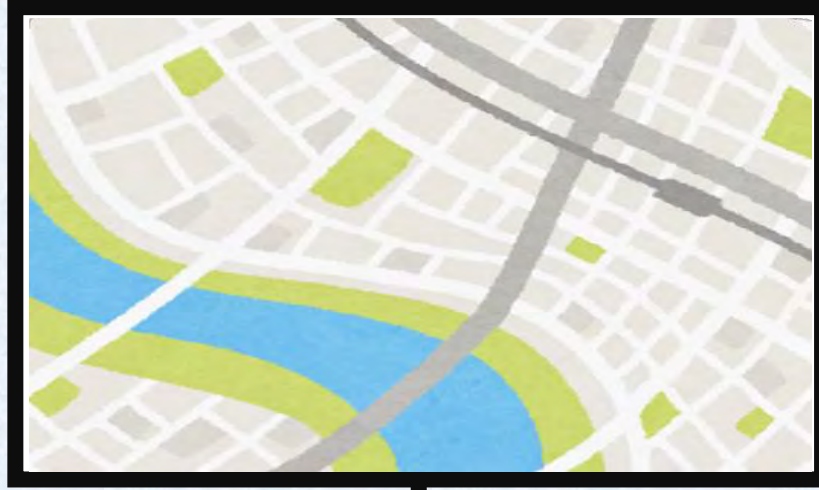


理科



生活科

# 協働学習機能



学校



家庭



地域



1



2



3



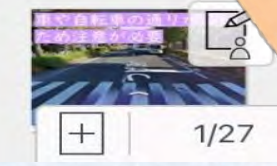
4



6



6



1/27

交通…青  
防災…赤  
防犯…黄







1



2



3



4



5

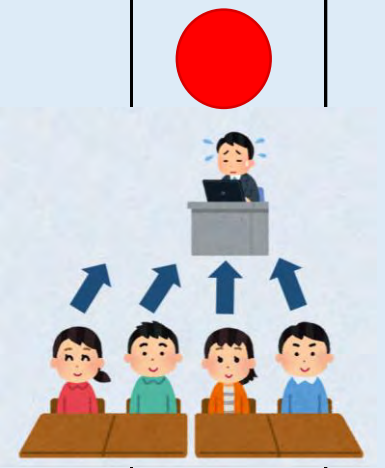




6

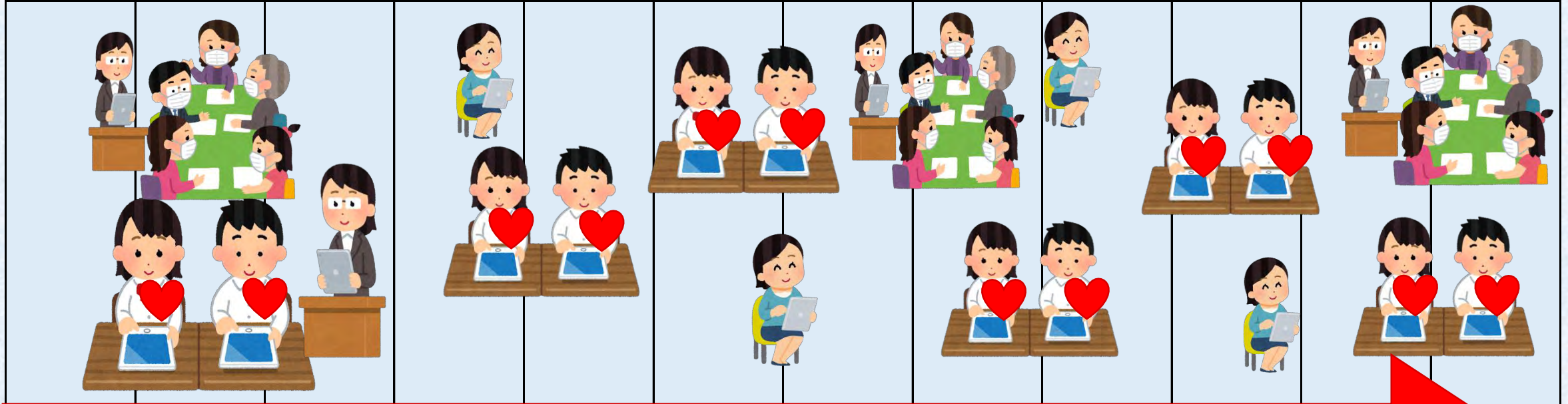


188号線の信号が青の場合、車のスピードがでる

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
											

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
												

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	--------	--------	--------



**自分たちの安全を主体的に考える**

# 1. 学校紹介

- ① 小中学校・地域との連携
- ② 災害を経験して
- ③ みつい協育ネット

## 2. デバイスの活用 (MetaMoji classroom)

## 3. 安全マップの作成

## 4. まとめ・今後の展望

# 小中学生で行った事前打ち合わせ（7月）

運営委員会と生徒会役員  
の児童生徒が参加



# 熟議の様子（9月）

小学生は映像にて参加

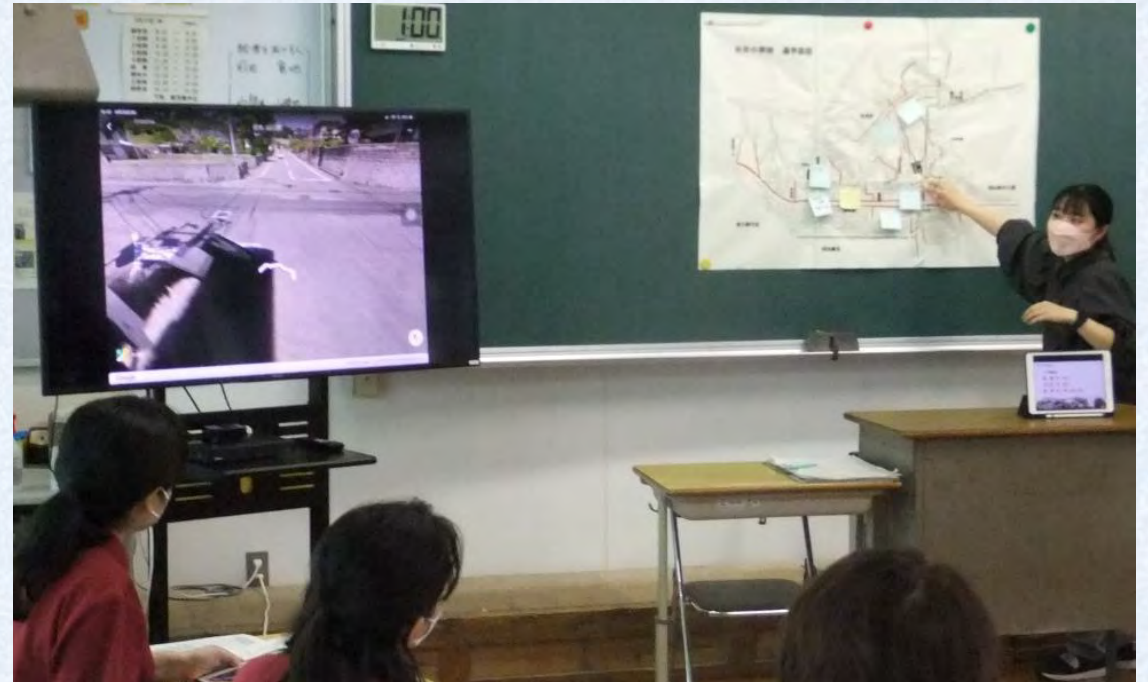


付箋を使って  
地図上にコメント

# 熟議のようす（9月）



**Google Earthで地形を確認**



# いよいよ小中合同集団登校当日



**班長への事前説明**

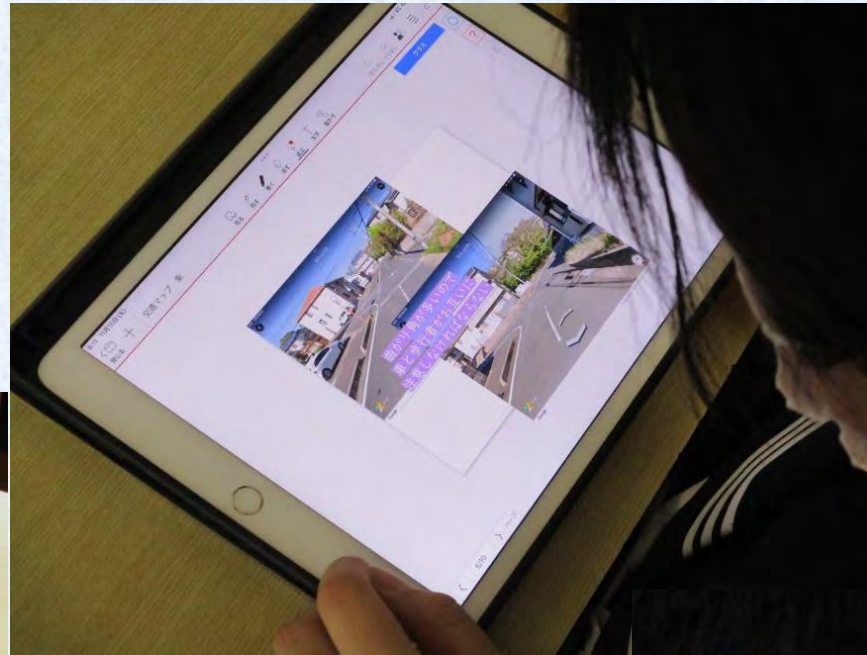
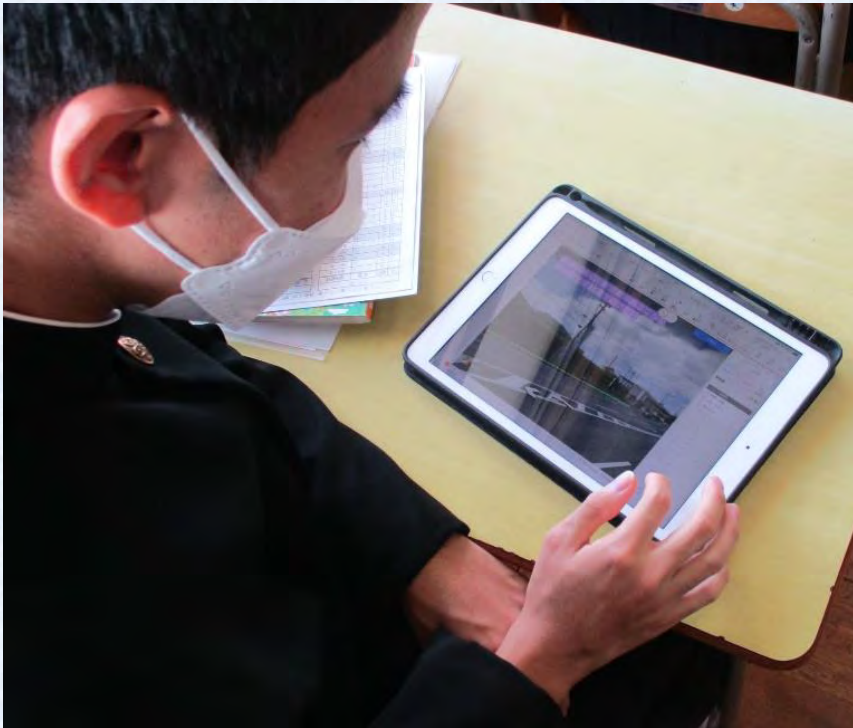


# 小中合同集団登校の様子（11月）

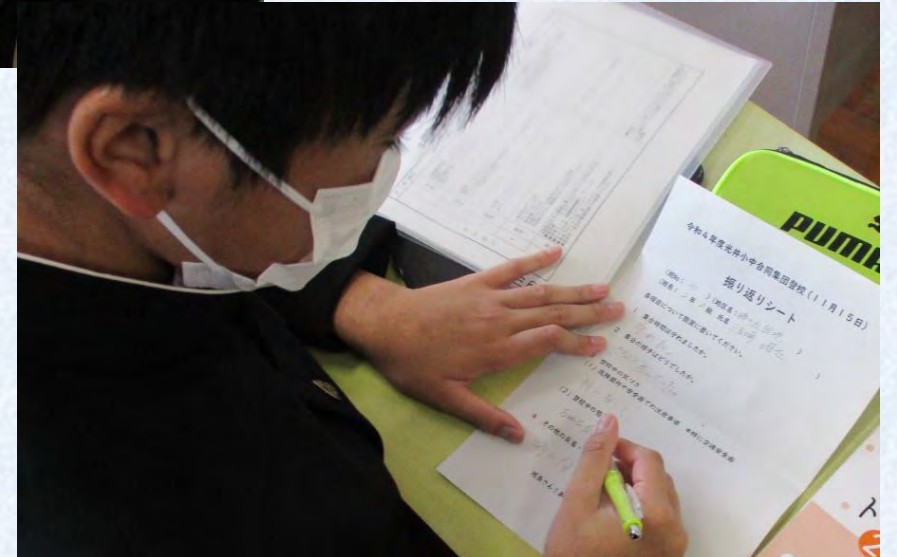


# 小中合同集団登校での気づきを共有（11月）

危険箇所の写真  
と注意事項を  
タブレットで記録



細かい気づきは  
振り返りシート  
を使って反映



歩道がないため注意  
が必要

6

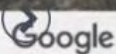
交通



14:41 11月5日(土) 4G 33%

道が狭く、車が曲がって  
来るとき見えにくい ⑦

交通



街灯がなく冬は暗くて危ない

防犯



15:27 9月29日(木)

4G 85%

斜面が急で以前崩れた

ことがある



防災

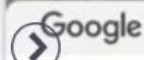


© 2022 Google (33°57'41"N 131°57'03"E) 27 m

大雨で増水の危険性あり

3

防災





歩道橋近辺



柵手のない橋

# 地域住民からの情報提供



スーパー裏手道路



工事車両待機場所



# 1. 学校紹介

- ① 小中学校・地域との連携
- ② 災害を経験して
- ③ みつい協育ネット

## 2. デバイスの活用 (MetaMoji classroom)

## 3. 安全マップの作成

## 4. まとめ・今後の展望

# まとめ



子どもたちの安全を守る  
地域とのつながり

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

子どもたちが主体  
となって考える取組

自分たちの安全を主体的に考える

# 今後の課題 展望

地域からの情報を  
様々なデバイスで共有



交通事故



火災発生



野生動物



不審者情報





光井小中マスコット  
キャラクター  
「光梅ちゃん」

ご清聴ありがとうございました。

実践発表Ⅱ(14:50~15:05)

# 子どもたちの命を守る 学校安全推進体制の構築に向けて

千葉県八街市教育委員会 教育部 学校教育課

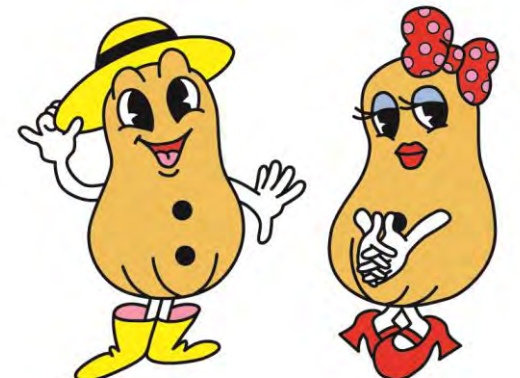
課長 本間 照美

指導主事 石綿 賢

30th Anniversary



千葉県30番目の市の30周年  
Yachimata City Since 1992



八街市イメージキャラクター「ピーちゃん ナツちゃん」

# 千葉県八街やちまた市



落花生の生産量  
全国1位!



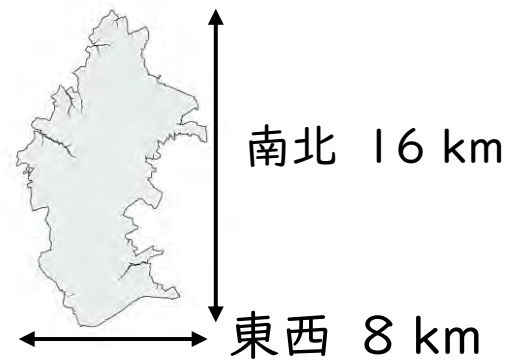
人口

67,461人



令和4年3月末日現在 ※1万人

市域



園  
学校

- 幼稚園:3園
- 小学校:8校
- 分校:1校
- 中学校:4校

**八街市の教育は  
幼小中高連携教育を推進しています**



八街市幼小中高連携イメージ



**14年間の連続した学びの中で夢をもち、  
たくましく生きる子どもを育てます**

# 本市の教育目標

豊かな心を持ち、夢を抱き、たくましく生きる  
幼児・児童・生徒の育成を図る  
～幼小中高連携教育の実践を通して～

## スローガン

近い将来八街市を支える人材づくり



### ICT教育の充実

メタバース空間に学習した成果物を展示  
アバターが自由に動き回って友達の作品を  
鑑賞している様子

# 児童列にトラック 2人死亡



八街・朝陽小

過失傷害容疑

## 1人重体 2人重傷

### 男逮捕、飲酒運転か

28日午後3時25分ごろ、八街市八街の市道で、歩いて下校途中の小学生の列にトラックが突っ込んだ。佐倉署と消防、市教委によると、同市立朝陽小の児童男女5人が巻き込まれ、うち2人が死亡、残る3人は6〜10歳とみられ、1人が意識不明の重体、2人が重傷を負った。

### 同校5年前にも事故

佐倉署は、自動車運転処。容疑者からは呼吸検査罰法違反(失傷害)の疑いで血液値を超えるアルコールでトラックを運転していたと検出された。同署はまた、横沢洋(容疑者60)同市 交法違反(酒気帯び運転)八街は、を現行犯逮捕し、容疑でも立件する方針。詳しい事故原因を調べてい。佐倉署によると、トラックは電柱に衝突後、道路左側を歩行中の児童5人を巻き込んだ。容疑者は「右から影のよつなものが見えてハンドルを切ったら電柱にぶつかった。そのまま子どもたちの列に突っ込んでけがをさせてしまった」と供述している。

下校中の小学生の列にトラックが突っ込んだ事故で、トラックを調べる警察や消防の関係者=28日午後5時28分、八街市(共同通信社ヘリから)

同小では2016年にも、集団登校していた児童の列に車が突っ込む事故が発生し、4人が重傷を負った。八街市教委の担当者は「八街市の道路はとても狭いため、小学生に危険性を呼び掛けていた」と話した。

令和3年6月28日(月)  
午後3時25分ごろ  
事故発生

下校途中の児童5人が  
事故に巻き込まれた。

千葉日報2021年6月29日(火)  
朝刊一面



# 3省庁連携による通学路の緊急合同点検要請 (令和3年7月9日)

見通しのよい道路や幹線道路の抜け道になっている道路など車の速度が上がりやすい箇所や大型車の進入が多い箇所



《対策後》



## 学校における事故後の緊急対応

- 2日間の臨時休校
- 学校再開前に、保護者説明会の開催
- 心のケアを目的としたスクールバス運行の開始
- 学校再開後に、児童向けの全校集会の実施
- 学校と市・市教委が連携したマスコミ・報道対応

## 児童生徒に対する「心のケア」

- 千葉県スクールカウンセラー(SC)の緊急配置
- 県教委SCスーパーバイザーの派遣
- 千葉県警犯罪被害者支援室・交通捜査課との連携

# スクールバス運行・警備員配置の実証事業(R3)

## (1) 朝陽小学校・八街北中学校

- 目的 事故後の心のケア
- 本数 登校時1便、放課後4便(小2便、中2便)
- 乗降場所 1箇所
- 人数 最大29名(全校児童406名・生徒241名)
- 走行距離 1.9 km



## (2) 二州小学校・沖分校

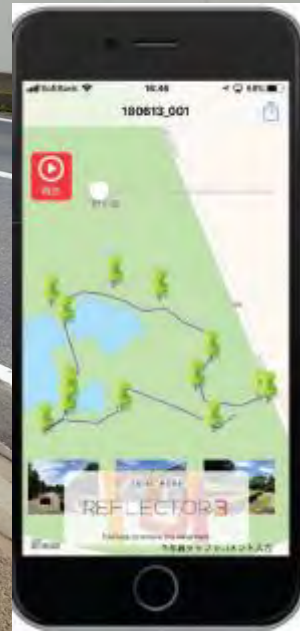
- 目的 遠距離自転車通学・通学時の安全確保
- 本数 登校時1便、放課後2便
- 乗降場所 9箇所
- 人数 最大人数76名(全校児童数97名)
- 走行距離 20 km



# 安全マップづくりを支援するソフトウェア 「聞き書きマップ」の活用 (安全管理の取組)



スマートフォン版



- ①GPS受信機
- ②ICレコーダー
- ③デジカメの機能

パソコン版との連携



○立正大学データサイエンス学部 原田 豊 教授による監修  
ONHK 千葉放送局 首都圏ナビで取材を受けました。2022年3月4日  
<https://www.nhk.or.jp/shutoken/chiba/article/002/49/>

# 児童参加型の交通安全教室(安全教育の充実)



(左) 代表児童による実技講習の場面



(右) 1人1台端末で交通安全クイズに回答

- 学校、市教委、佐倉警察署交通課・八街市役所防災課との連携
- 学校安全アドバイザー監修・助言

千葉工業大学 赤羽弘和教授・帝塚山大学 蓮花一己教授・日本自動車研究所 大谷 亮主任研究員

# 令和3年度～ 八街市教委 安全対策への主な取組

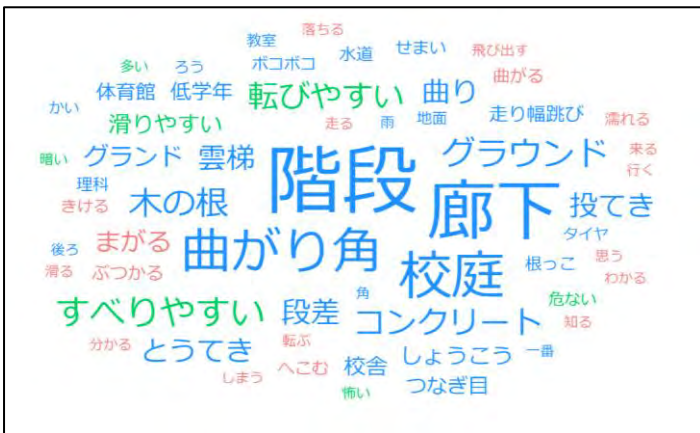
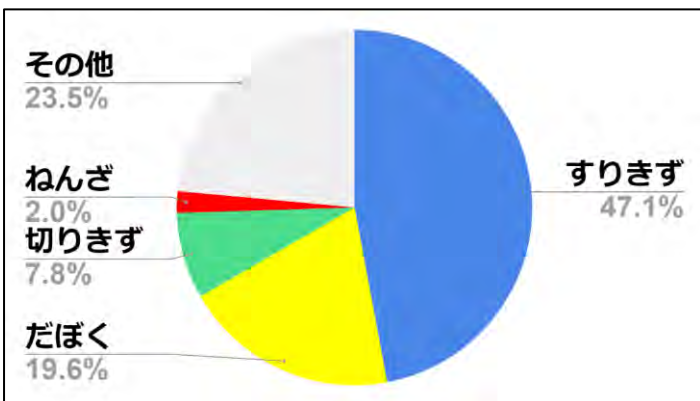
- R4 学校安全総合支援事業(千葉県通学路推進事業) 八街北中学校区の指定
- 大阪教育大学セーフティプロモーション(SPS) 認証に向けての協力・支援(朝陽小)
- 令和4年6月 事故1年後を迎えるにあたり  
各学校の教職員の意識を高める安全教育月間の設定
- スクールバス運行を始めとした八街市通学路安全対策事業の継続
- 緊急合同点検や交通安全プログラムによる対策 ～市長部局との連携～
- 学校安全アドバイザーの委嘱
- 保護者、市PTA連絡協議会、地域住民、警察や消防等の関係機関との連絡・調整

# 朝陽小 安全教育 デジタル技術を活用した学び

5年生

総合的な学習の時間 「校内安全プロジェクト」

## 全校アンケート・実態把握



## 対策



校内パトロール呼びかけ

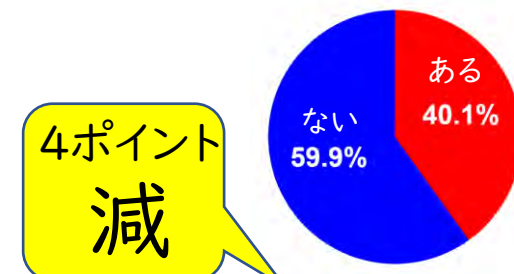


走った場合 歩いた場合



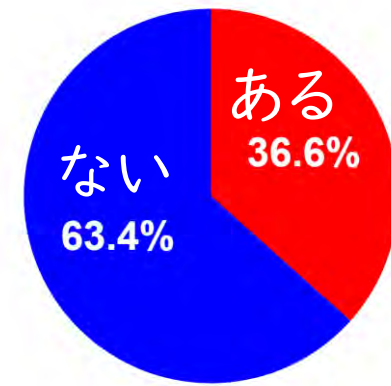
## 効果検証

ケガの発生率(対策前)



4ポイント減 (4-point reduction)

ケガの発生率(対策後)



# 朝陽小 安全管理の取組の充実

4年生

総合的な学習の時間 「UDC(ユニバーサルデザイン朝陽)」

～より安心してすごせる校舎へ朝陽小改造計画!～



死角を防ぐくふう



減速のくふう

チャイルドビジョン体験  
低学年目線を調査

「廊下は道路」

UDの学習を生かす



# 朝陽小 指導時間の確保 ~カリキュラム・マネジメントの考え方~

国語科/社会科

3年生

## 「ピクツと気付く、交通安全ピクトグラム」



2年生

生活科

## 秋の町ではっ見! 「あんぜんな通学ろ」



# 小中連携や幼(保)小連携の実践

## 中学校

生徒会活動 「登下校時の安全について」

学習生活委員会による自転車点検  
(毎月実施)



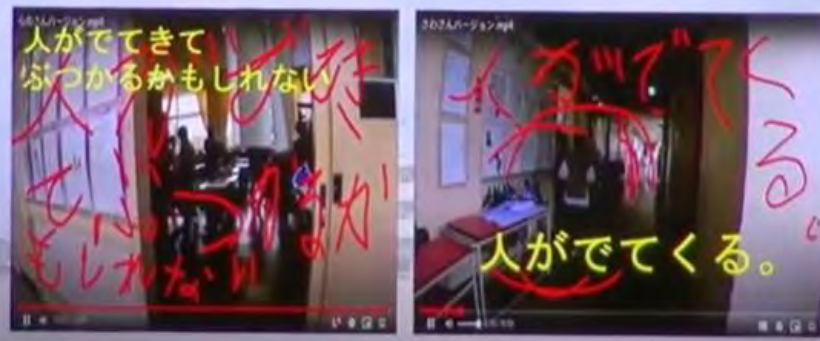
学習生活委員会の点検後、担任の先生に確認印を押印してもらう。

○生徒による、安全点検のようす  
委員会活動を小学生に紹介  
入学前のガイダンスの機能

## 1年生

生活科 がっこうとなかよし 「けがのしやすいところはどこだろう」

きょうしつのはしりぐち



○児童が校舎内を動画撮影  
けがのしやすいところをスクリーンショット  
手書きで気付きを記入  
幼稚園児や保育園児のために、  
安全クイズをつくり、紹介

# 朝陽小 地域の多様な主体と密接に連携・協働

学年ゆるキャラ  
あゆ君



6年生

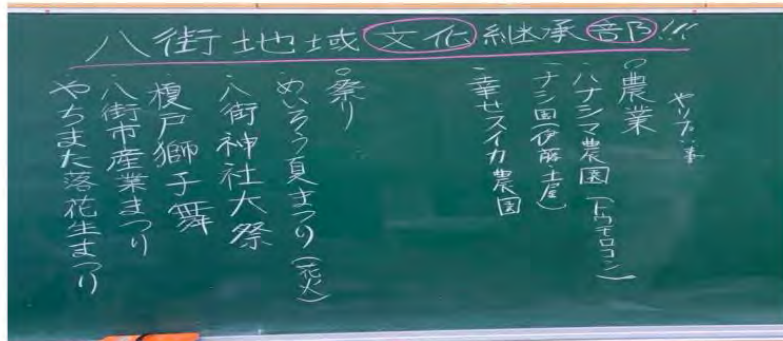
総合的な学習の時間 「八街地域貢献隊」

## 八街市をより魅力ある街にするために3つのグループを編成して活動

八街クリーン部  
(地域清掃チーム)



八街地域文化継承部  
(伝統文化継承チーム)



交通安全対策本部 (交通安全チーム)

### 赤コース



車目線

2年生

6年生

0:39 / 1:24



共有



郷土を愛する気持ち・・・



安全への願いを込めて・・・

# 成果と課題

- 12/1当日の「地域公開学習発表会」の様子を記録し、動画にまとめた。  
リンク先はこちら  
[https://youtu.be/RStFXX2W\\_V4](https://youtu.be/RStFXX2W_V4)
- 八街市として、この事故を絶対に忘れてはいけない  
二度とこのような事故を起こさない  
この事故を、「風化させない」ための取組はいかに？
- 市内であっても、当該校と温度差あり  
事故後、各学校で校長を中心に一斉に安全教育をやってきたが、  
時間がたつにつれて、意識が薄れてしまう一面もある。



令和4年度 学校安全総合支援事業全国成果発表会

自ら学ぶ力を身に付け，生き抜く力を育む  
～「気づき・感じ・伝え合う」ことを  
大切にした安全教育の日常化～

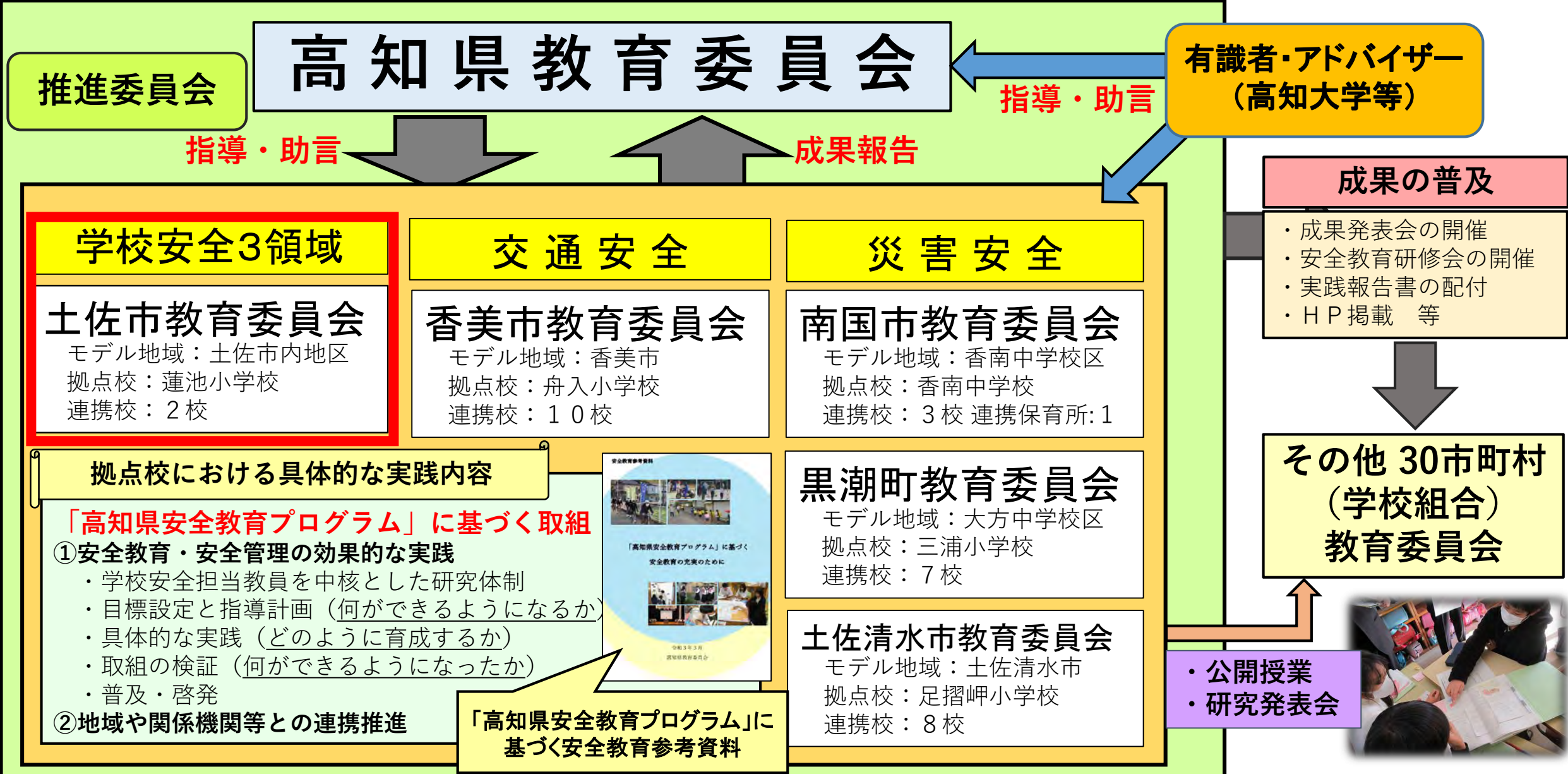


R5.2.9(木) オンライン開催  
高知県モデル地域：土佐市  
拠点校：土佐市立蓮池小学校



# 高知県学校安全総合支援事業

**目的** 市町村教育委員会がモデル地域を指定し、拠点校における組織的な学校安全の取組を、学校安全担当教員を通じて、モデル地域内の学校と共有しながら、モデル地域全体の学校安全推進体制を構築する。



## 高知県教育委員会

推進委員会

有識者・アドバイザー  
(高知大学等)

指導・助言

指導・助言

成果報告

### 学校安全3領域

### 交通安全

### 災害安全

**土佐市教育委員会**  
モデル地域：土佐市内地区  
拠点校：蓮池小学校  
連携校：2校

**香美市教育委員会**  
モデル地域：香美市  
拠点校：舟入小学校  
連携校：10校

**南国市教育委員会**  
モデル地域：香南中学校区  
拠点校：香南中学校  
連携校：3校 連携保育所: 1

### 成果の普及

- ・ 成果発表会の開催
- ・ 安全教育研修会の開催
- ・ 実践報告書の配付
- ・ HP掲載 等

### 拠点校における具体的な実践内容

- 「高知県安全教育プログラム」に基づく取組**
- ① 安全教育・安全管理の効果的な実践
    - ・ 学校安全担当教員を中核とした研究体制
    - ・ 目標設定と指導計画（何ができるようになるか）
    - ・ 具体的な実践（どのように育成するか）
    - ・ 取組の検証（何ができるようになったか）
    - ・ 普及・啓発
  - ② 地域や関係機関等との連携推進



「高知県安全教育プログラム」に基づく安全教育参考資料

**黒潮町教育委員会**  
モデル地域：大方中学校区  
拠点校：三浦小学校  
連携校：7校

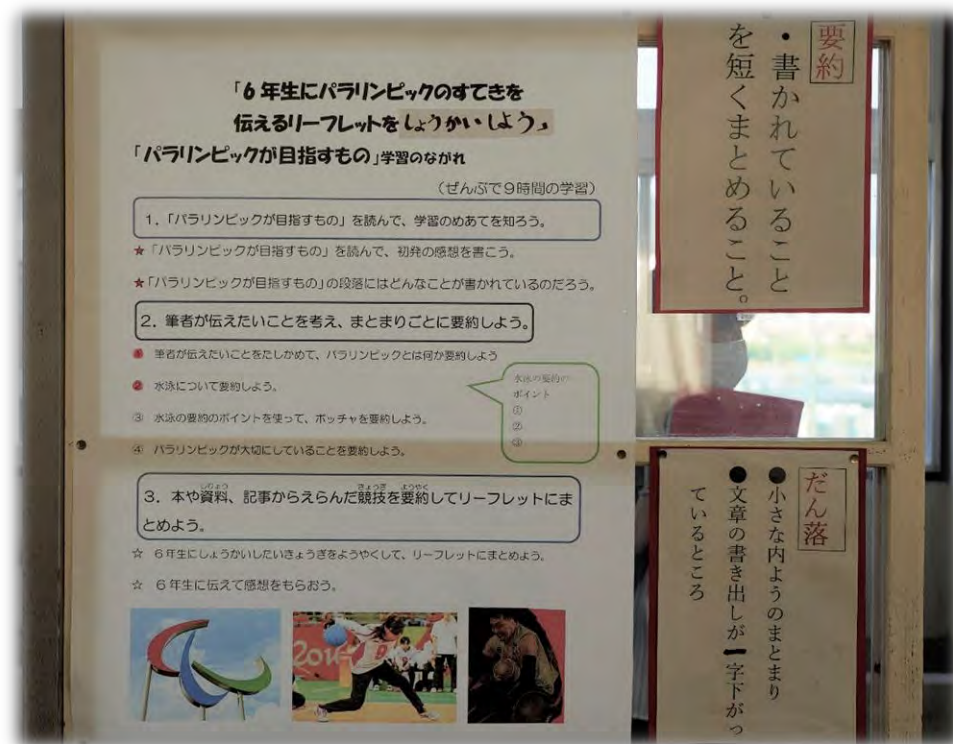
**土佐清水市教育委員会**  
モデル地域：土佐清水市  
拠点校：足摺岬小学校  
連携校：8校

### その他 30市町村 (学校組合) 教育委員会

- ・ 公開授業
- ・ 研究発表会



# 学ぶ意欲と豊かな心を身に付けた、 たくましい子どもたちの育成





# 学ぶ意欲と豊かな心を身に付けた、 たくましい子どもたちの育成



# 学ぶ意欲と豊かな心を身に付けた、 たくましい子どもたちの育成



学校教育目標

# 学ぶ意欲と豊かな心を身に付けた、 たくましい子どもたちの育成



研究主題

自ら学ぶ力を身に付け，生き抜く力を育む

～「気づき・感じ・伝え合う」ことを  
大切にした**安全教育の日常化**～

# 安全教育の日常化

学習指導要領

H29.3月

第3次学校安全の  
推進に関する計画

R4.3.25

資質・能力

実践的・実効的

# 安全教育の日常化

## 第3次学校安全の推進に関する計画

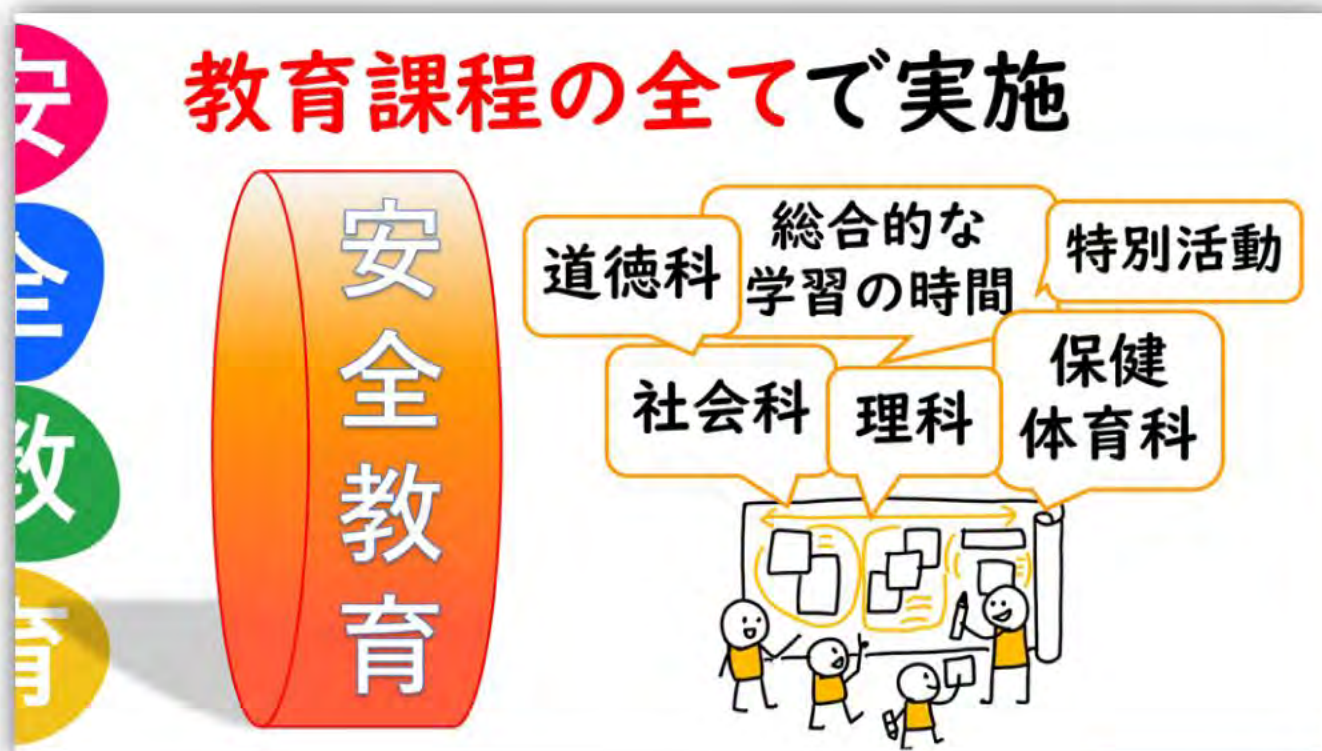
### 課題

様々な計画やマニュアルが整備されつつも、必ずしも実効的な取組に結びついていないこと

# 学校安全計画の見直し

実効的な取組に結びつく  
様々な計画やマニュアルを  
整備（教科等横断的）

# 学校安全計画の見直し 各学年版を作成





【1年生】

命を守る にこここ隊

【2年生】

命を守る

わくわく探検隊



**【3年生】**

**「命を守り隊」身の回りの危険  
から自分の命をしっかりと守ろう**

**【4年生】**

**みんなを守ろう  
Vision Zero!**



【5年生】

南海トラフ地震や気象災害について正しく知ろう、備えよう！

【6年生】

南海トラフ地震に備えよう！

自分のできることについて考えよう！



【1年生】

# 命を守る にこここ隊



Life safety



生活安全

【1年生】

# あんぜんに生活しよう

①学校生活のきまり

②通学路について



③学校・校外の様子

④交通ルール

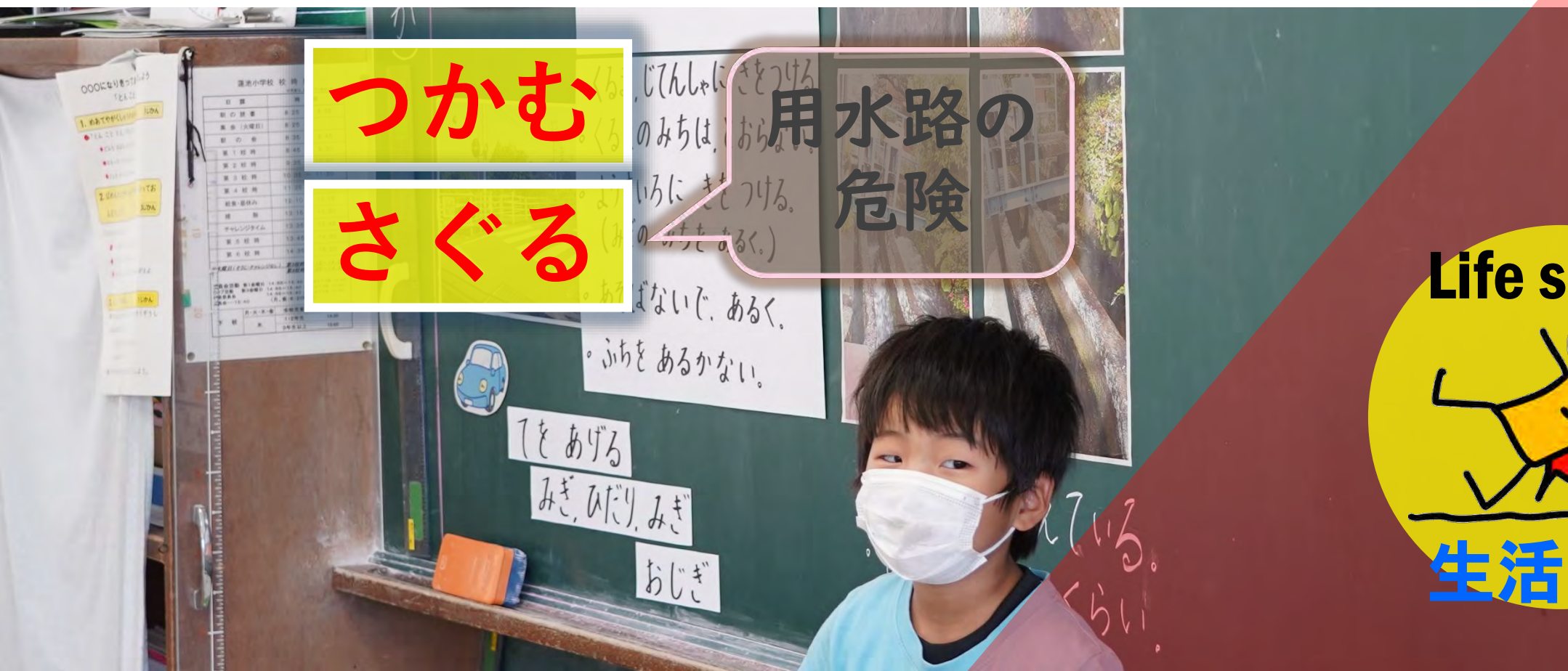
Life safety



生活安全

# 【1年生】の視点①

## 危険に気付き,安全な行動について考える



つかむ

さぐる

水路の危険



Life safety

生活安全

# 【1年生】の視点①

## 危険に気付き,安全な行動について考える

つかむ

さぐる

見つける

近づいてはいけない

のぞいてはいけない

Life safety



生活安全

## 【1年生】の視点①

# 危険に気付き,安全な行動について考える

つかむ

さぐる

見つける

決める



私は,とうめいを前にします

Life safety



生活安全



# 【1年生】の視点②

あるきかた あんけえと

## 振り返りの場面の設定と工夫

☆どんなところに きをつけて どうろを あるいていますか。

決める

振り返る

家庭でも  
話す



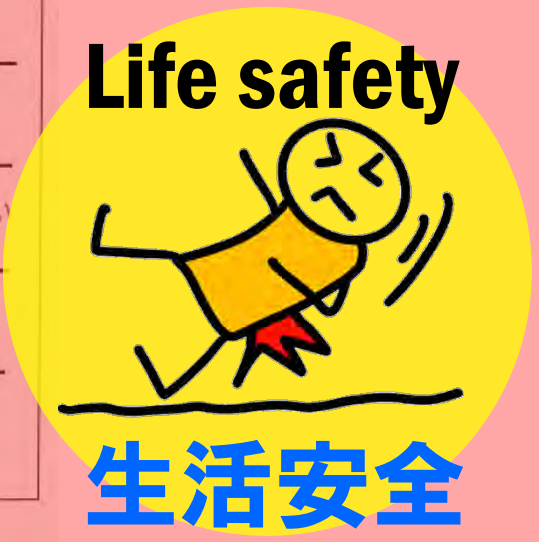
かぐどうて  
おもかえかきたら  
みぎひたりにみて  
とびださなようは



ここはまなかを  
とおっていますと  
とがこうへいって

めあて

あめがふっている  
ときは、くるまをいって  
おいるときは  
じゃんぷをしたら  
けがをするので  
ゆっくいはりる。



## 【1年生】の課題

# 学習内容と日常場面が離れすぎた児童

つかむ

さぐる

見つける

決める

振り返る



自分ごとの  
弱さ

Life safety



生活安全

## 【1年生】の課題

# 安全に過ごすための知識を実践につなぐ

つかむ

さぐる

見つける

決める

振り返る



朝の会や帰りの会、  
学級活動でくり返し

Life safety



生活安全

【4年生】

# みんなを守ろう Vision Zero!



Traffic safety



交通安全

【4年生】

# 校区の交通安全について知り,発信する

- ①校区を回り危険箇所を探す
- ②解決策について考え,  
                  専門家の助言を受ける
- ③交通安全マップを作成する
- ④学んだことを発信する



# 【4年生】の視点①

## 交通安全行動を知り,他者に伝えていく

つかむ

さぐる



Traffic safety



交通安全

# 【4年生】の視点①

## 交通安全行動を知り,他者に伝えていく

見るポイント

- 道はは
- うす暗さ
- 車の量(交通量)
- しかく

つかむ

さぐる

見つける

車計 8  
人計 2

車の量と横断歩道の有無

交通量と街灯数

歩いて気づいたことや分かったことを書きましょう。

●横断歩道がない  
車が通る(少ない)

●カーブ(見通しが悪)  
がいとうがない



## 【4年生】の視点②

他者との関りを通して、考えを広げ深める

つかむ

さぐる

見つける

決める



Traffic safety



交通安全



## 【4年生】の視点②

# 他者との関りを通して、考えを広げ深める

つかむ

見学時のマップ

KJ法

ICT活用

さぐる

見つける

決める

Traffic safety



交通安全

## 【4年生】の視点②

# 他者との関りを通して、考えを広げ深める

決める

広げる

登下校中や休日

自主学习

Traffic safety



交通安全

## 【4年生】の課題

# 学習が知識として留まり、発信が弱い

つかむ

さぐる

見つける

決める

広げる



調査と発信が  
一体の学習へ

Traffic safety



交通安全

【5年生】

南海トラフ地震や気象災害について  
正しく知ろう，備えよう！



Disaster safety



災害安全

【5年生】

# 南海トラフ地震について課題を持ち 身近な環境について調べる

- ①南海トラフ地震の基礎知識を理解する
- ②状況に応じた避難行動を知り,行う
- ③家庭の防災対策を行う



- ④正しい防災情報の  
入手方法を知る



【5年生】

# 大雨・台風，土砂災害，突風・雷による災害について調べる



Disaster safety



【5年生】

# 大雨・台風，土砂災害，突風・雷による災害について調べる

- ① 台風や土砂災害，雷等の基礎知識について理解
- ② 気象災害への対策を考える
- ③ 避難経路，連絡方法を家族で確認する
- ④ より安全に避難できる方法を身に付ける



**【5年生】**

# 南海トラフ地震や気象災害について

学びに向かう力・人間性等

Disaster safety



災害安全

知識・技能

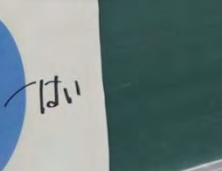
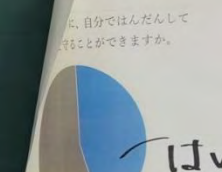
思考力・判断力  
表現力



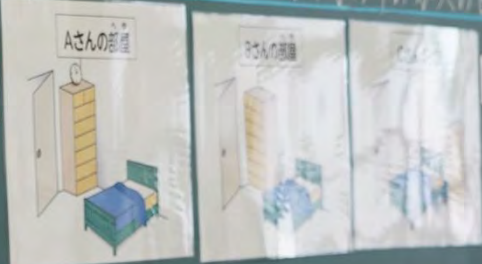
# 【5年生】の視点①

## 課題に対して自分の考えや思いを持つ

つかむ



自分の命を守るために家中の家具の配置について考える



僕の家は、家具固定の対策が不十分だ...

Disaster safety



災害安全

## 【5年生】の視点①

課題に対して自分の考えや思いを持つ

つかむ

さぐる



Disaster safety



災害安全

# 【5年生】の視点①

## 課題に対して自分の考えや思いを持つ

つかむ

さぐる

見つける



Disaster safety



# 【5年生】の視点①

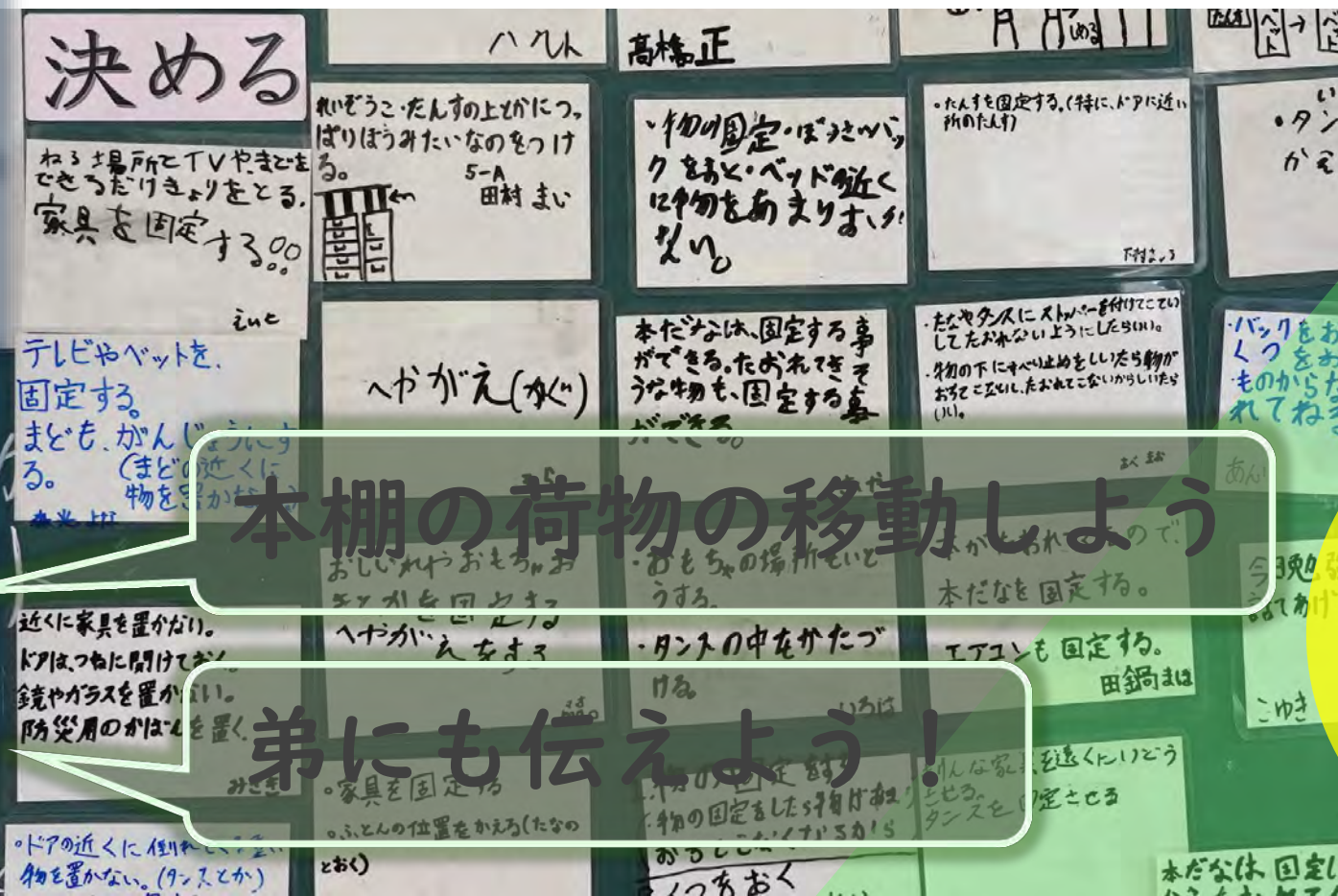
## 課題に対して自分の考えや思いを持つ

つかむ

さぐる

見つける

決める



Disaster safety



## 【5年生】の視点②

# 振り返りの場面の設定と工夫

つかむ

さぐる

見つける

決める



Disaster safety



災害安全

## 【5年生】の視点②

# 振り返りの場面の設定と工夫

決める

③ 今日学習した内容で、家族に伝えることを決めよう。

南では、へいがあり、入口にさかつかいたんがあり、しんすいのたいせくをしていたけど、自分の家の周りはどうなのか、しよに考えたいです。

振り返る

③ 今日学習した内容で、家族に伝えることを決めよう。

自分の家かなんて少しけんがんの前がかいたんしよになつてい  
のかを伝えたいです。

Disaster safety



災害安全

## 【5年生】の視点②

# 振り返りの場面の設定と工夫

決める

③ 今日学習した内容で、家族に伝えることを決めよう。

川と道路の高さが違う意味

南では、川が道路より高かったり、道路が川より高かったり、しずいのたいせきを  
していたけど、自分の家の周りはどうなのか、しよに考えたいです。

振り返る

水門の重要性

③ 今日学習した内容で、家族に伝えることを決めよう。

自分の家かなんかで、  
のかを伝えたいです。

増水時の田の貯水機能

Disaster safety



災害安全

## 【5年生】の課題

# 知識を自分事として捉えられる工夫

つかむ

さぐる

見つける

決める

振り返る



私には関係ない  
ような気がする...

Disaster safety



災害安全



【5年生】の課題

# 学習内容を総合する振り返りの適時性

つかむ

さぐる

見つける

決める

振り返る



Disaster safety



災害安全

【6年生】

# 「防災小説」を書こう！



**土佐市の被害 (ひがい) 想定 (そうてい)**

- 市内全部の場所で震度6弱以上の揺れ
- 死者・行方不明者: 2,500人 (けが人は960人)
  - 町全体の8%
- 建物のひがい: 4,800棟
  - 全体の25%
- 避難者数: 11,000人
  - 町全体の36%

20XX年12月16日午後 4時42分

南海トラフ地震が発生！ その時、わたしは・・・



# 南海トラフ地震に備える

- 授業
- 学校行事  
(避難訓練や  
防災1DAYキャンプ)
- 家族防災会議

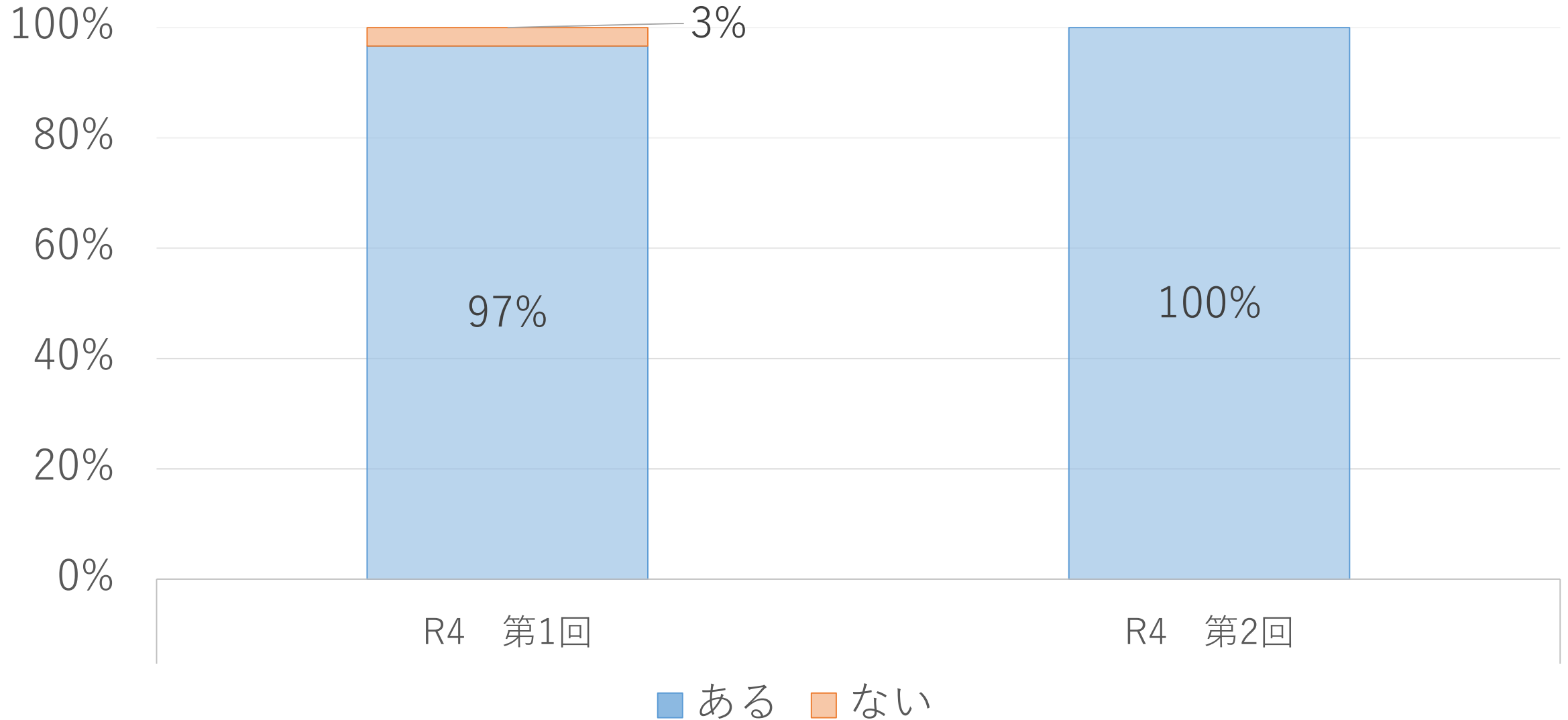


**System of  
school safety**

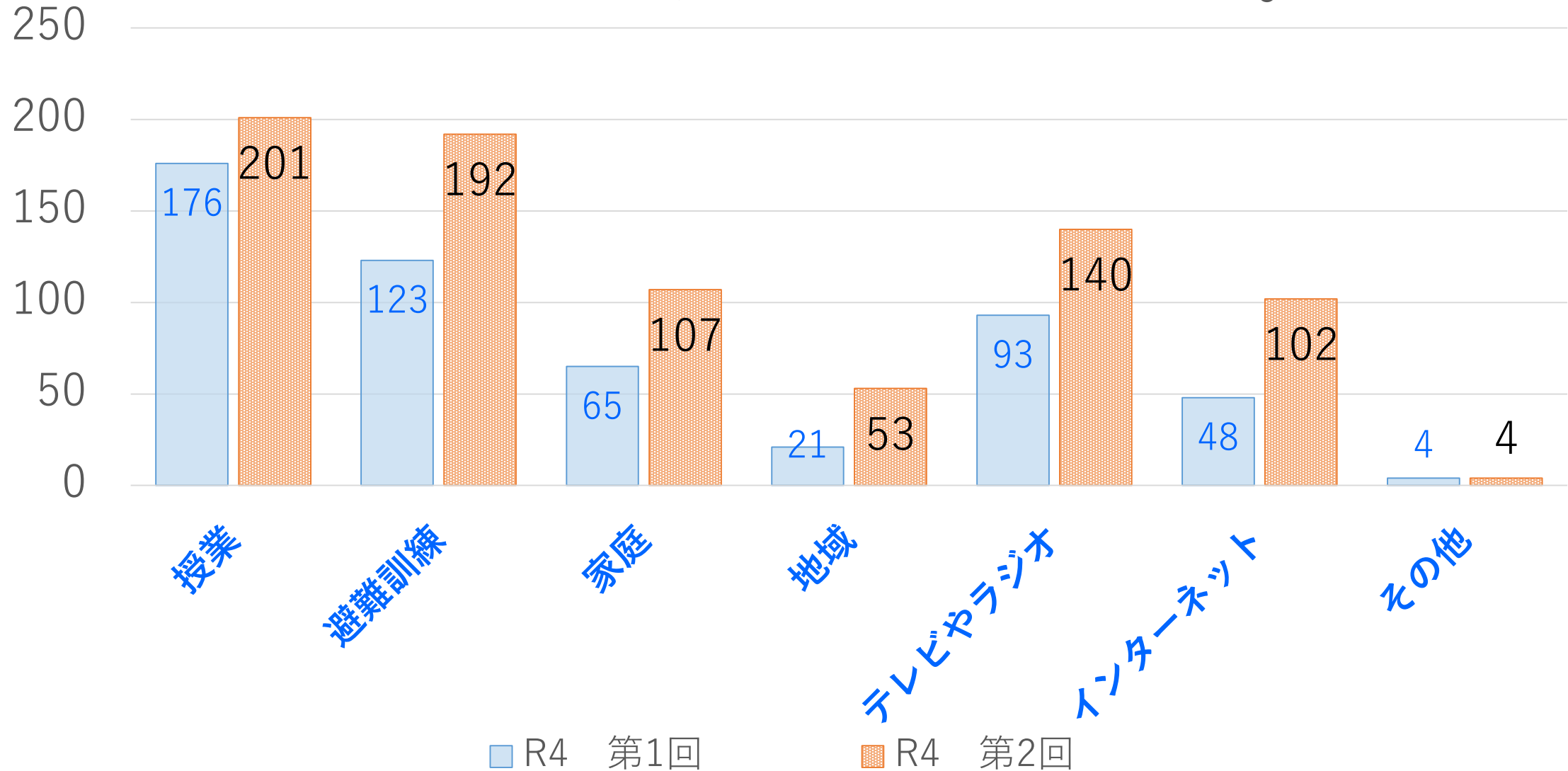


学校安全の**体系**

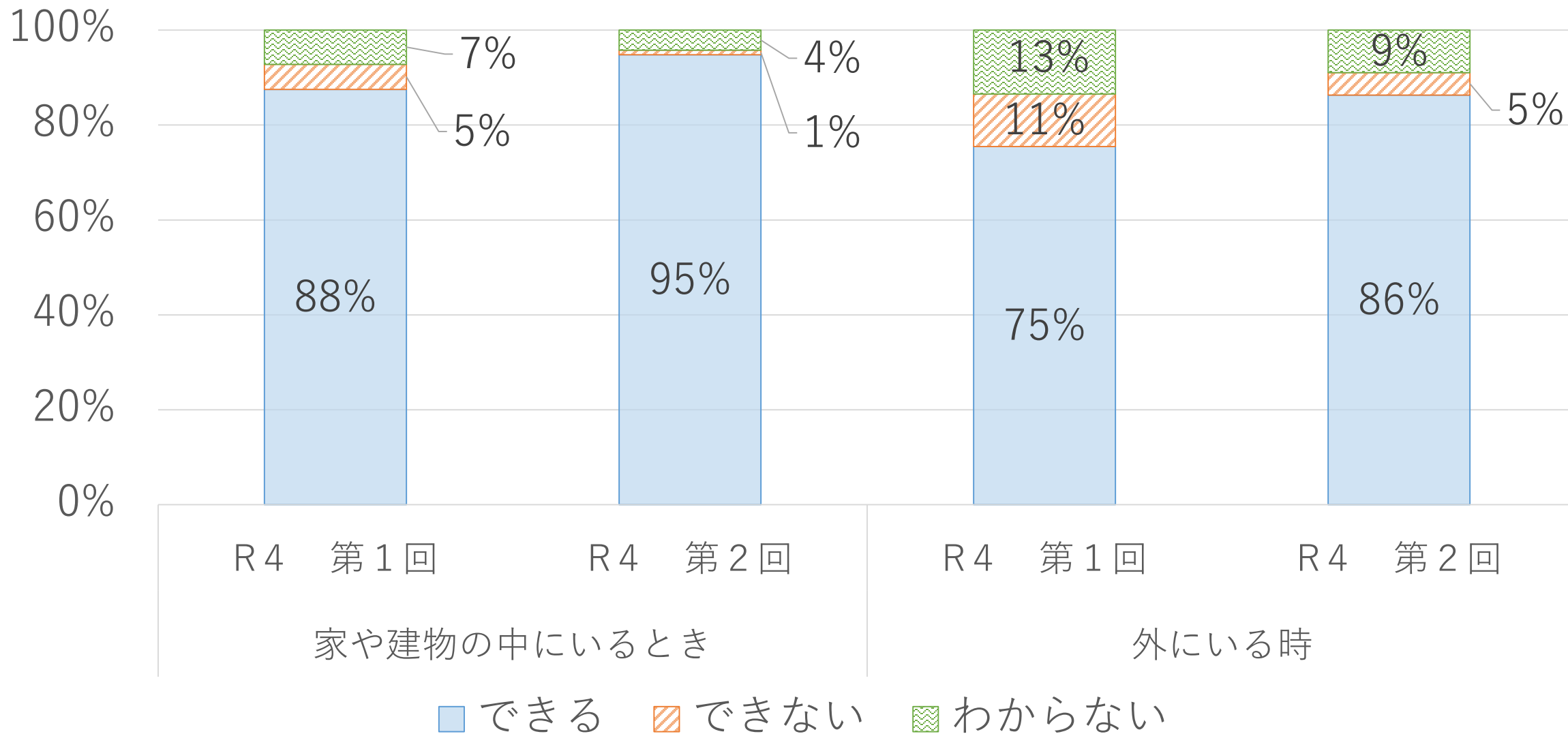
# 1 - ①のA 南海トラフ地震について、話を聞いた いたりみたりしたことがありますか。



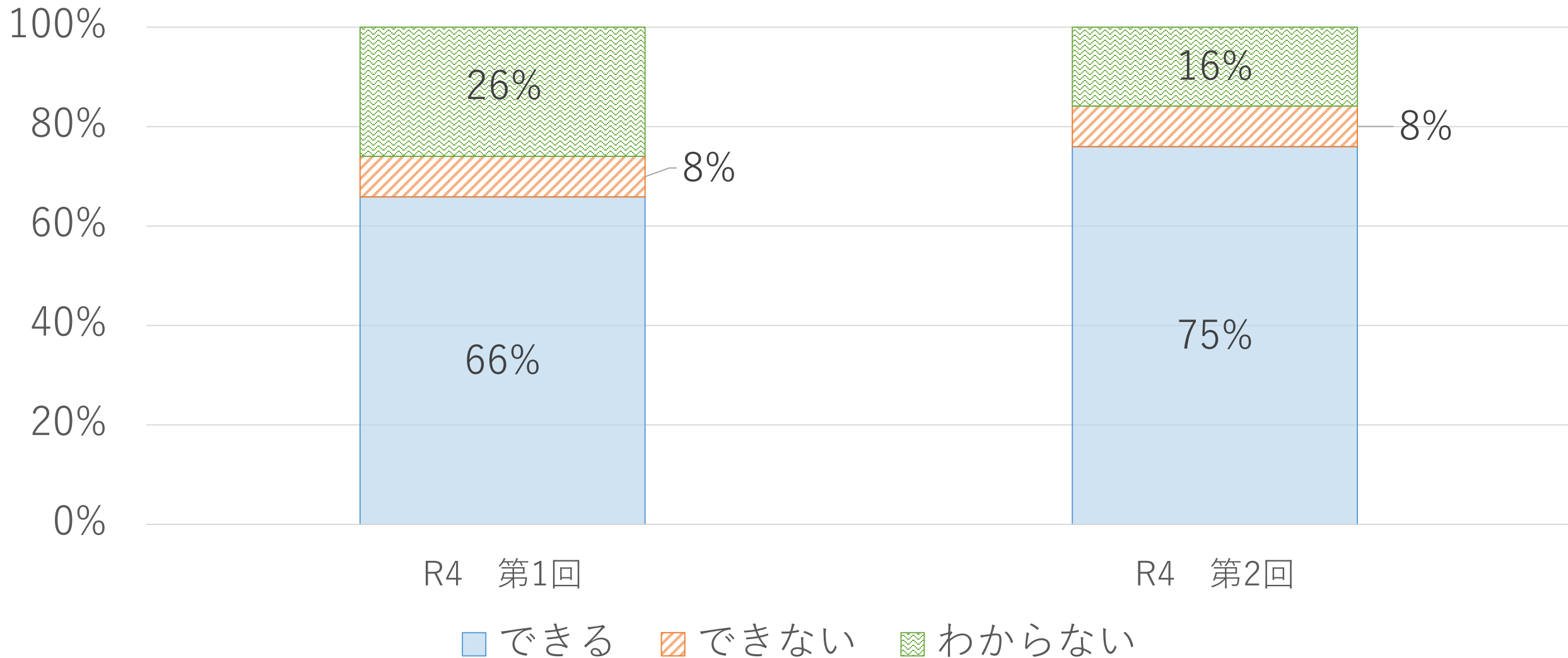
# 1 - ①のB 南海トラフ地震について、 どうやって知りましたか。



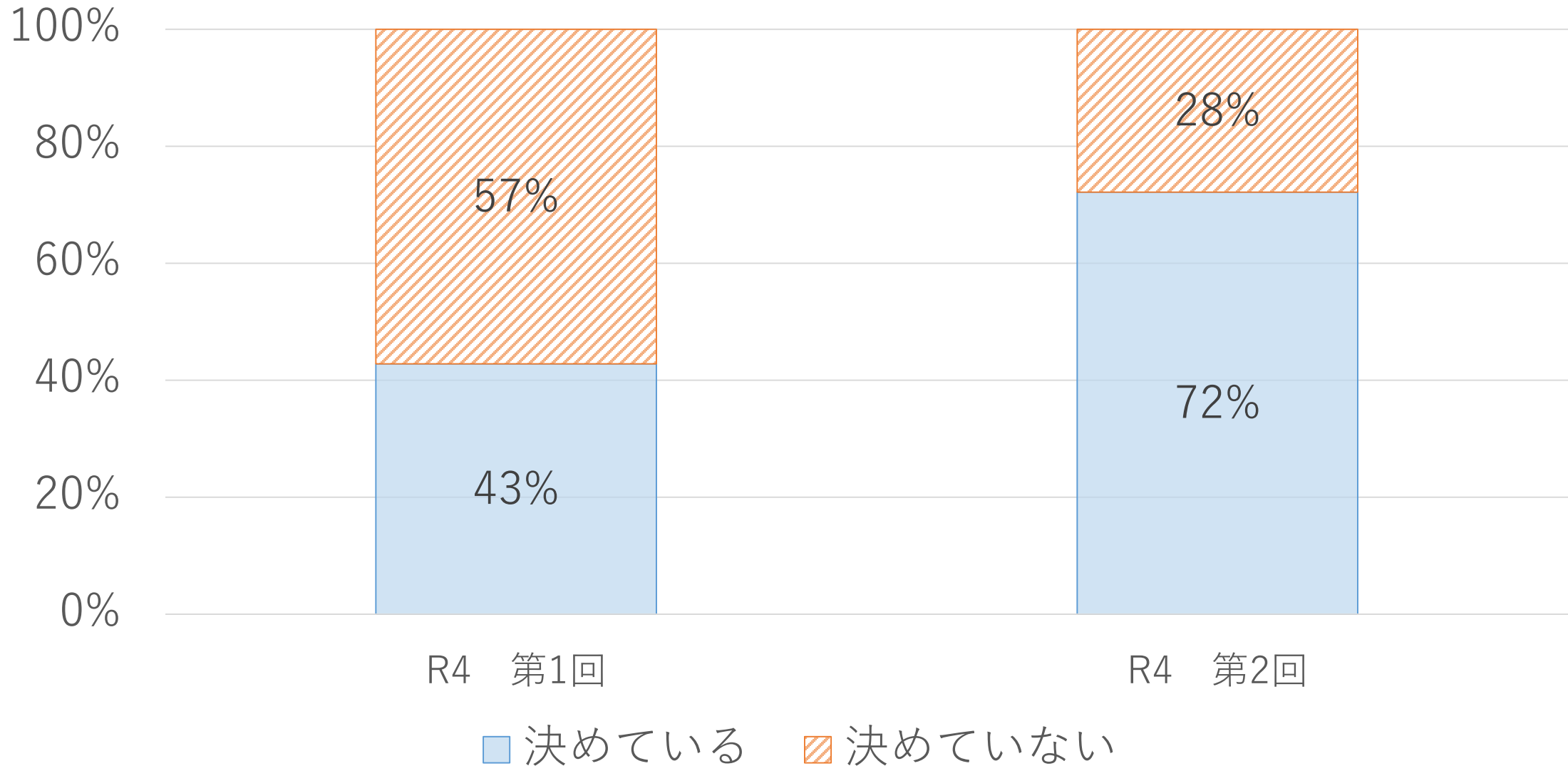
# 1-③ 地震が起きたときに、自分で判断して揺れから身の安全を守ることができる。



# 1 - ⑤ 1人での登下校時、地震が起きたときに、 避難する安全な場所を知っているか。

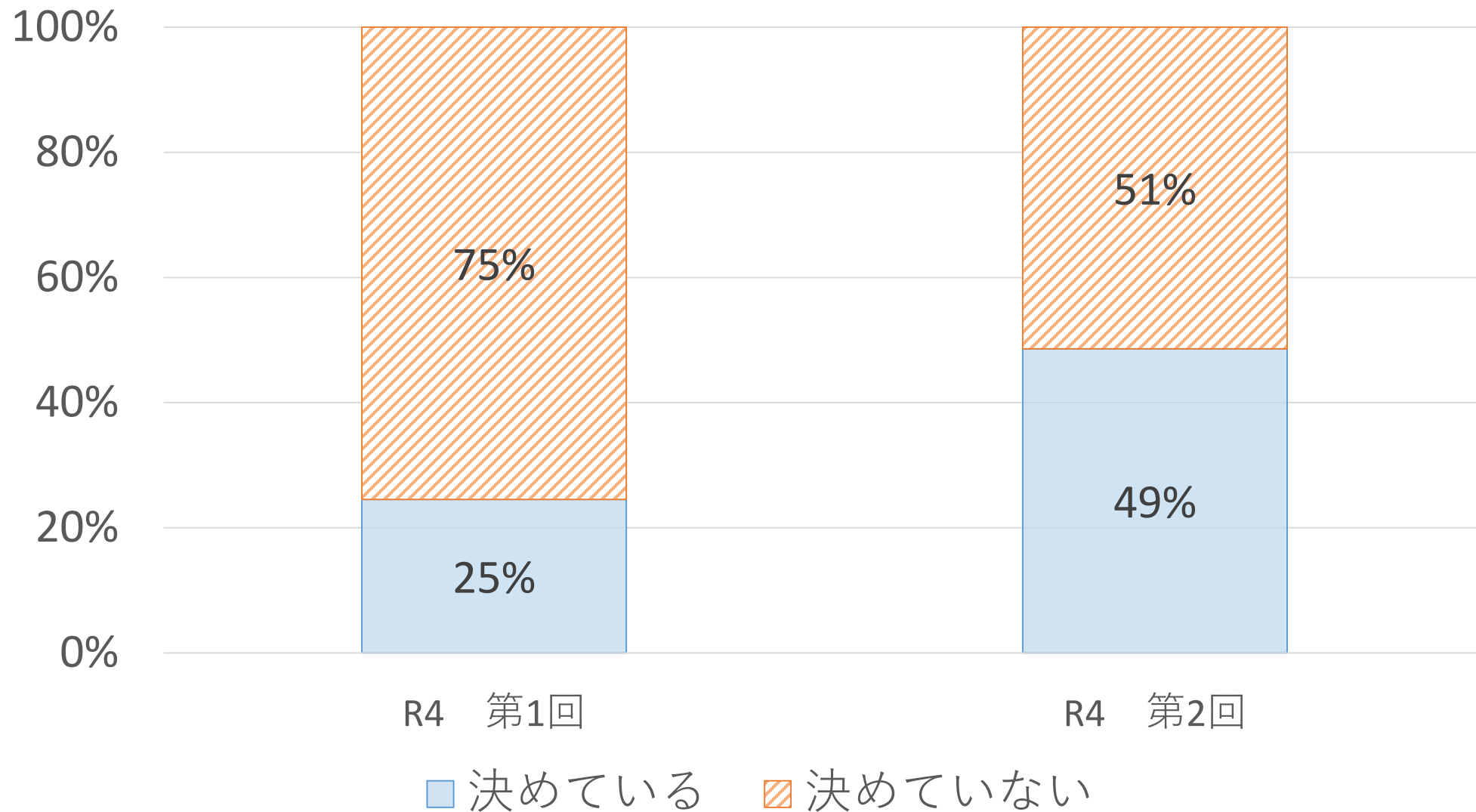


# 1 - ⑥ 地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めていますか。

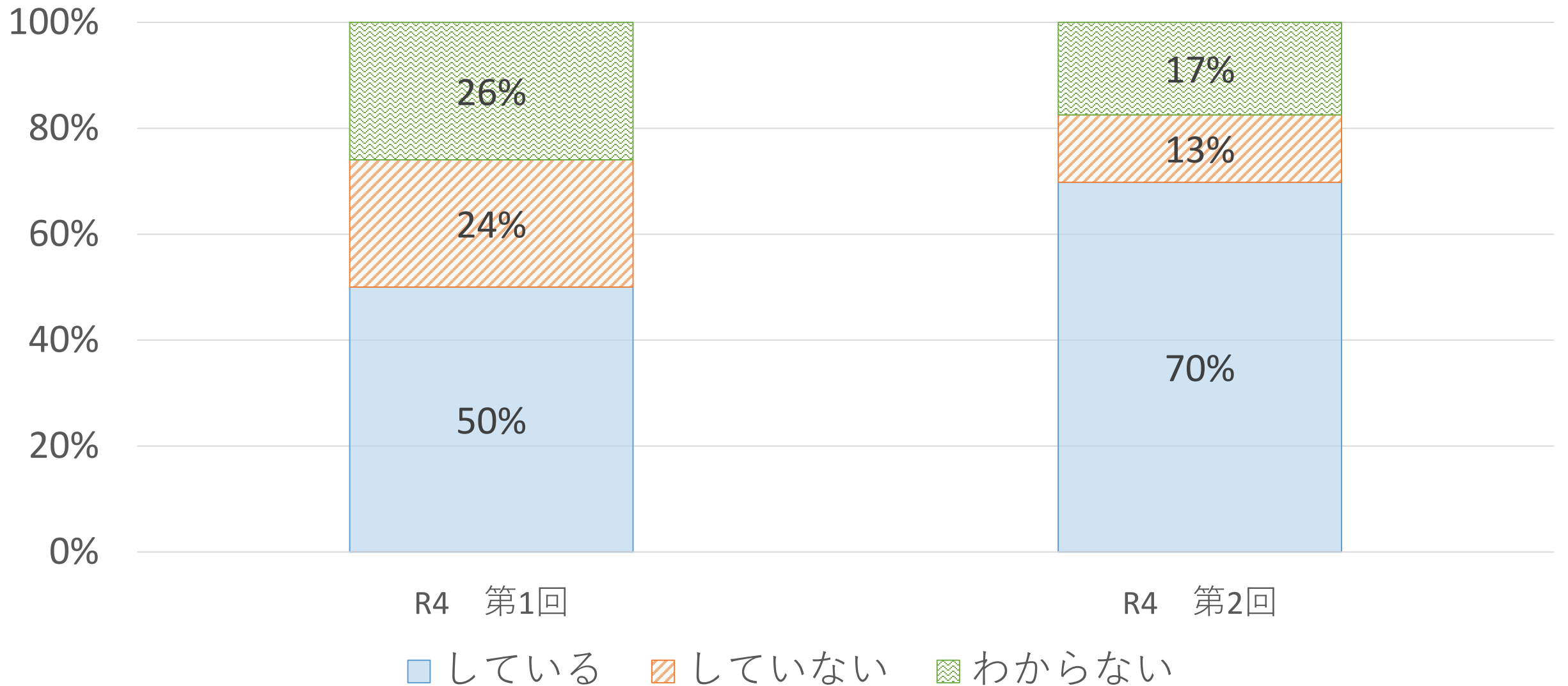




# 1-⑦ 地震などで避難した後に、家族との連絡の取り方を決めていますか。



# 1-⑧ あなた（あなたの家）は、地震に備えて準備をしていますか。



# 組織活動

## 第1回学校安全総合支援事業実践委員会

土佐市警察署

土佐市消防本部

土佐市防災対策課

土佐市教育委員会

高知県教育委員会

自主防災組織 地域学校協働本部

地域青少年育成土佐市民会議

民生児童委員 蓮池小学校PTA

### 【協力校】

高岡第一小学校 高石小学校



## System of school safety



## 学校安全の体系

# 安全管理

- ・ 様々な状況下を想定した避難訓練

① 通常の避難訓練

② 通常の避難訓練 +  
点呼時に児童不在

(学級担任に予告なし)

③ 通常の避難訓練 +  
余震発生で再行動

System of  
school safety



学校安全の体系

# 安全管理

- ・ 危機管理マニュアルの改訂
- ・ 様々な状況下を想定した避難訓練
- ・ 毎月の校内安全点検
- ・ 三木の日（パトロール隊）



System of  
school safety



学校安全の体系

# 安全教育の日常化への取組

## 学校安全計画の見直し

- 安全教育実現の手法の開発
- 指導の工夫改善

Life safety



生活安全

Traffic safety



交通安全

Disaster safety



災害安全

System of school safety



# 安全教育の日常化への課題

何を身に付け、何ができる自分になったか

Life safety



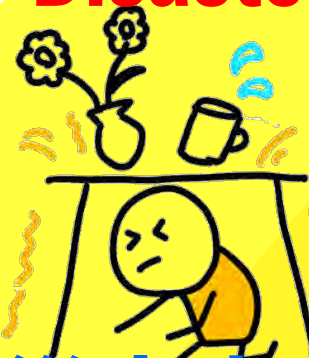
生活安全

Traffic safety



交通安全

Disaster safety



災害安全

System of school safety

安全教育

組織活動

安全管理

# 指導事項確認票

## 自らの命を守るために必要な資質・能力の発達段階ごとの体系表

いかなる状況でも、自分の命を守ることが大前提です。その上で、危険回避に応じて身に行けることを記載しています。

### 災害安全（震災） 南海トラフ地震から「自分の命を守る」

～南海トラフ地震発生時の危険を理解し、日頃から備え、安全に行動することができる～

#### 判定の基準

- …当該学年での「履修・未履修」を問わず、日常生活場面やアンアード結果等で「ある程度履修」していると見取った場合。  
 【「履修する」＝「複数の具体的な場面が思い浮かぶ」又は、「把握とするとノート・アンアード結果等のデータが存在している。」】
- △…当該学年で「履修済み」だが、「修得の判断材料に欠ける」と感じる場合。
- ×…当該学年で「未履修」であり、且つ「修得判断の材料に欠ける」と感じる場合。

		1年		2年		3年		4年		5年		6年			
震災	①地域に起こる災害を知る	・自分の住む地域で発生する災害を知っている。	△	・自分の住む地域で発生する災害を知っている。	○	・南海トラフ地震が発生する災害の種類や自分の住む地域の被害を知っている。	△	・南海トラフ地震が発生する災害の種類や自分の住む地域の被害を知っている。	△	・南海トラフ地震の基礎知識を理解することができる。	○	・南海トラフ地震の基礎知識を理解することができる。	○		
		・南海トラフ地震が発生した場合は、津波浸水想定区域では、地震の後は、津波がくることを理解している。	○	・南海トラフ地震が発生した場合は、津波浸水想定区域では、地震の後は、津波がくることを理解している。	○	・南海トラフ地震の特徴について理解している。 【強い揺れ、長い揺れ発生する】	○	・南海トラフ地震の特徴について理解している。 【強い揺れ、長い揺れ発生する】	○	・南海トラフ地震の特徴について理解している。 【強い揺れ、長い揺れ発生する】	○	・過去の南海地震と被害について理解している。	△	・過去の南海地震と被害について理解している。	△
	②必ず助かるための知恵と備え	・地震の揺れから身を守る方法を知っている。（ガスや落下物から身を守る）	○	・地震の揺れから身を守る方法を知っている。（ガスや落下物から身を守る）	○	・津波の特長について理解している。（近づくくらいに水が来たから動けなくなる・スピードが速い・降り直し襲ってくる・川をさかのぼる）	△	・津波の特長について理解している。（近づくくらいに水が来たから動けなくなる・スピードが速い・降り直し襲ってくる・川をさかのぼる）	△	・津波の特長について理解している。（近づくくらいに水が来たから動けなくなる・スピードが速い・降り直し襲ってくる・川をさかのぼる）	△	・避難の地場発生に備えることができる。	△	・避難の地場発生に備えることができる。	△
		・屋外で揺れを感じた時は、壁や建物から離れ自分の命を守ることを理解している。	○	・屋外で揺れを感じた時は、壁や建物から離れ自分の命を守ることを理解している。	○	・津波から避難する前に、津波の危険を知り、避難場所を知ることができる。	△	・津波から避難する前に、津波の危険を知り、避難場所を知ることができる。	△	・津波から避難する前に、津波の危険を知り、避難場所を知ることができる。	△	・避難の地場発生に備えることができる。	△	・避難の地場発生に備えることができる。	△
	③みんなで助かるための備え	・日頃から、基本的な生活習慣を身に付け、自分の身の回りのことは自分でできる。	△	・日頃から、基本的な生活習慣を身に付け、自分の身の回りのことは自分でできる。	○	・学校等で学習したことを家庭に話し、日頃から災害について家族で話し合っている。	△	・学校等で学習したことを家庭に話し、日頃から災害について家族で話し合っている。	△	・学校等で学習したことを家庭に話し、日頃から災害について家族で話し合っている。	△	・家族とともに、避難の防災対策を考えた実行することができる。	△	・家族とともに、避難の防災対策を考えた実行することができる。	○
		・学校等で学習したことを家庭に話し、日頃から災害について家族で話し合っている。	△	・学校等で学習したことを家庭に話し、日頃から災害について家族で話し合っている。	△	・自分や家族の避難場所や集合場所を事前に確認している。	○	・自分や家族の避難場所や集合場所を事前に確認している。	○	・自分や家族の避難場所や集合場所を事前に確認している。	○	・自分や家族の避難場所や集合場所を事前に確認している。	○	・自分や家族の避難場所や集合場所を事前に確認している。	○
	④揺れから自分を守る	・揺れを感じたら（緊急地震速報が鳴いたら）、落ちたてない、倒れてこない、移動してない場所を守ることができる。	○	・揺れを感じたら（緊急地震速報が鳴いたら）、落ちたてない、倒れてこない、移動してない場所を守ることができる。	○	・緊急バス、人が大勢いる施設等では、落ち置いて、その場所に適切な避難行動をとることができる。	△	・緊急バス、人が大勢いる施設等では、落ち置いて、その場所に適切な避難行動をとることができる。	△	・緊急バス、人が大勢いる施設等では、落ち置いて、その場所に適切な避難行動をとることができる。	△	・自宅にいても、避難の状況に応じて避難行動をとることができる。	△	・自宅にいても、避難の状況に応じて避難行動をとることができる。	○
		・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、できるだけ早く、高いところ（緊急避難場所）へ避難することができる。	△	・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、できるだけ早く、高いところ（緊急避難場所）へ避難することができる。	△	・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、一人でいても、自分で判断してすぐに避難することができる。	△	・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、一人でいても、自分で判断してすぐに避難することができる。	△	・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、一人でいても、自分で判断してすぐに避難することができる。	△	・緊急地震速報について、学校設置の機材、テレビ、ラジオ、携帯電話等の告知音の違いを知り、どの音でも避難行動をとることができる。	△	・緊急地震速報について、学校設置の機材、テレビ、ラジオ、携帯電話等の告知音の違いを知り、どの音でも避難行動をとることができる。	△
	⑤津波からの迅速な避難	・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、できるだけ早く、高いところ（緊急避難場所）へ避難することができる。	△	・強い揺れや長くても長い揺れを感じたら、できるだけ早く、高いところ（緊急避難場所）へ避難することができる。	△	・沿岸地域（津波の到達が早いことが予想される地域）では、動けるくらいの揺れになったらできるだけ早く近くの高台へ避難することができる。	○	・沿岸地域（津波の到達が早いことが予想される地域）では、動けるくらいの揺れになったらできるだけ早く近くの高台へ避難することができる。	○	・沿岸地域（津波の到達が早いことが予想される地域）では、動けるくらいの揺れになったらできるだけ早く近くの高台へ避難することができる。	○	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△
		・下流下中に地震が発生しても、自分で避難することができる。	○	・下流下中に地震が発生しても、自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△
⑥いつ、どこにいても自分を守る	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・津波が想定される場所では、今のところから、一番近くの津波避難場所から自分で避難することができる。	△	・校区の津波避難場所を知っており、どこにいても安全に避難することができる。	○	・校区の津波避難場所を知っており、どこにいても安全に避難することができる。	○	
	・揺れの後は、火災や浸水状況、土砂災害の可能性を知っている。（揺れの後は、岸の上や下から揺れるなど）	△	・揺れの後は、火災や浸水状況、土砂災害の可能性を知っている。（揺れの後は、岸の上や下から揺れるなど）	△	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△	
⑦二次災害への対応	・揺れの後は、火災や浸水状況、土砂災害の可能性を知っている。（揺れの後は、岸の上や下から揺れるなど）	△	・揺れの後は、火災や浸水状況、土砂災害の可能性を知っている。（揺れの後は、岸の上や下から揺れるなど）	△	・揺れの後は、津波や火災の他にも浸水、浸水状況や土砂災害等が起こることも想定して行動することができる。	△	・揺れの後は、津波や火災の他にも浸水、浸水状況や土砂災害等が起こることも想定して行動することができる。	△	・揺れの後は、津波や火災の他にも浸水、浸水状況や土砂災害等が起こることも想定して行動することができる。	△	・山崩れや、川の水が濁るなどの土砂災害の動向となる現象を理解し、避難することができる。	△	・山崩れや、川の水が濁るなどの土砂災害の動向となる現象を理解し、避難することができる。	△	
	・下流下中に地震が発生しても、自分で避難することができる。	○	・下流下中に地震が発生しても、自分で避難することができる。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・土砂崩（山崩れ）からは、川の流れに直向きに避難することを知っている。	△	・土砂崩（山崩れ）からは、川の流れに直向きに避難することを知っている。	△	
⑧助ける人になるための行動	・日頃から、地域の中で自分から挨拶をする。	△	・日頃から、地域の中で自分から挨拶をする。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・正しい防災情報を入念し、早く避難することができる。	△	・正しい防災情報を入念し、早く避難することができる。	△	
	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・火災を想定したら、できるだけ早く大勢の人の知らず、奥りにいる物のない高い公共施設へ避難することを知っている。	○	・避難行動要支援者や要配慮者など、災害時に自ら避難することが困難な人がいることを理解し、地域の状況を知っておく。	△	・避難行動要支援者や要配慮者など、災害時に自ら避難することが困難な人がいることを理解し、地域の状況を知っておく。	△	
⑨みんなで生き延びるための知恵と技	・日頃から、我慢したり、みんなで協力したりして、自分でできることを行う。	△	・日頃から、我慢したり、みんなで協力したりして、自分でできることを行う。	△	・災害後の生活の様子を知り、避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力することや、自分でできることを一緒に行う。	△	・災害後の生活の様子を知り、避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力することや、自分でできることを一緒に行う。	△	・災害後の生活の様子を知り、避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力することや、自分でできることを一緒に行う。	△	・「災害対応ダイヤル117」の活用など、予め決めていた方法で避難行動をとることができる。	△	・「災害対応ダイヤル117」の活用など、予め決めていた方法で避難行動をとることができる。	△	
	・日頃から、我慢したり、みんなで協力したりして、自分でできることを行う。	△	・日頃から、我慢したり、みんなで協力したりして、自分でできることを行う。	△	・避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力することや、自分でできることを一緒に行う。	△	・避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力することや、自分でできることを一緒に行う。	△	・避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力することや、自分でできることを一緒に行う。	△	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△	・避難した場所の状況に応じて、より高い所への避難を判断することができる。	△	
⑩地域社会の一員としての心構え	・自分のことは自分でできるようにする。	○	・自分のことは自分でできるようにする。	○	・地域の防災に関わっている人の働きを知り、自分のできることを考え行動することができる。	△	・地域の防災に関わっている人の働きを知り、自分のできることを考え行動することができる。	△	・地域の防災に関わっている人の働きを知り、自分のできることを考え行動することができる。	△	・避難行動要支援者や要配慮者など、災害時に自ら避難することが困難な人がいることを理解し、地域の状況を知っておく。	△	・避難行動要支援者や要配慮者など、災害時に自ら避難することが困難な人がいることを理解し、地域の状況を知っておく。	△	
	・避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力して生活することができる。	△	・避難生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで行くなど、協力して生活することができる。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・自分の住む地域の人と日頃から積極的に挨拶するなど、日頃から顔見知りになしておく。	△	・学校の地域の避難訓練に家族と一緒に参加し、地域の防災について考え行動することができる。	△	・学校の地域の避難訓練に家族と一緒に参加し、地域の防災について考え行動することができる。	△	



# 安全教育の日常化への課題

何を身に付け、何ができる自分になったか

- ・ 安全な行動を選択することができ、児童の育成
- ・ 実現可能な安全教育モデルの構築

Life safety



生活安全

Traffic safety



交通安全

Disaster safety



災害安全

System of school safety



# 安全教育の日常化

何を身に付け、何ができる自分になったか

凡事徹底，凡事一流をめざして

児童にとって、安全文化が日常のごく当たり前のものに

Life safety



生活安全

Traffic safety



交通安全

Disaster safety



災害安全

System of school safety



# 安全教育の日常化

何を身に付け、何ができる自分になったか

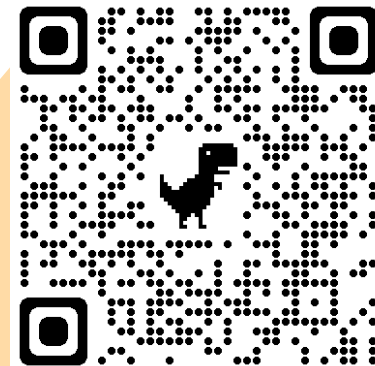
凡事徹底，凡事一流をめざして

児童にとって，安全文化が日常のごく当たり前のものに

蓮池小学校 交通安全マスター



令和4年度  
蓮池小学校の取組 スライドショー



# 学校安全教室の推進

令和5年度予算額(案) 35百万円  
(前年度予算額 35百万円)

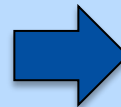


文部科学省

## ○安全教育上の課題

【委託事業、都道府県・指定都市教育委員会対象、平成15年度事業開始】

- 様々な計画やマニュアルが整備されつつも必ずしも**実効的な取組**に結びついていない
- 児童生徒等や学校、地域の実態及び児童生徒等の発達段階**に応じた**取組**の推進が必要
- 地域・学校設置者・学校・教職員間において**学校安全の取組内容や意識**に差がある
- SNSに起因する犯罪、性犯罪・性暴力等**現代的課題への対応**も必要



**教職員等の安全教育における指導力の向上等が必要**



## ○都道府県等における教職員等への研修の実施等

※「第3次学校安全の推進に関する計画」の内容を盛り込みつつ実施

### ・安全教育の指導者の養成

学校安全教室の講師となる教職員等に対する指導法等の講習会を実施

#### 防犯教室講習会

- 不審者侵入時の対応など、学校における防犯対策
- 登下校時の危険と対処方法に関する指導
- 危険予測・回避能力等を育むための指導
- 学校における防犯対策 等



#### 防災教室講習会

- ロールプレイングの導入、安全マップの作成方法
- 熱中症対策と感染症対策の両立
- 災害発生時の適切な判断(正常性バイアスを含む)と避難
- 学校や地域の実情に応じた防災マニュアルの作成 等



#### 交通安全教室講習会

- 登下校の安全確保のポイント、通学路合同点検のチェックポイント
- 被害者・加害者にならないための交通安全教育
- 自転車・二輪車等通学手段に応じた指導方法
- 関係団体や外部講師による講習会 等



### ・現代的課題への対応

教職員等の研修・訓練の充実

- 教職員のための学校安全e-ラーニングの活用
- 様々なリスクを想定した危機管理マニュアルの作成・見直し
- SNSに起因する犯罪や性犯罪等への対策
- ヒヤリハット事例の活用、子供の視点を加えた安全点検の手法の確立 等



### ・教職員等の安全対応能力の向上

事故等発生時の初期対応能力等向上のための講習会を実施

#### 事故対応に関する講習会

- 事後対応等の学校の危機管理の在り方に関すること
- 第三者委員会などの検証組織の必要性・在り方に関すること 等

#### 心肺蘇生法実技講習会

- 蘇生法訓練用人体模型(シミュレーター)を用いた実技講習
- AEDを用いた実習を含む一次救命措置(BLS)の実技講習 等



<リーフレット>  
「たいせつないのちとあんぜん」

### ・リーフレットの作成・配布

小学校新1年生向けのリーフレット

- 防犯、防災、交通安全に関する注意事項をクイズ形式で学べるリーフレット「たいせつないのちとあんぜん」を作成し、全国の小学校新1年生全員に配布



## ○期待される成果

**児童生徒等の障害や重度の負傷を伴う事故を減少させる**



**児童生徒等が安全に関する資質・能力を身に付ける**



**児童生徒等の死亡事故の発生件数を限りなくゼロにする**

# 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

令和5年度予算額（案） 338百万円  
（前年度予算額 338百万円）



【補助事業（補助率：国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担）、実施主体：都道府県及び市町村、平成17年度事業開始】

## 背景・課題

学校や通学路の安全確保に向け、昨今の児童生徒の尊い命を奪う交通事故・事件の発生も踏まえ、**スクールガード・リーダー等の増員による見守り活動の充実、スクールガード等のボランティアの養成・資質向上の促進、警察や保護者、PTA等との連携の下で見守り体制の一層の強化が必要とされている。**

## 事業内容

### スクールガード・リーダーの育成支援

- スクールガード・リーダーの資質を備えた人材（警察官OB・教職員OB・防犯協会役員等）に対する**育成講習会の実施**

### スクールガード・リーダーに対する活動支援

- スクールガード・リーダーによる指導、見守り活動に対する**謝金**、各学校を定期的に巡回するための**旅費等の補助**
- 学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの**連絡会等の開催**を支援、**装備品の充実**

スクールガード・リーダー育成講習会やスクールガード養成講習会の開催に係る経費を補助し、**見守りの人材確保と質の向上**



### スクールガード（ボランティア）の養成・資質向上

- 通学路で子供たちを見守るスクールガードの防犯等に関する知識や非常時の対応策等を身に付けさせるための**養成講習会の実施**
- 活動の参考となる資料を配布することによる見守りの質の向上

### スクールガード増員による見守りの強化及び活動に対する支援

- スクールガード等を募集するための**広報紙等の作成費用の補助**
- 「登下校防犯プラン」等に基づく、登下校時のパトロールや地域の連携の場構築など**防犯活動への支援**
- 子供の見守り活動に係る**帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助**

スクールガード・リーダーがスクールガードに対して、**見守り活動・警備上のポイントや不審者対応等について指導・助言**

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築



## 学校安全の推進に向けた課題

【委託事業、都道府県・指定都市教育委員会対象、平成24年度事業開始】

- ・学校において様々な計画やマニュアルが作成されているが**実効的な取組に結び付いていない**。
- ・地域、学校設置者、学校教職員の学校安全の**取組内容や意識に差がある**。
- ・東日本大震災の記憶を風化させることなく、今後発生が懸念される大規模災害に備えた**実践的な防災教育を全国的に進めていくことが必要である**。
- ・地域の多様な主体と連携・協同し、子供の視点を加えた安全対策を推進する必要がある。

## 「第3次学校安全の推進に関する計画」(令和4年3月閣議決定)に基づく取組を推進

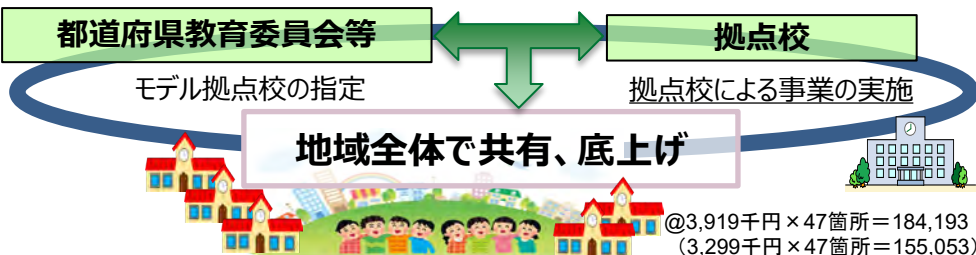
1. 組織的取組	2. 関係機関との連携	3. 安全教育	4. 安全管理	5. 横断的事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画のPDCAサイクルの確立</li> <li>・学校安全に係る中核的職員の育成配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクール等の仕組みの活用</li> <li>・関係機関と連携した通学時の安全確保や防犯対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育</li> <li>・体験活動やデジタル技術を活用した安全教育</li> <li>・幼児期、特別支援学校の取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の視点を加えた安全点検</li> <li>・重大事故の予防のためのヒヤリハット事例の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全情報の見える化</li> <li>・通学路の安全対策等の好事例の実情把握</li> <li>・設置主体(国公立)に関わらない取組の推進</li> <li>・学校安全を意識化の機会を設定(「学校安全の日」等)</li> </ul>

### セーフティプロモーションスクール(SPS)の考え方※を取り込み、全国的に学校安全を推進していく。

※安全教育・安全管理・組織活動に係る計画の策定、安全担当中核教員の設置、関係機関との連携、評価改善の実施など、継続的に学校安全に取り組む。

### ① 地域における学校安全の推進 R5予算額(案) 184百万円(155百万円)

計画に基づくモデル的取組を各地域で実施し、その事例、成果等を地域全体で共有。地域全体の学校安全の底上げと裾野の拡大を図る。



### ② 学校安全推進に係る取組の支援 R5予算額(案) 53百万円(49百万円)

各学校(国公立・私立含む)に対し、学校安全に係る研修の実施、専門家の派遣等様々な支援を行い、全国の学校安全の推進を図る。

#### 学校安全実践力向上セミナー等の開催

②6,396千円×2団体=52,791  
 (24,650千円×2団体=49,300)

・例) 被災地における現地研修(伝承施設や語り部等)の活用等による研修充実  
 VRやAR等のデジタル技術を活用した研修

#### SPSの考え方を取り入れた取組の支援(専門家等の派遣)

・PDCAサイクルに基づく学校安全計画や危機管理マニュアルを見直すアドバイザー派遣等  
**デジタルコンテンツの作成**

・学校安全に関する事項が学べる「学校安全 e-ラーニング」や、実効性のある防災教育につながる小学校版「防災教育の手引き」などのコンテンツをこれまで作成。今年度は学校安全担当の経験が浅い教員や、学校安全計画や危機管理マニュアルが未作成の学校向けに学校安全関連の基礎的な事項を記載したコンテンツを作成

### ③ 安全教育の推進に関する調査研究 R5予算額(案)66百万円(50百万円)

- ・学校管理下における事故防止に関する調査研究 学校の安全点検に関する実証研究
- ・安全教育の質向上に向けた調査研究 実践的な防災教育や避難訓練に活用できる「防災教育の手引き(中学校・高等学校版)」等の開発
- ・学校安全の推進に関する計画に係る調査研究 学校安全計画に係る取組状況調査結果の分析(学校安全情報、SPSに係る取組等の見える化)

青少年のインターネット依存を中心とした各種の依存症等や、インターネットを介した犯罪被害が社会問題となっている。また、GIGAスクール構想推進や新型コロナウイルス感染拡大により社会全体のデジタル化が進展し、青少年がインターネットに接する機会が一層多くなることが見込まれる。

このため、インターネット等の適切な使用やインターネット依存を中心とした各種の依存症等の理解・予防について、保護者と青少年への啓発等を推進する。

【委託事業、平成16年度事業開始】

## ネット上の有害環境から子供を守るための推進体制の構築事業

### 【ネットモラルキャラバン隊】

- 都道府県PTAと連携し、保護者を対象に全国各地で情報モラルやネットとのかかわり方、フィルタリングの推進、家庭でのルール作り等を啓発するシンポジウムを開催。
- 全国的な取組としてフォーラムを開催。有識者によるトークセッションやパネルディスカッションを実施。各地域における成果を全国に発信。

(1) 積算 : ①シンポジウム 4,061千円 × 1団体  
②フォーラム開催 784千円

(2) 委託先: 民間団体



### 【ネット対策地域モデル事業】

- 自治体等が実施する、情報モラル等に係る啓発活動やシンポジウムの実施を支援(自治体等に委託)

(1) 積算 : 1,570千円 × 2地域  
(2) 委託先: 民間、地方公共団体



## 青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業

(1) 積算 : 2,559千円 × 3団体  
(2) 委託先: 民間、地方公共団体

- 青少年教育施設を活用し、ネット依存傾向の青少年を対象とした自然体験や宿泊体験プログラムの実施を通じたネット依存対策を推進。
- 体験活動等を通じた規則正しい生活の指導。
- メンターによる参加者に付き添った指導。



## 依存症予防教育推進事業

- 各地域においてネット依存やその他の依存症予防に関する啓発講座を実施する「依存症予防教室」の開催等を実施(自治体等に委託)。
- 全国的な啓発として「依存症の理解を深めるための普及啓発シンポジウム」を開催。

(1) 積算: ①シンポジウム 801千円  
②依存症予防教室 1,128千円 × 5地域  
(2) 委託対象先: 民間、地方公共団体

